

多可町立 和紙博物館壽岳文庫所蔵

寿岳文章和紙コレクション料紙調査研究

東京大学史料編纂所一般共同研究報告書
(2019 年度～2021 年度)

2022 年 3 月

研究代表者 湯山賢一

例 言

本書は、東京大学史料編纂所一般共同研究『多可町立和紙博物館 壽岳文庫所蔵 寿岳文章和紙コレクション料紙調査研究』の報告書である。

【調査体制】

研究代表者

湯山賢一（神奈川県立金沢文庫・文庫長／東大寺ミュージアム・館長）

共同研究者

大川昭典（前近代日本料紙研究者・元高知県紙産業技術センター技術部長）

本多俊彦（金沢学院大学文学部・准教授）

富田正弘（富山大学名誉教授）

安平勝利（多可町立那珂ふれあい館 館長）

村井祐樹（東京大学史料編纂所）

及川 亘（東京大学史料編纂所）

石津裕之（東京大学史料編纂所）

高島晶彦（東京大学史料編纂所）

【協力機関】

多可町立和紙博物館 壽岳文庫

多可町立杉原紙研究所

【調査期間】

2019 年度～2021 年度

目 次

はじめに	1
I 調査結果の概要(湯山)	2
II 寿岳文章和紙コレクション調査データ表(データ入力 安平)	7
付 寿岳文章和紙コレクション調査データ表に見える近代和紙(富田)	28
III C 染色液検査結果顕微鏡写真(検査及び顕微鏡写真撮影 大川・高島)	31
付 繊維形態及びC染色液による呈色(大川)	52

はじめに

寿岳文章氏が昭和 12 年の秋、支那事変勃発の年から、凡そ 3 年に亘り、全国のめばしい紙漉村を夫妻で行脚され、蒐集したコレクションの成果は、昭和 18 年に『紙漉村旅日記』私家版として上梓された。

当時は大東亜戦争下にあり、「さなきだに衰退の一途を辿っていた手漉紙業ゆえ…わが国が戦争目的を完遂した暁には、この由緒正しい手技、この尊い伝統の工芸は正しい姿に於て、たくましく復活してほしいものである」（『紙漉村旅日記』より）と、寿岳氏がその復活を切望した手漉和紙の世界は、戦後の高度経済成長下における伝統文化破壊の中で、その存続自体が風前の灯となっている。手漉和紙の衰退を、和紙をとりまく世上の変質で論じても詮無いものがあり、むしろ、明治以降の洋紙に対抗するために手漉和紙が行った根本的な素材の変質がもたらしたのも少なくなかったのではなかろうか。こうした点を遺品上から明確に示すものが寿岳コレクションである。

新村出・寿岳文章氏の杉原紙発生地の研究によって、兵庫県多可郡多可町に杉原紙復活のために設立された杉原紙研究所に、平成 12 年寿岳氏の和紙関係資料が町に寄贈されたことを契機に併設された和紙博物館「寿岳文庫」が所蔵する寿岳コレクション約 780 点のうち、160 点について、本調査を行った。調査は安平がコレクションの管理、出納と全体の集計を行い、富田・湯山が法量以下の計測と透過光と顕微鏡（百倍）による調査、大川が現場で同様にサンプル採取と C 染色液分析による所見、高島が顕微鏡写真等の資料撮影分析を行ったものである。

I 調査結果の概要

現在、我々が知ることのできる抄紙技術は、そのすべてが江戸時代以降のものであり、現代に伝わる抄紙法をもって。中世以前の紙漉きを論じることには慎重でなければならない。抄紙技術は時代時代によって変遷があり、殊に 19 世紀にもたらされた木材パルプを用いる洋紙に対して、和紙という言葉が生まれた経緯に大きな変革をみることができる。

西洋パルプ技術に対抗するため、吉井源太翁によって大型簀桁で揺りの大きい技法で漉く抄紙法の導入、三極原料の普及、紙質改良等が行われたことは、和紙歴史上に大きな転換点となった。特に明治後期から円網抄紙機を用いてパルプやマニラ麻などを原料とする機械漉が始まったことは、手漉和紙の世界でも、紙料処理工程で効率のよい抄紙機の導入が行われるようになっていった。

寿岳コレクションの最大の特徴は、こうした時代背景の中で作られた和紙遺品を全国的規模で蒐集したところにあり、その内容は近世の抄紙系統を継承するものと、近代の技術変革の実態を具体的に示す遺品に大別することができる。

以下、調査対象とした 160 件のうちの代表的な 42 件を選び、一覧表の番号順に調査所見を中心に、分析結果を記す。

- a 5. 白石檀紙は、楮 100%、填料の米粉多く、近世の奉書に皺をつけたもの。繊維の一部に截断面がみえる。近世奉書の系統をひく近代の米粉入檀紙。
- a 6. 白石の紙は、楮 100%、填料無、水洗良好、十文字漉きにより坪量が高い。東大寺修二会の紙衣に用いられる。近世の白石紙衣を継承。
- a 19. 程村は、楮に填料の米粉多く、繊維束なし、塵取り良く、地合良好の上質紙。近世杉原紙の正系統の程村紙。
- a 20. 五把（原紙）は、楮 100%、填料の米粉多く、繊維束なし。塵取り良く、地合良好の「用紙」と称する投票用紙。近世杉原の正系統の程村紙。
- a 22. 程村（投票用紙）は、楮を荷性ソーダ煮熟で白さを担保。米粉並。近世杉原の系統の近代杉原の程村紙。
- b 25. 程村は、楮のみを用いた近世杉原系の西の内にパルプを加え、白さを保つ、近代の改良程村紙。
- a 29. 障子紙は、楮 100%、填料は澱粉米糊で、粘は黄蜀葵。紙料処理も並以下の下手の障子紙。手漉を生業とするものではなく、近世以来の農閑期手漉の典型を示すもの。
- a 31. 小国紙は、楮 100%、粘は黄蜀葵。塵取り以下紙料処理良好。障子紙の並の上。近世の障子紙のままに作られている。

- b 39. 板奉書は、パルプを主に藁を楮に交え、米粉を加える。「官報の漉返しに米糊を入れ、葬式の時の切型などに使ふ粗紙。味は捨て難い」（『紙漉村旅日記』より。以下『紙漉』と略称）とあり、近代の再生和紙の典型。
- b 44. 改良半紙は、「三極を主とし、故紙や桑皮を配合」（『紙漉』）の笠井伝造製作。楮にパルプ、三極を加えたもの。三極原料で改良した改良半紙の一例。
- b 45. 障子紙は、「乾燥機乾しではあるが、石州半紙風の障子紙を美しいと思った。流し漉きが主」（『紙漉』）の村松徳右衛門製作。楮にパルプ混入の下手の障子紙。近代の障子紙の典型。
- a 46. 障子紙は、楮 100%、障子紙の並。市川で作られた近世障子紙系統の典型。
- a 48. 典具帖は、「アメリカへわたって珈琲こしや、タイプライタ用原紙になると言ふ。純楮。竹簀は村で作り、ツキツケで紗を張って簀目を隠す紗ズキである」（『紙漉』）の太田万右衛門製作。楮 100%で填料無、水洗良好、揺りの大きい流漉き。タイプライター用紙の典型であり。現代典具帖の祖形。
- a 49. 鉄筆原紙は、雁皮を紗漉きした謄写版原紙用。
- b 50. 美濃紙は楮（柔細胞が目立つ）にパルプを混入、白さは晒が良好に抛るもの。厚さ 0.12mm の薄美濃の典型。現代薄美濃紙の祖型。
- a 52. 青波森下は、楮 100%をソーダ灰煮熟。填料無。塵取り良好。揺り縦横。近代森下の典型。
- a 53. 青波森下は、楮 100%柔細胞あり。灰黄茶色。傘用料紙。「最も上質の純生漉森下。傘や合羽になる。原料の楮はほとんど茨城、長野、石川等他府県から来る。ビータは無く、カルキを用ゐず。昔は木灰で煮熟したのを曹達煮にし、ネベシにクレゾールを入れるくらゐ昔のままの漉方」（『紙漉』）の堀文治郎製作。近世の系譜を引く近代森下の典型。
- a 57. 傘紙は、楮で紙料処理、塵取りも並の下のごく普通の紙。「地楮。一枚簀の最も原始的な方法で漉いてゐる」（『紙漉』）の小林健太郎製作。農閑期紙漉きの典型。
- b 60. 塵紙は、パルプ、藁、楮等が交じる再生漉返塵紙。塵が長く入る。「伊賀塵紙と呼ばれ、傘紙にもこれを利用してゐる。この部落は塵紙を主として抄造する」（『紙漉』）の西本良之助製作。
- a 62. 鳥の子紙は、「雁皮の煮熟には、主として木灰を用ゐる。流し漉が主体だが、厚物は溜め漉になる。この村は昔から縦ユリのみ。越前ではなく名塩の系統だと主張してゐた。京都の経師屋で色紙や短冊に加工される」（『紙漉』）の成子午次郎製作。雁皮 100%で填料は透明で米粉より澱粉粒子が大きい木ネリ。近世の系譜を引く良質雁皮。

- b 69. 普通間似合は、パルプ、マニラ麻、稲藁、三桎等が交じる役所料紙を反故としたものに白土を入れた紗漉。「保健、衛生、襖紙、名塩間似合」の普通の名塩間似合紙。
- b 70. 普通間似合は、同上の原料に青土を入れた紗漉、「青二寸」「保健、衛生、襖紙、間似合」の普通の名塩間似合紙。
- b 73. 間似合は、雁皮にパルプ、三桎、藁を交え土入紗漉、竹簀一寸当り 22 本を数える。雁皮 100%でこの簀目では紙床取りができないので紗漉。典型的な近代名塩間似合紙。
- a 74. 「水荃」書簡用箋は「馬場氏は、箔打紙の書簡用箋への転出を思ひ立つ。雁皮は、この辺の山野に自生したもの。溜め漉。紙のきめ非常に緻密で上代様の仮名など書くに好適であろう」（『紙漉』）の馬場孝良氏の製作。雁皮 100%の紗漉泥間似合。塵取り十分の箔打上質紙。
- a 77. 「水荃」書簡用箋は、雁皮 100%に白土を入れ紗漉した上質間似合。近世の名塩鳥の子系統の上質間似合。
- a 78. 漆こし（吉野紙）は「菓子などを包む。漉きあげるなりすぐ干板に貼る。紙を重ねて水切しない」（『紙漉』）の国樺村昆布庄次郎製作。中世の吉野「やわやわ」の系統を引き、近世に他例のない漆漉し紙として珍重されたもの。楮 100%、紙料処理十二分で、一切夾雑物を排し、厚さ 0.05mm、密度 0.157 の極薄楮紙。
- b 91. 巻紙（耳付筋入）は、「三桎を主とし、苔を入れた巻紙など、中々味のある出来映えである」（『紙漉』）とみえる苔入巻紙の清水清勝の製造になる同系の巻紙。三桎にパルプを交えたものに楮の繊維束を配合し、全体に楮入りにみえる。楮から三桎への原料転換を含め、こちらには吉井源太指導の影響がみえる。
- a 102. 純桑皮紙は、桑のみを原料とした桑枝紙で、桑に弁柄と墨を加えて濃茶色に染めたもの。桑枝紙の遺例として珍しい。
- a 109. 雁皮紙は、出雲雁皮紙で昭和 43 年に人間国宝に認定される安部栄四郎製作になる雁皮 100%の上質紙。
- a 114. 箔合用紙は「純三桎、今もなほ楮と三桎とは、土地の有力な作物である。三桎だけで作る金箔の間紙が、京都、金沢、福井方面より盛んに需要された」（『紙漉』）とある鈴木竹蔵の製作。地産の三桎 100%で現在の箔合紙専門の紙郷の基となったことを示す遺品。
- b 115. 膏薬台紙は、「改良漉の遺風をうけ藁やパルプを混入し、カルキ漂白を行ふ。天日乾し。大判で厚みも相当あるから、材料と晒し方さへよければ、十分に書物の用紙としても活かされると思ふ」（『紙漉』）とみえる鈴木竹蔵の製作。楮、パルプ、藁入りに白土を加えたもの。伝統的箔合紙の地で、近代の和紙を工夫し

た典型である。

- b 116. 障子紙は、楮、パルプ、藁混合の近代障子紙の遺例。
- b 123. 柳原奉書は、「柳原奉書は椿の葉で擦り、全国一の称あり。越前よりもよいとさへ言はれた時代もある。今作ってゐるものは、パルプ混入」（『紙漉』）とみえる。楮にパルプを加え、填料の米粉は多く、白さ目立つ。近世奉書の系統がパルプ入りの近代奉書に転じた典型である。
- a 124. 徳地半紙は、楮 100%、填料米粉。徳地半紙は『新撰紙鑑』に「幅広ク色白シ」とある。近世杉原の系統。明治 6 年（1873）に請紙制が廃されて衰退したといわれているものが近代に残った稀な遺品。
- b 127. 障子紙は、楮と三桎をソーダ灰煮熟、水洗と塵取良好、繊維は縦によく流れ、地合良好で白い。近代障子紙の典型の一つ。
- a 134. 仙貨は「原料の楮は高岡郡のを使ふ。紙素に少量の米糊を入れ、ネリは梧桐。竹簀で漉き、成紙を簀から離すとき、縦を半分に折り重ねる。どんなに薄い紙でも折り重ねるよし。刷毛は手造りの藁のもの。干板は松」（『紙漉』）とみえるもの。楮 100%、填料米粉少、非繊維物質少ない。近世泉貨の姿を伝える。
- a 137. 典具帖紙。言上紙を上納していた成山の御用紙漉屋で作られたもの。楮 100%、紗漉き、厚さ 0.04mm、美濃伝来の近代土佐典具帖の代表例。
- b 138. 糊入四巾紙はパルプ過半に楮を加えた混合紙、填料米粉多く、近代の仙貨紙の典型。
- b 139. 改良小杉原は、楮・パルプ混合、填料米粉普通、近代小杉原の遺例。
- a 140. 言上紙は、「成山の御用紙漉屋から上納した言上紙などが一番立派なよし」（『紙漉』）とみえるもの。三桎、雁皮、楮混合、填料米粉少し、非繊維物質はみえるが紙料処理は良好。近世言上紙系の近代の言上紙である。
- b 147. 白塵は、「漆塗の干板」（『紙漉』）を伝来する宮地村で漉かれたもので、楮 100%の水洗良好の再生紙である。近世に奉書を漉いていたところで、近代は再生塵紙を漉いている。
- a 160. 提灯紙は「楮は日当山方面から来る。それへハトロンの切り屑をパルプ代りに混ぜる。粘着剤は木のり。煮るのはソーダ灰、昔は木灰か貝殻灰であった。雨天には乾燥器也使ふ。刷毛は棕櫚」（『紙漉』）の大内山良哉製作。楮 100%、水洗・塵取り良好で繊維縦に良く流れ、地合も良好。近世の提灯紙をソーダ灰煮熟した近代提灯紙の典型。

以上、瞥見した処では、a 印を付した 25 点が、近世抄紙の系譜を引いた伝統的な和紙の範疇に入るもので、この中には明治 15 年頃から行われるようになったソーダ灰

煮熟工程のものも含めている。b 印の 17 点は、洋紙に対抗する白さを意図に用いられたパルプ等の原料調合を含め、近代製紙上に変化した系統のものである。

a 印のうち、78.漆こし（吉野紙）は、その起源を中世の吉野やわやわ紙に求めることができるもので、近世の漆工芸に不可欠な漆こし紙の姿を、20 世紀にそのままに伝える遺品として特筆できるものである。6.白石の紙は、繊維の特徴、坪量の高さからその抄紙法も明確にみえるもので、これらが現在も東大寺修二会練行衆の紙衣として近世以来の姿を伝えていることがわかる。19.20.22.程村紙は、近世杉原の特徴をそのままに継承した近代の杉原に相当するものである。また、62.鳥の子紙は、抄紙工程を含め近世雁皮のままだに作られた優品である。a114.箔合用紙、b115.膏薬台紙、b116.障子紙は、いずれも箔合紙の紙郷の鈴木竹蔵の製作になるもので、伝統的な箔合紙から、パルプ、藁入の近代障子紙に至る多種多彩な紙を、時代の需要に応じて漉していたことが知られる遺品である。

b 印では、25.改良程村の様に、楮のみを原料にしていた近世の程村紙をより白さを保つためにパルプを加え、楮に対するパルプの比率によって和紙の白さを担保する工夫がなされたものが多くみえる。これが和紙の劣化を招き、衰退へとつながる時代の特徴を示すものであったことは、紛れもない事実である。また、39.板奉書に代表される様に、原料確保の容易さから役所文書反故を原料とする漉返し再生紙が多くみえるのも大きな特徴である。

例示した件数では a 印と b 印の比率が 6 対 4 となっているが、調査対象とした 160 点では群を抜いて b 印の方が多く、寿岳コレクションの対象となった昭和時代前半の手漉和紙が、圧倒的に近代和紙の時代であったことを物語っている。

本報告書は、調査で採取したデータを安平が入力したデータ表と、高島が撮影した顕微鏡写真掲載を主眼としたもので、これに調査結果の概要を湯山が、表と画像に必要な説明を大川、富田が行ったものである。

なお、寿岳コレクションは、寿岳氏自身が蒐集原本からサンプル見本の切り取りを行ったものであるところから、今回の調査に当たっては、寿岳文庫の許可を得て、原本の端部分から微量の繊維を採取し、繊維分析の専門家の大川が C 染色液検査を行い、高島が 200 倍の画像撮影を行ったことを、付記しておく。

Ⅱ 寿岳文章和紙コレクション調査データ表（第Ⅰ表・第Ⅱ表）

付：寿岳文章和紙コレクション調査データ表に見える近代和紙

【第Ⅰ表】

番号	県名	産地	紙漉技術者	紙名	形状	縦寸法	横寸法
1	岩手県	和賀郡十二箇村北成島	—	障子紙	耳折	36.3	94.5
2	岩手県	和賀郡十二箇村北成島	—	程村	裁断	33.2	48.6
3	岩手県	和賀郡中内村南成島	—	傘紙	耳付	33.8	90.2
4	宮城県	白石市鷹ノ巣	遠藤忠太郎	白石	切断	38.7	42.3
5	宮城県	白石市鷹ノ巣	遠藤忠太郎	白石檀紙	切断	5.0	12.7
6	宮城県	白石市鷹ノ巣	遠藤忠太郎	白石の紙	耳折	56.7	91.2
7	秋田県	平鹿郡睦合村宿	土谷長治	障子紙	耳付	53.3	72.5
8	山形県	東村山郡鈴川村双月	—	大奉（だいほう）	裁断	30.0	74.0
9	山形県	東村山郡鈴川村双月	—	傘紙	裁断	38.2	56.6
10	山形県	南村山郡西郷村高松	加藤加久治	麻布（あざぶ）小判	耳付	27.0	33.3
11	山形県	最上郡舟形村長澤	—	障子紙	裁断	24.6	66.3
12	福島県	耶麻郡熱塩村日中	加藤寅蔵	川口判 傘紙	耳付	31.7	43.5
13	福島県	耶麻郡熱塩村日中	遠藤勝次	窓紙	耳付	28.7	34.5
14	福島県	伊達郡山舟生町	斉藤福治	中折（障子紙）	切断	30.1	38.5
15	福島県	伊達郡山舟生町	斉藤福治	美濃判	切断	27.8	39.0
16	福島県	石城郡入遠野村大字入遠野	佐川晴重	障子紙	耳付	32.0	88.5
17	福島県	石城郡上遠野村深山田	山野徳興	厚紙（渋紙等用）	耳付	61.0	93.1
18	福島県	安達郡上川崎村	—	延紙	切断	27.8	39.2
19	茨城県	那珂郡隆郷村鷺子	—	程村	切断	33.3	48.5
20	茨城県	那珂郡隆郷村鷺子	—	五把（原紙）	耳（縦に半切）	69.8	51.7
21	茨城県	那珂郡隆郷村鷺子	—	西ノ内（雨傘用）	切断	33.7	48.2
22	茨城県	那珂郡隆郷村鷺子	小室兼次 葛西幸太郎	程村（投票用紙）	切断	33.4	48.5
23	茨城県	那珂郡隆郷村鷺子	—	西ノ内	切断	33.7	24.0
24	茨城県	久慈郡諸富野村諸澤	菊池五介	程村 四枚取り	耳付	73.1	103.4
25	茨城県	久慈郡諸富野村諸澤	菊池五介	程村	裁断	33.7	48.3
26	栃木県	安蘇郡飛駒村	出居口之助	飛駒障子紙	耳付	60.2	92.0
27	栃木県	安蘇郡飛駒村	—	飛駒紙八寸（旧式）	耳付	28.5	36.7
28	群馬県	北甘楽郡秋畑村	—	障子紙	耳付	53.5	94.7
29	神奈川県	愛甲郡高峰村角田	井上茂 （妻が漉き、夫が干す）	障子紙	耳付	53.3	72.5
30	新潟県	東蒲原郡豊實村新渡	酒井留次郎	障子紙（窓紙）	耳付	28.0	32.7
31	新潟県	刈羽郡上小国村山野田	—	小国紙	耳付	27.8	39.3
32	富山県	婦負郡室牧村高熊	—	本高熊（粗 厚口）	耳付	33.5	44.7
33	富山県	婦負郡室牧村高熊	—	叩込（たたきこみ）	耳付	33.0	43.7

面積	坪量	色合	簀目	糸目幅	刷毛目	収集日	整理番号
0.343	37.518	—	30	2.4	有（裏面）	S13.4.22	G84
0.161	77.284	—	27	2.3～2.4	有（裏）	S13.4.22	G86
0.305	36.933	—	27	2.5 3.0～3.5	不可視	S13.4.22	G87
0.164	14.355		不可視	不可視	不可視	S18	F6
0.006	137.008				不可視	S18	G4
0.423	37.043		不可視	2.9	不可視	S18	G109
0.386	18.736	黄灰色	30	2.0 2.8～3.0 3.2	不可視	S13.4.24	D82
0.222	30.856	—	17	3.0	不可視	S13.4.26	E76
0.213	—	薄黄色	24	2.2～3.1	有（裏）	S13.4.26	E38
0.090	8.453	—	16	4.8	不可視	S13.4.26	E23
0.163	—	薄黄色	18	3.2～3.4	有（裏）	S13.4.25	G59
0.138	43.221	白	21	3.2 3.5 3.7	有（裏）	S13.4.28	B56
0.099	29.793	—	17	3.0	有（裏）	S13.4.28	G210
0.116	32.705	薄い黄茶色 （白さあり）	25	2.2～2.4	有（裏面）	S13.4.27	B61
0.108	23.243	—	27	2.5	有（裏）	S13.4.27	D18
0.283	32.097	—	27	3.0～3.2～3.5	不可視	S13.4.18	D7
0.568	54.709	薄黄色	不可視	3.0	有（裏）	S13.4.18	E108
0.109	30.465	薄黄色	27	2.8 2.9	有（裏）	S13.4.27	E189
0.162	43.776	薄黄色	27 （明瞭、普通）	2.9 3.0～3.3	有（裏）	S13.2.8	E25
0.361	21.005	薄黄色	27	2.6 2.7	不可視	S13.2.8	E74
0.162	86.312	黄色	18～21 （明瞭）	3.5～3.7 （透視）	不可視	S13.2.8	E65
0.162	41.052	—	24	2.8～3.0～3.3	不可視	S13.2.8	G181
0.081	85.930	黄色	21 （顕著、明瞭）	3.3～3.4 3.7（透視）	不可視	S13.2.8	G229
0.756	34.478	—	20	2.5～2.9	有 （裏 普通）	S13.2.7	E70
0.163	41.531	薄黄色	24（明瞭）	2.5 2.6 （明瞭）	不可視	S13.2.7	E142
0.554	30.695	—	30	2.8～3.1	有（裏）	S13.2.9	G217
0.105	26.770	—	20	3.4	有（裏）	S13.2.9	E50
0.507	31.225	—	27（微か）	2.6～3.0 3.0～3.5	有（裏）	S13.2.10	E85
0.386	30.873	—	30	3.0	有（裏）	S13.2.11	E46
0.092	32.219	黄灰色	18（透視）	3（微か）	有（裏）	S13.4.28	E56
0.109	26.361	薄黄色	21（明瞭、普通）	3.0～3.3 3.4（透視）	有（裏）	S13.6.6	E84
0.150	52.155	—	27	3.0	有（裏）	S13.12.26	A39
0.144	34.880	灰黄色	30	3.4	有（裏）	S13.12.26	D144

番号	県名	産地	紙漉技術者	紙名	形状	縦寸法	横寸法
34	富山県	婦負郡室牧村高熊	—	本高熊（精）	耳付	33.6	45.6
35	富山県	婦負郡野積村油	—	中宇（紅柄紙）	耳付	34.3	56.0
36	富山県	婦負郡八尾町	谷井秀峰	（草木染薄紙）	耳付	63.0	93.9
37	富山県	婦負郡八尾町	谷井秀峰	（草木染薄紙）	耳付	65.0	93.7
38	石川県	江沼郡河南村長谷田	—	長谷田半紙	横一辺 切断	29.0	39.6
39	石川県	河北部浅川村田ノ島	—	板奉書	裁断	48.2	76.7
40	福井県	越前須原	—	帳面紙	耳付	27.3	39.0
41	福井県	今立郡岡本村大瀧	岩野平三郎力？	打雲	切断	28.0	62.1
42	福井県	今立郡岡本村大瀧	岩野平三郎力？	麻紙（大麻）	切断	68.5	33.0
43	福井県	越前須原	—	帳面紙	耳付	27.4	39.0
44	山梨県	南巨摩郡西島村	笠井伝造	改良半紙	裁断	27.8	40.3
45	山梨県	西八代郡市川大門町	村松徳右エ門	—	耳付	78.2	53.8
46	山梨県	西八代郡市川大門町	村松徳右エ門	障子紙	裁断	27.5	85.2
47	長野県	下高井郡豊郷村坪山	篠田海治	内山紙	裁断	28.0	40.2
48	岐阜県	武儀郡上牧谷乙狩	太田万右衛門	典具帖	耳折 縦に裁 断	50.6	48.0
49	岐阜県	武儀郡上牧谷乙狩	太田万右衛門	鉄筆原紙	裁断	30.2	39.7
50	岐阜県	武儀郡上牧村牧谷小倉	—	美濃紙	縦に裁 断	58.3	46.9
51	岐阜県	武儀郡上牧谷小倉	—	書院	耳付	63.7	87.3
52	岐阜県	山縣郡富波村青波区	堀文治郎	青波森下	耳付	34.3	45.2
53	岐阜県	山縣郡富波村青波区	堀文治郎	青波森下	耳付	34.5	44.7
54	岐阜県	山縣郡富波村青波区	堀文治郎	青波森下	耳付	34.6	45.3
55	岐阜県	山縣郡富波村青波区	—	塵紙	耳折	33.9	45.6
56	静岡県	志太郡朝比奈村小園	前島彌太郎	佐束（帳簿用紙）	裁断	35.2	26.6
57	静岡県	志太郡朝比奈村小園	小林健太郎	傘紙	耳付	33.6	44.7
58	静岡県	磐田郡上阿多古村長澤	杉保金七	油障子紙	耳付	32.0	43.6
59	愛知県	東加茂郡旭村東萩平	—	三河森下	耳付	34.5	45.2
60	三重県	名賀郡瀧川村長屋	西本良之助	塵紙	耳付	50.6	70.2
61	三重県	飯南郡柿野町深野	—	障子紙	切断	27.0	88.7
62	滋賀県	栗太郡上田上村桐生	成子午次郎	鳥の子紙	耳付 (切)	42.0	52.8
63	京都府	加佐郡河守上村二俣	—	帳簿用半紙	切断	24.3	33.7

面積	坪量	色合	簀目	糸目幅	刷毛目	収集日	整理番号
0.153	45.426	淡灰黄色	27	3.1 3.2 3.3	有（裏）	S13.12.26	D152
0.192	70.804	—	18	3.2～3.4	有（裏）	S13.12.26	E100
0.592	32.084	灰茶色	27	3.5 3.6	有（裏）	S13.12.27	E105-1
0.609	29.817	黄色	20	3.3	有（裏）	S13.12.27	E105-2
0.115	21.769	—	23	3.6	有	S13.12.25	D172
0.370	125.320	薄灰色	24	3.3 3.4 3.5	有（裏）	S13.12.25	G15
0.106	28.834	黄灰色	24	3.5（顕著）	有 （裏 簀面）	—	D164
0.174	36.462	下方から濃淡紺色の 山雀流し込み	不可視 （紗目）	不可視	不可視	S13.12.24	G27
0.226	34.329	—	—	—	不可視	S13.12.24	G237
0.107	—	薄黄色				—	G51
0.112	22.850	—	不可視36？ （紗目微）	2.8 2.9 3.0普通	不可視	S13.5.16	D114
0.421	44.686	灰黄色	不可視 （紗目微）	2.8 2.9 3.0	有（裏）	S13.5.16	D135
0.231	26.854	黄灰色	不可視	2.8～3.0	有（裏）	S13.5.16	E103
0.113	27.186	—	不可視 （紗目微）	2.6（透視）	不可視	S13.5.14	D138
0.240	11.601	白	—	—	不可視	S15.3.26	E86
0.117	10.797	—	不可視 （紗目微）	不可視	不可視	S15.3.26	E106
0.273	26.150	—		3.5		S15.3.26	E135
0.556	35.155	—	36	3.7 3.8	有（裏）	S15.3.26	E151
0.152	39.244	灰黄色	27	3.2 3.3 3.4	有（裏）	S15.3.25	E92
0.154	39.361	濃灰黄茶色	不可視 （微力）	3.4（明瞭）		S15.3.25	E113
0.116	40.534	—				S15.3.25	G150
0.155	34.350	—				S15.3.25	E152
0.090	26.271	薄黄色	36	2.9 3.0	有（裏）	S15.3.28	E186
0.150	53.398	—	24	3.0	有（裏）	S15.3.28	G162
0.140	30.533	灰黄色	24	3.5	有（裏）	S13.3.30	E187
0.156	43.093	濃灰黄色	27	3.0	有（裏）	S15.3.27	A47
0.355	34.318	—	24	3.9 4.0	有（裏）	S13.3.14	E16
0.239	27.350	薄黄色	不可視（24） 紗目微	2.7 2.8 （透視）	有（裏）	S13.3.15	E43
0.222	55.060	淡黄灰色	不可視 （紗目顕）	不可視	不可視	S13.4.16	G10- a
0.082	27.231	—	不可視 （24～27）	2.7～3.1 3.2（透視）	有（裏）	S14.3.22	E54

番号	県名	産地	紙漉技術者	紙名	形状	縦寸法	横寸法
64	京都府	何鹿郡東八田村黒谷	—	西ノ内紙	耳付	39.4	53.3
65	京都府	何鹿郡東八田村黒谷	—	生漉半紙判障子紙	耳折	53.5	50.5
66	京都府	与謝郡世屋村畑	隅垣時衛 (昭和元年頃)	縮緬の札紙	耳折	39.6	48.8
67	大阪府	貝塚市	—	泉州チリ	裁断	45.3	62.1
68	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	—	普通間似合	裁断	37.0	94.5
69	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	—	普通間似合	裁断	37.2	94.7
70	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	—	普通間似合	裁断	36.7	93.8
71	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	—	普通間似合	裁断	36.9	94.3
72	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	—	間似合胴張専用	裁断	36.7	94.2
73	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	—	間似合	裁断	49.2	69.5
74	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	馬場孝良	「水茎」書簡用箋	耳付	39.1	53.8
75	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	馬場孝良	「水茎」書簡用箋	耳付	18.0	54.4
76	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	馬場孝良	(紙名なし)	切断	39.0	27.5
77	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	馬場孝良	「水茎」書簡用箋	耳付	39.2	54.3
78	奈良県	吉野郡國樸村窪垣内	—	漆こし(吉野紙)	耳付	25.2	39.0
79	奈良県	吉野郡國樸村窪垣内	—	生漉宇陀	耳付	32.0	47.3
80	奈良県	吉野郡國樸村窪垣内	—	宇陀泥入	耳付	32.0	47.0
81	奈良県	吉野郡國樸村窪垣内	—	障子紙	耳付	26.2	47.7
82	奈良県	吉野郡國樸村窪垣内	—	大美栖(表装用)	耳付	24.5	63.5
83	奈良県	吉野郡丹生村黒木	—	吉野紙	耳折	24.3	50.0
84	和歌山県	伊都郡九度山町下古澤	—	高野紙	耳付	30.8	44.7
85	和歌山県	伊都郡九度山町下古澤	中上定之助	高野紙	耳付	30.6	45.0
86	和歌山県	伊都郡九度山町下古澤	中上定之助	高野紙(傘紙)	耳付	44.5	31.0
87	和歌山県	伊都郡九度山町下古澤	—	高野紙	耳付	31.0	44.2
88	和歌山県	有田郡八幡村清水	堀江要一	保田紙障子紙	耳付	29.7	44.0
89	和歌山県	東牟婁郡敷屋村小津荷	—	音無紙	切断	19.5	25.8
90	和歌山県	東牟婁郡敷屋村小津荷	—	タテ紙	耳付	34.0	45.7
91	鳥取県	八頭郡佐治村	清水清勝 (県商工奨励館製紙部)	巻紙(耳付筋入)	耳付	19.5	98.5
92	鳥取県	八頭郡佐治村	清水清勝 (県商工奨励館製紙部)	巻紙(耳付)	耳付	19.6	98.9
93	鳥取県	八頭郡智頭町山形区篠坂	櫻谷文次郎	中折(障子紙)	耳折	58.0	97.4
94	鳥取県	気高郡青谷町赤穂谷	—	青谷半紙(複写用)	耳折	61.4	84.4

面積	坪量	色合	簀目	糸目幅	刷毛目	収集日	整理番号
0.210	39.000	白	不可視	2.8～3.7	有 (裏 普通)	S13.3.22	E120
0.270	26.686	白	不可視	3.0～3.2	不可視	S13.3.22	E126
0.193	70.014	—	24	3.2～3.4	有 (裏)	S13.3.23	G14
0.281	23.141	薄灰茶色	21	3.3～3.7 4.0	有 (裏)	—	G112
0.350	94.981	淡灰色	不可視 (紗目顕)	2.4 (顕著)	不可視	S13.10.6	C80-1
0.352	47.973	白茶色				S13.10.6	C80-2
0.344	73.291	青色				S13.10.6	C80-3
0.348	55.925	水色	—	—		S13.10.6	C80-4
0.346	83.798	薄茶色	不可視 (紗目明瞭)	2.4 (太 顕著)		S13.10.6	C80-5
0.342	38.574	薄黄色	22 (明瞭)	3.7		S13.10.6	C81
0.210	24.007	薄茶色	不可視 (紗目顕)	不可視		S13.10.6	F94
0.098	27.471	薄焦茶色	紗目 顕	2.8 (微か)		S13.10.6	G63
0.107	31.795	白茶色	不可視 (紗目顕)	不可視		S13.10.6	G85
0.213	76.484	白茶色	紗目 微	—		S13.10.6	G114
0.098	7.835	—	不可視 (24) 紗目微	不可視 (3.8～4.1)	不可視	S12.11.13	C56
0.151	66.200	—	21	3.4～3.6 3.7	有 (裏)	S12.11.13	C26-1
0.150	70.279	薄灰色	27 (明瞭)	2.3～2.4 2.5 (普通)	有 (裏)	S12.11.13	C75
0.125	28.886	白	18	3.5 3.6	有 (裏)	S12.11.13	E61
0.156	27.768	—	24 (明瞭)	3.5 (普通)	不可視	S12.11.13	E83
0.122	8.807	白	不可視 (紗目微)	3.6～3.8 (微か)	不可視	S12.11.13	G216
0.138	44.743	—	18	4.3～4.5	不可視	S12.11.14	A11
0.138	49.528	—	21 (明瞭)	4.3～4.8 (明瞭)	不可視	S12.11.14	A43
0.138	31.896	薄黄色	13 (顕著)	4.2～4.5～5.0 (透視)	不可視	S12.11.14	E8-1
0.137	38.535	—	18 (顕著 明瞭)	4.2～4.6 (普通)	不可視	S12.11.14	G54
0.131	20.661	—	24	3.8	有 (表)	S12.10.13	A50
0.050	8.348	—	15	4.4～4.8 5.0	不可視	S12.10.11	E21
0.155	83.280	薄黄色	14	不可視 (3.7～4.0)	有 (裏)	S12.10.11	G60
0.192	24.626	薄黄茶色	21	2.4～2.5		S13.10.17	C37-2
0.194	15.786	薄黄茶色	20 (透視)	2.3～2.4		S13.10.17	C37-1
0.565	23.278	黄灰色	不可視	2.7～3.0	有 (裏 微か)	S13.10.16	C40
0.518	13.431	—	不可視	2.8～3.0		S13.10.17	C58

番号	県 名	産 地	紙漉技術者	紙 名	形状	縦寸法	横寸法
95	鳥取県	気高郡日置村山根	—	石州半紙	耳折	54.5	74.3
96	島根県	能義郡広瀬町祖父谷	—	祖父谷（土なし）	耳付	33.2	93.2
97	島根県	能義郡広瀬町祖父谷	—	祖父谷（土入）	耳付	31.0	84.5
98	島根県	美濃郡匹見上村	—	石州半紙（原紙）	耳折	56.8	98.4
99	島根県	八束郡岩坂村	—	出雲竜	裁断	47.2	63.5
100	島根県	八束郡岩坂村	—	岩坂薬紙	縦に切 断	54.4	70.7
101	島根県	八束郡岩坂村	—	雁皮筋入	耳付	38.8	52.7
102	島根県	八束郡岩坂村	—	純桑皮紙	切断	31.8	11.0
103	島根県	八束郡岩坂村	—	三桮紙	天地耳 付	24.2	32.9
104	島根県	八束郡岩坂村	—	透入（桐紋）	切断	26.7	32.3
105	島根県	八束郡岩坂村	—	三桮萱簀漉	耳折	60.1	99.0
106	島根県	八束郡岩坂村	—	出雲竜	裁断	47.0	31.8
107	島根県	八束郡岩坂村	—	雁皮紙	切断	12.0	10.2
108	島根県	八束郡岩坂村	—	楮紙	耳付	34.7	43.8
109	島根県	八束郡岩坂村	安部栄四郎	雁皮紙	切断	11.6	15.0
110	島根県	鹿足郡足見村	—	楮手漉紙	裁断	24.5	34.8
111	島根県	鹿足郡小川村寺田	—	半紙	裁断	24.7	35.0
112	島根県	鹿足郡青原村	—	手漉半紙	裁断	24.5	33.4
113	島根県	鹿足郡	—	障子紙	裁断	25.0	47.2
114	岡山県	津山市宮川	鈴木竹蔵	箔合用紙	耳折	55.2	69.0
115	岡山県	津山市宮川	鈴木竹蔵	膏薬台紙	耳折	53.5	99.0
116	岡山県	津山市宮川	鈴木竹蔵	障子紙	耳折	61.5	95.5
117	岡山県	津山市宮川	鈴木竹蔵	膏薬台紙	耳折・ 横切断	29.4	35.7
118	岡山県	阿哲郡新見町高尾	—	帳薄紙	裁断	28.7	37.8
119	広島県	比婆郡庄原町柳原	川手章一	諸口	裁断	28.1	93.7
120	広島県	広島県	—	型紙用原紙	耳折両 横裁断	63.3	90.5
121	広島県	高田郡有保村保垣	—	有保障子紙	裁断	28.8	91.2
122	広島県	甲奴郡田総村	—	半紙	裁断	24.5	26.9
123	広島県	比婆郡庄原町柳原	—	柳原奉書	裁断	38.5	52.9
124	山口県	佐波郡島地村徳地	—	（徳地半紙）	裁断	24.8	35.0
125	山口県	佐波郡島地村徳地	—	徳地中保	裁断	23.9	33.1

面積	坪量	色合	簀目	糸目幅	刷毛目	収集日	整理番号
0.405	24.843	黄灰色	不可視	1.8～3.0	裏（明瞭）	S13.10.17	C62
0.309	52.032	—	不可視	2.8～3.0	—	S13.10.18	C33
0.262	87.918	—	21（透視）	4.2～4.3 （透視）	—	S13.10.18	E57
0.559	28.162	黄灰色	不可視	2.5～3.2	有 （裏 普通）	S13.10.19	C59
0.300	16.916	黄茶色（着色か）	不可視	2.4～3.1		S8.8.9	D57
0.367	60.163	黄白色	不可視	2.5～2.8 （透視）	—	S13.10.18	D72
0.198	32.879	—	17（明瞭）	不可視		S8.8.9	E1-2
0.035	44.025	濃茶色	不可視	不可視		S8.8.9	E1-4
0.080	23.864	—	不可視	2.6～3.2		S8.8.9	E1-6
0.080	55.805	—	不可視	3.0～3.2		S8.8.9	E1-9-2
0.587	21.790	黄灰色	17（明瞭）	3.0～3.4 （普通）		S8.8.9	E1-10
0.131	22.069	黄茶色（着色か）	不可視	2.4～3.1	有 （裏 微か）	S8.8.9	E1-18
0.012	73.529	濃肌色	不可視	不可視		S8.8.9	E1-21
0.152	29.542	濃黄灰色	不可視	3.6～3.8	有 （裏 微か）	S8.8.9	E1-25
0.017	54.023	—	不可視	不可視		S13.10.18	G188
0.085	23.223	黄灰色	21（微か）	2.8～3.0	有 （裏 微か）	S13.10.19	D63
0.086	22.441	—	不可視	3.0～3.3		S13.10.19	D71
0.082	19.064	白	不可視	2.8～3.1		S13.10.19	D74
0.118	25.593	白	不可視	3.0～3.5	有 （裏 普通）	S13.10.19	D76
0.377	13.691	黄茶色	不可視	2.3～3.2		S13.10.15	C49
0.530	24.318	かなり白い	不可視	2.3～3.2	有 （裏 明瞭）	S13.10.15	C53
0.587	35.193	—	不可視	2.4～3.4		S13.10.15	C54
0.105	36.491	—	不可視	2.7～3.0	有 （裏 普通）	S13.10.15	E147
0.108	27.285	—	不可視	3.0 （透視 微か）		S13.10.22	G8
0.263	25.105	白	30（微か）	2.8～3.1		S13.10.22	C44
0.573	23.444	薄肌色	不可視	2.9～3.4 （微か）		—	E17
0.263	30.077	白	不可視	2.8～3.2		S13.10.21	E47
0.066	18.815	—	不可視	3.2（微か）		S13.10.21	E51
0.204	58.920	白	不可視	2.8～3.0		S13.10.22	E112
0.087	30.991	—	不可視	3（透視）	有 （裏 明瞭）	S15.1.18	D60
0.079	14.284	—	不可視	2.9（透視）	有 （裏 普通）	S15.1.18	G224

番号	県 名	産 地	紙漉技術者	紙 名	形状	縦寸法	横寸法
126	山口県	玖珂郡河山村夏宿	—	障子紙	耳折	53.7	51.4
127	徳島県	不詳（神領村か）	—	障子紙	裁断	28.5	93.8
128	徳島県	麻植郡川田町	—	仙花四つ幅	耳折	64.0	88.5
129	徳島県	名西郡神領村小野	—	障子紙	裁断	24.7	93.8
130	愛媛県	北宇和郡泉村岩谷	谷口友一	中仙	耳付	30.5	40.3
131	愛媛県	北宇和郡泉村岩谷	—	仙貨	耳付	31.7	42.3
132	愛媛県	北宇和郡明治村延野々	—	中仙	耳付	30.5	40.5
133	愛媛県	周桑郡國安村	—	奉書	耳付	55.0	79.0
134	高知県	幡多郡昭和村細々	—	仙貨	耳付	31.6	43.0
135	高知県	土佐	—	土佐宇田紙	耳付	32.7	48.5
136	高知県	土佐	—	土佐仙花	耳付	31.5	43.0
137	高知県	吾川郡神谷村成山	—	典具帖紙	裁断	48.2	47.8
138	高知県	吾川郡神谷村成山	—	糊入四巾紙	裁断	48.7	36.2
139	高知県	吾川郡神谷村成山	—	改良小杉原	切断	14.5	17.8
140	高知県	吾川郡神谷村成山	—	言上紙	切断	20.2	31.5
141	高知県	吾川郡神谷村成山	—	（紙名なし）		24.3	47.0
142	高知県	高岡郡須崎町（？）	—	須崎半紙	裁断	24.8	34.5
143	佐賀県	神崎郡仁比山村三谷	—	（防虫加工紙）	耳付	49.0	52.6
144	佐賀県	神崎郡仁比山村三谷	—	施薬紙	切断	33.4	23.5
145	長崎県	北高来郡湯江村	中辻丈四郎	京花紙（原紙）	耳付	63.5	82.5
146	長崎県	北高来郡湯江村	中辻丈四郎	障子紙（又は提灯紙）	耳付	55.7	97.5
147	熊本県	八代郡宮地村	—	白塵	耳付	49.0	62.9
148	熊本県	八代郡宮地村	—	白漉返	耳付	44.7	59.1
149	熊本県	八代郡宮地村	—	藁半紙	裁断	24.2	32.3
150	熊本県	八代郡宮地村	—	（障子紙）	裁断	24.9	93.2
151	熊本県	八代郡宮地村	竹原慶次	楮と藁の混合紙	裁断	24.0	33.0
152	宮崎県	児湯郡上穂北村坂江	池澤繁	厚美濃紙	裁断	27.5	39.7
153	宮崎県	児湯郡上穂北村坂江	—	（障子判原紙）	耳折	55.5	99.2

面積	坪量	色合	簀目	糸目幅	刷毛目	収集日	整理番号
0.276	30.940	白			有 (裏 普通)	S13.10.20	E102-1
0.267	24.576	白	29	3.0~3.1	有 (裏 普通)	不詳 S14.3.22か	C32
0.564	60.550	白	29 (透視)	2.7~3.1	有 (裏 透視)	S14.3.23	E197
0.228	31.464	—	19	普通	有 (裏 普通)	S14.3.22	E204
0.119	54.088	黄茶灰色	21	不可視 (糸目は見えるが幅はわからず)	有 (裏)	S13.3.26	E146
0.134	54.068	—	23	4.0 (普通)	不可視	S13.3.26	E209
0.120	49.351	黄灰色	24	3.9?	不可視	S13.3.26	E196
0.435	62.440	薄黄色	27 (微か)	2.9 3.0 3.1	有 (裏)	S13.3.28	E203
0.136	34.810	薄黄灰色	27 (透視)	1.6 (透視)	不可視	S14.3.26	E96
0.159	45.903	—	27	3.0	有 (裏)	S14.3.24	G129
0.135	44.075	—	27	不明	有 (裏)	S14.3.24	G130
0.230	10.634	白	不可視 (紗目微)	不可視	不可視	S14.3.24	G198
0.176	23.937	白	24 (微か)	2.9 3.1 (微か)	不可視	S14.3.24	G227
0.026	29.059	白	不可視 (紗目微)	3.0 3.1 (透視)	不可視	S14.3.24	G234
0.060	98.708	—	24 (透視)	2.4 2.5 (微か)	不可視	S14.3.24	M73
0.114	7.005		21	2.6		S14.3.24	M74
0.086	33.310	黄灰色	24	2.3 2.9	有 (裏)	S14.3.24	G233
0.258	36.510	黄茶色染紙	18	2.7~3.2	有 (裏 微か)	S15.1.16	D95
0.078	51.089	—	20	3.1~3.2	有 (裏 普通)	S15.1.16	G144
0.524	8.265	白	20	2.4~3.1	有 (裏 微か)	S15.1.15	D32
0.543	24.177	白	23	2.2~2.8	有 (裏 普通)	S15.1.15	D88
0.308	7.787	白	35		有 (裏 微か)	S15.1.13	D37-2
0.264	22.106	淡灰色	32	3.1~3.5	有 (裏 明瞭)	S15.1.13	D49
0.078	22.772	白	32		有 (裏 普通)	S15.1.13	D54
0.232	20.996	白	22		有 (裏 普通)	S15.1.13	D55
0.079	15.530	白	20	2.4~3.0	有 (裏 微か)	S15.1.13	D89
0.109	28.303	—	19 (微か)	2.6~3.1	有 (裏 微か)	S15.1.9	B21
0.551	27.863	白	20 (微か)	2.4~3.4	有 (裏 普通)	S15.1.9	D104

番号	県 名	産 地	紙漉技術者	紙 名	形状	縦寸法	横寸法
154	宮崎県	児湯郡上穂北村坂江	—	(半紙)	裁断	39.9	28.2
155	宮崎県	児湯郡上穂北村坂江	—	(京花紙)	裁断	21.7	28.3
156	鹿児島県	日置郡伊作町中津	—	伊作障子紙	裁断	26.6	93.5
157	鹿児島県	日置郡伊作町中津	—	伊作障子紙	裁断	26.6	93.3
158	鹿児島県	始良郡加治木町	大内山良哉	半紙	裁断	26.5	37.8
159	鹿児島県	始良郡加治木町	大内山良哉	傘紙	耳付	58.0	47.1
160	鹿児島県	始良郡加治木町	大内山良哉	提灯紙	耳付	56.5	98.0

(注 記)

- 番号は、便宜的に産地の東北地域から西南地域へと順番に配列した。
- 産地は、寿岳文章氏の記録による。
- 紙漉技術者は、寿岳文章氏の記録による。
- 紙名は、寿岳文章氏の記録による。
- 形状は、漉き上げられたままのもの（耳付）か、端奥天地の縁を切って整えたもの（裁断）か、あるいは漉き上げたものを適宜断ち切ったもの（切断）か等を示した。
- 縦寸法は、糸目の流れている方向の長さで、単位はcm。
- 横寸法は、簀目の流れている方向の長さで、単位はcm。
- 面積は、縦寸法×横寸法で算出、単位はm²。
- 坪量は、1m²あたりの重さ、単位はg/m²。
- 色合は、昼間室内における印象。
- 簀目は、料紙の表面に付いている漉簀の籤の痕跡で、1寸間隔に並列する簀目の本数。適宜（）内に目立ち度合いを、顕著・明瞭・普通・微か・不可視などと程度を示した。
- 糸目幅は、料紙の表面に付いている漉簀の籤を編んでいる糸の痕跡で、糸目と糸目の間隔、単位はcm。適宜、その目立ち度合いも（）内に示した。
- 刷毛目は、干し板に張り付けた時刷毛で刷いた痕跡の有無。適宜（）内に簀目の面との関係、目立ち度合いを記した。簀目の見える面が表としている。
- 収集日は、寿岳文章氏の記録による。
- 整理番号は、多可町立和紙博物館壽岳文庫における整理のための番号。

面積	坪量	色合	簀目	糸目幅	刷毛目	収集日	整理番号
0.112	19.053	—	18 (微か)	2.3~2.7	不可視	S15.1.9	D107
0.061	7.328	—	17	2.4~2.9	有 (裏 微か)	S15.1.9	D110
0.249	21.350	—	24 (微か)	2.8~3.0	有 (裏 明瞭)	S15.1.12	D29
0.248	26.715	—	18 (普通)	2.8~3.2	有 (裏 明瞭)	S15.1.12	G178
0.100	25.557	—	24 (微か)	2.8~3.0 (透視)	有 (裏 普通)	S15.1.11	D43
0.273	37.851	白	24 (微か)	2.8~3.0	有 (裏 微か)	S15.1.11	D48
0.554	24.309	白	21 (微か)	2.8~3.1	有 (裏 普通)	S15.1.11	D92

【第Ⅱ表】

番号	県名	産 地	整理番号	紙 名	縦寸法	横寸法	厚さ	重さ	密度	原 料
1	岩手県	和賀郡十二箇村北成島	G84	障子紙	36.3	94.5	0.10	12.87	0.375	楮
2	岩手県	和賀郡十二箇村北成島	G86	程村	33.2	48.6	0.19	12.47	0.407	楮
3	岩手県	和賀郡中内村南成島	G87	傘紙	33.8	90.2	0.11	11.26	0.336	楮
4	宮城県	白石市鷹ノ巣	F6	白石	38.7	42.3	0.04	2.35	0.359	楮
5	宮城県	白石市鷹ノ巣	G4	白石檀紙	5.0	12.7	0.46	0.87	0.298	楮
6	宮城県	白石市鷹ノ巣	G109	白石の紙	56.7	91.2	0.10	15.67	0.370	楮100%
7	秋田県	平鹿郡陸合村宿	D82	障子紙	53.3	72.5	0.07	7.24	0.268	楮100%
8	山形県	東村山郡鈴川村双月	E76	大奉（だいほう）	30.0	74.0	0.12	6.85	0.257	漉返混合紙
9	山形県	東村山郡鈴川村双月	E38	傘紙	(38.2	(56.6	0.10	—	—	楮、バルブ混か
10	山形県	南村山郡西郷村高松	E23	麻布（あざぶ）小判	27.0	33.3	0.03	0.76	0.282	楮
11	山形県	最上郡舟形村長澤	G59	障子紙	24.6	66.3	0.11	—	—	楮100%
12	福島県	耶麻郡熱塩村日中	B56	川口判 傘紙	31.7	43.5	0.12	5.96	0.360	楮
13	福島県	耶麻郡熱塩村日中	G210	窓紙	28.7	34.5	0.12	2.95	0.248	純楮
14	福島県	伊達郡山舟生町	B61	中折（障子紙）	30.1	38.5	0.10	3.79	0.327	純楮
15	福島県	伊達郡山舟生町	D18	美濃判	27.8	39.0	0.06	2.52	0.387	楮
16	福島県	石城郡入遠野村大字入遠野	D7	障子紙	32.0	88.5	0.10	9.09	0.321	楮100%
17	福島県	石城郡上遠野村深山田	E108	厚紙（渋紙等用）	61.0	93.1	0.17	31.07	0.322	純楮
18	福島県	安達郡上川崎村	E189	延紙	27.8	39.2	0.09	3.32	0.339	楮
19	茨城県	那珂郡隆郷村鷺子	E25	程村	33.3	48.5	0.12	7.07	0.365	楮
20	茨城県	那珂郡隆郷村鷺子	E74	五把（原紙）	69.8	51.7	0.06	7.58	0.350	楮
21	茨城県	那珂郡隆郷村鷺子	E65	西ノ内（雨傘用）	33.7	48.2	0.24	14.02	0.360	楮 バルブ入
22	茨城県	那珂郡隆郷村鷺子	G181	程村（投票用紙）	33.4	48.5	0.11	6.65	0.373	楮
23	茨城県	那珂郡隆郷村鷺子	G229	西ノ内	33.7	24.0	0.23	6.95	0.374	楮 バルブ入
24	茨城県	久慈郡諸富野村諸澤	E70	程村 四枚取り	73.1	103.4	0.12	26.06	0.287	楮 バルブ 三極
25	茨城県	久慈郡諸富野村諸澤	E142	程村	33.7	48.3	0.13	6.76	0.319	楮
26	栃木県	安蘇郡飛駒村	G217	飛駒障子紙	60.2	92.0	0.09	17.00	0.341	楮100%
27	栃木県	安蘇郡飛駒村	E50	飛駒紙八寸（旧式）	28.5	36.7	0.09	2.80	0.297	楮（雑紙）
28	群馬県	北甘楽郡秋畑村	E85	障子紙	53.5	94.7	0.10	15.82	0.312	楮100%
29	神奈川県	愛甲郡高峰村角田	E46	障子紙	53.3	72.5	0.08	11.93	0.386	楮100%
30	新潟県	東蒲原郡豊實村新渡	E56	障子紙（窓紙）	28.0	32.7	0.11	2.95	0.293	楮100%
31	新潟県	刈羽郡上小国村山野田	E84	小国紙	27.8	39.3	0.09	2.88	0.293	楮100%
32	富山県	婦負郡室牧村高熊	A39	本高熊（粗 厚口）	33.5	44.7	0.23	7.81	0.227	楮100%（美濃紙）
33	富山県	婦負郡室牧村高熊	D144	叩込（たたきこみ）	33.0	43.7	0.10	5.03	0.349	楮（雑紙）
34	富山県	婦負郡室牧村高熊	D152	本高熊（精）	33.6	45.6	0.13	6.96	0.349	楮100%（美濃紙）
35	富山県	婦負郡野積村油	E100	中宇（紅柄紙）	34.3	56.0	0.21	13.60	0.337	楮100%
36	富山県	婦負郡八尾町	E105-1	（草木染薄紙）	63.0	93.9	0.10	18.98	0.321	楮 バルブ混入
37	富山県	婦負郡八尾町	E105-2	（草木染薄紙）	65.0	93.7	0.10	18.16	0.298	楮 バルブ混入
38	石川県	江沼郡河南村長谷田	D172	長谷田半紙	29.0	39.6	0.08	2.50	0.272	楮 稲藁混合か
39	石川県	河北部浅川村田ノ島	G15	板奉書	48.2	76.7	0.45	46.33	0.278	バルブ 稲藁 楮
40	福井県	越前須原	D164	帳面紙	27.3	39.0	0.09	3.07	0.320	楮（美濃紙風）
41	福井県	今立郡岡本村大瀧	G27	打雲	28.0	62.1	0.07	6.34	0.521	雁皮（打雲）
42	福井県	今立郡岡本村大瀧	G237	麻紙（大麻）	68.5	33.0	0.09	7.76	0.381	麻 楮混合
43	福井県	越前須原	G51	帳面紙	27.4	39.0	0.12	—	—	楮100%
44	山梨県	南巨摩郡西島村	D114	改良半紙	27.8	40.3	0.06	2.56	0.381	楮 バルブ若干

填料有無	填料種類	非繊維物質	繊維溜	繊維束	観 察 所 見
有	米粉（普通）	少	少	少	
有	米粉		少	少	土糊を入れた程村紙 繊維束が短い 米粉が紙床で発酵(斑点が出来ている) 紙は密なように見える 地合よし 繊維の分散もよい
無	—		多	多	繊維束あり 板目（表） 塵取は十分ならず
無	—		多	少	紗漉き
有	米粉		少	少	奉書に皺を付けたもの
無	—		多	少	通常のもの 修二会紙子に用しもの 一部サンプル採取で欠ける
無	—		少	少	塵取り良好（表皮残り） 障子紙にあらず 煮熟の関係 藁は伝承なり 板目（裏面）
無	—	少	中	多	墨付繊維あり 漉返を含む混合紙
無	—		中	多	一部サンプル採取で欠ける
無	—	少	少	中	板干しか？
無	—		多	多	粘穴が目立つ トロロアオイの新しいものを使った上質な障子紙なり 乾燥して穴ができる粘穴
有	米粉		多	多	昔の杉原と同じ 昔風のもの 漉き手は普通 紙料濃度が高い 農閑期の紙漉きで、江戸の感じが残る
無	—	普通	多	多	原料処理甘い 漉き上げの時も水が効いていない 「小判だから座って漉く」（寿岳）
有	米粉（多）	普通	中	中	古い杉原紙風 繊維溜微少
無	—		少	少	地合良好 塵取り良好（たまに樹皮小片残る） 帳簿用半紙 原料処理から漉き手上等なり 板目（裏面）
無	—		多	多	簀桁の動き悪し、繊維の分散が良くないので、技術まずし 「粗野な紙、昔はユリドメであったが、今はクミナゲ」（寿岳）とある事を裏付ける 板目（裏面）
無	—	多	中	中	2枚重漉き（紙床取り） 洗紙用の紙なり
有	米粉？		多	多	米粉のまともりか（澱粉質のもの） 延紙としては通常のものなり
有	米粉（多）	普通	無	無	程村 繊維束なし 塵取り良 地合良好 上質紙 近世杉原の正系統の紙なり 板目 表裏逆になっている
有	米粉（少）	普通	無	少	繊維束なし 地合良好 塵取り良 アワあり
有	米粉（普通）	少	中	中	繊維束細かい、短く、少ない やや厚手 並の上手なもの 板目 表裏逆になっている
有	米粉（普通）	普通	無	無	小紙片が貼り付けられている（重量は小紙片を含む）6.8×14.1（斐紙） 紙料処理丁寧きれいすぎる 塵取り良好は、苛性ソーダ煮熟により白くきれいなものとなる 発酵の斑点が大きいものもあり 近世杉原の正系統の紙なり 米粉の発酵跡あり
有	米粉（多）	多	中	多	厚紙（西ノ内は投票用紙に用う） 塵取りは並 板目
有	米粉（普通）				板目（裏 微か） 楮、パルプ、三極を交える 米粉入り
無	—	普通	少	少	程村 繊維束なし 水洗良好 地合良好 上質紙なり 板目明瞭
無	—		中	中	障子紙として上等な部類
無	—	普通	多	中	
有	米粉（少）	普通	多	多	飛駒 再生紙片入り墨付もあり 紙料処理並以下 障子紙の下
有 （少）	米粉（少）		多	多	紙料処理並以下の下手の障子紙 農閑期作業の典型例 澱粉質のもの（米粉なり） 米粉の作り方の問題 である（通常の米粉より倍ある）
無	—	普通	少	中	紙料処理並 塵取りは良好 障子紙の並の上
無	—	普通	少	少	紙料処理良 塵取り良 障子並のノ上なり 染色液で黄蜀葵を確認
無	—	多	中	多	繊維束きたない 揺り動き少ない 紙料処理が格段に落ちる 板目あり
無	—	多	多	多	外皮入
無	—	普通	中	少	地合良好 乾燥がまずい 上等の美濃紙に相当 奉美濃
無	—		中	多	ベンガラ（定着剤使用）
無	—		多	多	楮にパルプ混入、淡焦茶色染紙 染料未詳 良質の和紙を考えた事に拠る パルプ混入紙の典型例なるべし
無	—	少	中	中	パルプ、楮混漉 楮にパルプ混入、刈安染 良質和紙を考えた事に拠る パルプ混入紙の典型例なるべし
無	—	多			墨付繊維混入 再生紙繊維を入れるか
有	米粉				パルプの繊維 「官報の漉返しに米糊入れる」（寿岳） パルプと藁と楮と交え米粉を入れる 加賀杉原の系統を受けしものにて作られたか
無	—	普通	多	多	美濃紙風 糸目の目立つ紙 黄色に終年変化 板目（表 反裏面）
無	—	少	少	少	紗漉き 燕打雲（雁皮の藍染を漉して交える）
			中	多	紗漉き 麻と楮の混合 麻の裁断面目立つ 麻が塵状に交る
		有			楮100%（非繊維物質あり）中品紙
無	—	少			楮にパルプ交わり（楮の改良半紙）

番号	県名	産 地	整理番号	紙 名	縦寸法	横寸法	厚さ	重さ	密度	原 料
45	山梨県	西八代郡市川大門町	D135	—	78.2	53.8	0.14	18.80	0.319	楮 パルプ混入
46	山梨県	西八代郡市川大門町	E103	障子紙	27.5	85.2	0.08	6.20	0.336	楮100%
47	長野県	下高井郡豊郷村坪山	D138	内山紙	28.0	40.2	0.09	3.06	0.302	楮
48	岐阜県	武儀郡上牧谷乙狩	E86	典具帖	50.6	48.0	0.04	2.78	0.290	純楮
49	岐阜県	武儀郡上牧谷乙狩	E106	鉄筆原紙	30.2	39.7	0.02	1.26	0.540	雁皮（薄様）
50	岐阜県	武儀郡上牧村牧谷小倉	E135	美濃紙	58.3	46.9	0.12	7.15	0.218	楮 パルプ
51	岐阜県	武儀郡上牧谷小倉	E151	書院	63.7	87.3	0.10	19.55	0.352	パルプ 楮 稲藁
52	岐阜県	山縣郡富波村青波区	E92	青波森下	34.3	45.2	0.13	5.95	0.302	楮100%
53	岐阜県	山縣郡富波村青波区	E113	青波森下	34.5	44.7	0.12	6.07	0.328	楮100%
54	岐阜県	山縣郡富波村青波区	G150	青波森下	34.6	45.3	0.15	4.71	0.270	楮100%
55	岐阜県	山縣郡富波村青波区	E152	塵紙	33.9	45.6	0.15	5.31	0.229	楮 パルプ
56	静岡県	志太郡朝比奈村小園	E186	佐束（帳簿用紙）	35.2	26.6	0.07	2.37	0.375	三桎
57	静岡県	志太郡朝比奈村小園	G162	傘紙	33.6	44.7	0.17	8.02	0.314	楮
58	静岡県	磐田郡上阿多古村長澤	E187	油障子紙	32.0	43.6	0.10	4.26	0.305	楮 三桎
59	愛知県	東加茂郡旭村東萩平	A47	三河森下	34.5	45.2	0.13	6.72	0.331	楮（美濃紙）
60	三重県	名賀郡瀧川村長屋	E16	塵紙	50.6	70.2	0.18	12.19	0.191	漉返紙
61	三重県	飯南郡柿野町深野	E43	障子紙	27.0	88.7	0.10	6.55	0.273	楮100%
62	滋賀県	栗太郡上田上村桐生	G10-a	鳥の子紙	42.0	52.8	0.09	12.21	0.612	雁皮（鳥子）
63	京都府	加佐郡河守上村二俣	E54	帳簿用半紙	24.3	33.7	0.09	2.23	0.303	楮 パルプ
64	京都府	何鹿郡東八田村黒谷	E120	西ノ内紙	39.4	53.3	0.14	8.19	0.279	楮100%
65	京都府	何鹿郡東八田村黒谷	E126	生漉半紙判障子紙	53.5	50.5	0.09	7.21	0.297	楮
66	京都府	与謝郡世屋村畑	G14	縮緬の札紙	39.6	48.8	0.20	13.53	0.350	楮
67	大阪府	貝塚市	G112	泉州チリ	45.3	62.1	0.11	6.51	0.210	再生紙
68	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	C80-1	普通間似合	37.0	94.5	0.14	33.21	0.678	雁皮 再生紙 パルプ
69	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	C80-2	普通間似合	37.2	94.7	0.08	16.90	0.600	パルプ マニラ麻 稲藁 三桎等
70	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	C80-3	普通間似合	36.7	93.8	0.12	25.23	0.611	パルプ マニラ麻 三桎
71	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	C80-4	普通間似合	36.9	94.3	0.12	19.46	0.466	パルプ マニラ麻 三桎
72	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	C80-5	間似合胴張専用	36.7	94.2	0.17	28.97	0.493	パルプ マニラ麻 三桎
73	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	C81	間似合	49.2	69.5	0.12	13.19	0.321	雁皮 パルプ 三桎
74	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	F94	「水荃」書簡用箋	39.1	53.8	0.03	5.05	0.800	雁皮100%
75	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	G63	「水荃」書簡用箋	18.0	54.4	0.05	2.69	0.549	雁皮100%
76	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	G85	（紙名なし）	39.0	27.5	0.05	3.41	0.636	雁皮100%
77	兵庫県	有馬郡塩瀬村名塩	G114	「水荃」書簡用箋	39.2	54.3	0.07	16.28	1.093	雁皮100%
78	奈良県	吉野郡國樫村窪垣内	C56	漆こし（吉野紙）	25.2	39.0	0.05	0.77	0.157	楮
79	奈良県	吉野郡國樫村窪垣内	C26-1	生漉宇陀	32.0	47.3	0.18	10.02	0.368	楮（間似合）
80	奈良県	吉野郡國樫村窪垣内	C75	宇陀泥入	32.0	47.0	0.15	10.57	0.469	楮（間似合）
81	奈良県	吉野郡國樫村窪垣内	E61	障子紙	26.2	47.7	0.12	3.61	0.241	楮
82	奈良県	吉野郡國樫村窪垣内	E83	大美栖（表装用）	24.5	63.5	0.09	4.32	0.309	楮
83	奈良県	吉野郡丹生村黒木	G216	吉野紙	24.3	50.0	0.05	1.07	0.176	楮
84	和歌山県	伊都郡九度山町下古澤	A11	高野紙	30.8	44.7	0.16	6.16	0.280	楮
85	和歌山県	伊都郡九度山町下古澤	A43	高野紙	30.6	45.0	0.17	6.82	0.291	楮
86	和歌山県	伊都郡九度山町下古澤	E8-1	高野紙（傘紙）	44.5	31.0	0.12	4.40	0.266	楮
87	和歌山県	伊都郡九度山町下古澤	G54	高野紙	31.0	44.2	0.15	5.28	0.257	楮
88	和歌山県	有田郡八幡村清水	A50	保田紙障子紙	29.7	44.0	0.08	2.70	0.258	楮100%
89	和歌山県	東牟婁郡敷屋村小津荷	E21	音無紙	19.5	25.8	0.05	0.42	0.167	楮
90	和歌山県	東牟婁郡敷屋村小津荷	G60	タテ紙	34.0	45.7	0.35	12.94	0.238	楮

填料有無	填料種類	非繊維物質	繊維溜	繊維束	観 察 所 見
無	—	少	中	少	縦長の紙 楮にパルプ混入紙 下手の障子紙
無	—		中	多	障子紙の並 一部サンプル採取で欠ける
無	—	少	無	無	晒粉使用（江戸時代は無晒と思われる） 糊を使用（粒子状ではなくなる） 填料としては見えない 塩素で紙力が落ちる為、澱粉を入れて紙力を保つ
					紗漉き 一部サンプル採取で欠ける
無	—	皆無			紗漉き 謄写版原紙 一部サンプル採取で欠ける
無	—				楮100%（柔細胞目立つ）薄美濃の典型 白さは晒が良好に廻る パルプ混入 近代美濃紙
有（少）	—	皆無			パルプを主に楮と藁を交える 澱粉質確認できる 現代版杉原紙
無	—	普通			縦横にゆする 塵取り良し 森下 一部サンプル採取で欠ける
					楮100% 柔細胞あり やや白茶を呈す
					楮100%（柔細胞E113より少し） 一部サンプル採取で欠ける
					滓紙の典型
					黄離れ悪し（めくれあり） 漉き手が下手な証拠 澱斑顕著 一部サンプル採取で欠ける
無	—				ごく普通の紙 紙料処理も並 並のちりとり 農閑期紙漉きの典型なるべし
無	—	普通			三極と楮の混合紙 地合悪し 楮の折れ皺（刷毛の時のもの）あり下手
無	—	多			森下 傘紙用 程々の地合
無	—	少	中	少	チリ紙 パルプも入る 再生チリ紙 塵が長く入る
無	—	少	少	少	障子並の上
有	—	？	少	少	紗漉き 填料、透明で米粉より澱粉の粒子が大きい木ネリ 良質の雁皮紙
無	—	少			苛性ソーダ煮熟にて白くきれいなものとなる 歴史上の遺品とは異なる
有	米粉				板目（表 普通） 楮100%米粉入り 紙料処理良好
無	—	少	少	少	折返し（高知の影響を受けたもの） 塵取り良好 紙料処理良好 良質の障子紙なり 板目（表）
無	—		少	中	墨つき繊維もあり 未晒を苛性ソーダで煮たもの 紙料処理は並 塵取り並 厚手帳簿用のもの「縮緬の札紙」（寿岳）
無	—		中	多	泉州チリ紙 滓紙 チリ 再生繊維 墨つき繊維あり 漉返紙
有	白土（多）	？	中	少	繊維は再生紙のものを含む（マニラ麻、パルプ、三極、藁等を交える。役所文書を反故としたもの） 麻を織しものを簀の上に敷く 「保健衛生 襖紙名塩間似合」「普通間似合」印 泥間似合 襖の下張り用のもの
有	白土				「白茶」「保健 衛生 襖紙名塩間似合」 襖下張り用の上手なり パルプ、マニラ麻、稲藁、三極等、役所用紙を反故にしたもの 紗漉き
有	白土				「青二寸」「保健 衛生 襖紙名塩間似合」 パルプ、マニラ麻、三極（改良半紙）、役所用紙を反故にした泥間似合
有	白土				パルプ マニラ麻 三極（改良半紙）の役所用紙を反故としたもの
有	白土				パルプ マニラ麻 三極（改良半紙）の役所用紙反故の泥間似合
有	白土				雁皮にパルプ、三極を交える 雁皮100%でこの簀目では紙床取りができない
有	白土				雁皮100% 泥入間似合 箔打紙用の上質紙 チリ取十分
有	白土				雁皮100% 泥入 紗漉き 竹簀
有	白土				雁皮100% 紗漉 泥入間似合
有	白土				雁皮100% 泥入る 上質間似合
無	—	皆無			漆こし紙
有	白土（多）	多	少	少	宇田紙 宇陀紙 紙料処理良好 塵取良 表具用
有	白土（多）	？	少	少	宇陀紙 白土入り
無	—	少	少	少	障子紙並の上
有	白土（多）	？	少	少	美栖紙 白土入り 寸法簀状の大きさ 板目（表）
無	—	皆無	少	中	吉野 漆こし
無	—	普通			高野紙 紙料処理良好 帳簿用
無	—	普通	少	少	墨付繊維混じる 帳簿用 板目（表）
無	—		少	中	墨付き繊維 藍染繊維混入 漉返紙も入る 紙料処理は良 塵取並
無	—		中	多	高野紙 墨付繊維混入 帳簿用 塵取は並以下 枠貼干し跡あるか？
無	—	少			地合良好 塵取り良 障子紙として並と上の間なり
無	—	皆無	少	多	漆漉し紙の仲間 ヤワヤワ紙なり 音無紙 遊郭用 板目（表裏は不明）
			多	多	外皮の繊維束が入る、目立つ チリが多い 滓紙 包装用のもの

番号	県名	産 地	整理番号	紙 名	縦寸法	横寸法	厚さ	重さ	密度	原 料
91	鳥取県	八頭郡佐治村	C37-2	巻紙（耳付筋入）	19.5	98.5	0.07	4.73	0.352	三極 バルブ 楮
92	鳥取県	八頭郡佐治村	C37-1	巻紙（耳付）	19.6	98.9	0.05	3.06	0.316	三極
93	鳥取県	八頭郡智頭町山形区篠坂	C40	中折（障子紙）	58.0	97.4	0.09	13.15	0.259	三極 バルブ
94	鳥取県	気高郡青谷町赤穂谷	C58	青谷半紙（複写用）	61.4	84.4	0.04	6.96	0.336	三極 バルブ
95	鳥取県	気高郡日置村山根	C62	石州半紙	54.5	74.3	0.09	10.06	0.276	楮 バルブ 稲藁
96	島根県	能義郡広瀬町祖父谷	C33	祖父谷（土なし）	33.2	93.2	0.18	16.10	0.289	楮100%
97	島根県	能義郡広瀬町祖父谷	E57	祖父谷（土入）	31.0	84.5	0.23	23.03	0.382	楮 三極 バルブ
98	島根県	美濃郡四見上村	C59	石州半紙（原紙）	56.8	98.4	0.09	15.74	0.313	楮 バルブ
99	島根県	八束郡岩坂村	D57	出雲竜	47.2	63.5	0.05	5.07	0.338	三極100%
100	島根県	八束郡岩坂村	D72	岩坂藁紙	54.4	70.7	0.18	22.08	0.334	稲藁 三極
101	島根県	八束郡岩坂村	E1-2	雁皮筋入	38.8	52.7	0.07	6.51	0.470	雁皮100%
102	島根県	八束郡岩坂村	E1-4	純桑皮紙	31.8	11.0	0.23	1.54	0.191	桑
103	島根県	八束郡岩坂村	E1-6	三極紙	24.2	32.9	0.08	1.90	0.298	三極 バルブ
104	島根県	八束郡岩坂村	E1-9-2	透入（桐紋）	26.7	32.3	0.15	4.47	0.372	雁皮100%
105	島根県	八束郡岩坂村	E1-10	三極萱賣漉	60.1	99.0	0.07	12.78	0.311	三極 雁皮 バルブ 楮
106	島根県	八束郡岩坂村	E1-18	出雲竜	47.0	31.8	0.07	2.88	0.315	三極100%
107	島根県	八束郡岩坂村	EE1-21	雁皮紙	12.0	10.2	0.14	0.90	0.525	雁皮100%
108	島根県	八束郡岩坂村	E1-25	楮紙	34.7	43.8	0.10	4.49	0.295	楮100%（柔細胞多し）
109	島根県	八束郡岩坂村	G188	雁皮紙	11.6	15.0	0.12	0.94	0.450	雁皮100%
110	島根県	鹿足郡疋見村	D63	楮手漉紙	24.5	34.8	0.08	1.98	0.290	楮（柔細胞有）100%
111	島根県	鹿足郡小川村寺田	D71	半紙	24.7	35.0	0.09	1.94	0.249	楮 三極
112	島根県	鹿足郡青原村	D74	手漉半紙	24.5	33.4	0.07	1.56	0.272	楮 バルブ 稲藁
113	島根県	鹿足郡	D76	障子紙	25.0	47.2	0.10	3.02	0.256	楮 稲藁 バルブ
114	岡山県	津山市宮川	C49	箔合用紙	55.2	69.0	0.04	5.16	0.342	三極100%
115	岡山県	津山市宮川	C53	膏薬台紙	53.5	99.0	0.10	12.88	0.243	楮 バルブ 稲藁
116	岡山県	津山市宮川	C54	障子紙	61.5	95.5	0.15	20.67	0.235	楮 バルブ 稲藁
117	岡山県	津山市宮川	E147	膏薬台紙	29.4	35.7	0.13	3.83	0.281	楮 バルブ 稲藁
118	岡山県	阿哲郡新見町高尾	G8	帳簿紙	28.7	37.8	0.09	2.96	0.303	楮 バルブ
119	広島県	比婆郡庄原町柳原	C44	諸口	28.1	93.7	0.09	6.61	0.279	楮100%
120	広島県	広島県	E17	型紙用原紙	63.3	90.5	0.10	13.43	0.234	楮 バルブ
121	広島県	高田郡有保村保垣	E47	有保障子紙	28.8	91.2	0.12	7.90	0.251	楮100%
122	広島県	甲奴郡田総村	E51	半紙	24.5	26.9	0.05	1.24	0.376	三極 バルブ 楮
123	広島県	比婆郡庄原町柳原	E112	柳原奉書	38.5	52.9	0.22	12.00	0.268	楮 バルブ
124	山口県	佐波郡島地村徳地	D60	（徳地半紙）	24.8	35.0	0.13	2.69	0.238	楮100%
125	山口県	佐波郡島地村徳地	G224	徳地中保	23.9	33.1	0.06	1.13	0.238	楮100%
126	山口県	玖珂郡河山村夏宿	E102-1	障子紙	53.7	51.4	0.10	8.54	0.309	楮100%
127	徳島県	不詳（神領村か）	C32	障子紙	28.5	93.8	0.10	6.57	0.246	楮 三極
128	徳島県	麻植郡川田町	E197	仙花四つ幅	64.0	88.5	0.25	34.12	0.242	楮 バルブ 小麦 藁
129	徳島県	名西郡神領村小野	E204	障子紙	24.7	93.8	0.15	7.18	0.210	楮
130	愛媛県	北宇和郡泉村岩谷	E146	中仙	30.5	40.3	0.19	6.46	0.285	楮
131	愛媛県	北宇和郡泉村岩谷	E209	仙貨	31.7	42.3	0.08	7.25	0.676	楮
132	愛媛県	北宇和郡明治村延野々	E196	中仙	30.5	40.5	0.22	5.91	0.224	楮
133	愛媛県	周桑郡國安村	E203	奉書	55.0	79.0	0.18	27.13	0.347	バルブ
134	高知県	幡多郡昭和村細々々	E96	仙貨	31.6	43.0	0.12	4.73	0.290	楮100%
135	高知県	土佐	G129	土佐宇田紙	32.7	48.5	0.16	7.28	0.287	楮100%
136	高知県	土佐	G130	土佐仙花	31.5	43.0	0.16	5.97	0.275	楮100%

填料有無	填料種類	非繊維物質	繊維溜	繊維束	観 察 所 見
					三極にバルブ入る、楮の繊維束を配合し、全体に楮入りとなる
					三極のみ
					板目（表 微か） 三極、バルブ混合
					三極にバルブを配合
					楮にバルブ入り（稲ごく僅に入る）
					楮100%
有	白土				楮、三極、バルブ、白土入り（再生紙にバルブ）
					板目（表 普通） 楮にバルブ配合
					漉取り良好
					紗漉 藁に三極を交える 一部サンプル採取で欠ける
有	米粉（普通）				雁皮繊維束を交える 一部サンプル採取で欠ける
					桑を紅染（弁柄と墨）せしもの
					三極にバルブ交える
					板目（表） 雁皮100% 一部サンプル採取で欠ける
					三極が主に雁皮、バルブ、楮の漉返しを交える（古紙の漉返しを混入せしもの） 一部サンプル採取で欠ける
					三極100% バルブ僅に見ゆ 一部サンプル採取で欠ける
					雁皮100%
					楮100%（柔細胞多し）
					雁皮100%
					板目（表 微か） 楮（柔細胞あり）100%
					楮に三極配合
					楮にバルブを配合 稲が交る
					板目（表 微か） 楮、稲、バルブ配合
					三極100% 一部サンプル採取で欠ける
					板目（表 明瞭） 楮、バルブ、藁入り 白さ有り
					楮、バルブ、藁入り
					板目（表 普通） 楮にバルブ、藁入り
					楮、バルブ入り
					楮100%
					楮、バルブ入り
					楮100%
					三極にバルブ、楮を入れる
有	米粉（多）	皆無			楮、バルブ、米粉入り 近代奉書紙なり
有	米粉（少）				板目（表 普通） 楮100% 米粉入り 杉原に近い
					板目（表 普通） 楮100%
無	—				板目（表 明瞭） 楮100% 穴状に見えるのは糞の間隔
無	—	皆無			板目（表 普通） 水洗良好 表繊維縦に良く流れる ソーダ灰、塵取良好 紙素良好 楮に三極を交える 三極で地合良好となる
					板目（表 普通） 楮にバルブに稲藁（小麦藁）を交える フォクシング目立つ（バルブ3.5 楮3 小麦3.5） 混合紙 一部サンプル採取のため欠ける
無	—				板目（不可視） ソーダ灰（晒し粉で晒すとカビが出易い） 茶色は鉄板のさびから来たもの 極小の点々はさびなるべし 一部サンプル採取のため欠ける
無	—	多	多	多	二枚合わせ 米粉の入らない方一段落ちる 一部サンプル採取のため欠ける
有	米粉（多）	多	少	中	仙貨紙 米粉入り 二枚重ね
無	—	多			黒皮入り 桁で二枚に合わせる（上桁をはずし四枚糞の上二枚を下に重ねて 二枚重ね） 板目（裏） 一部サンプル採取のため欠ける
無	—	皆無	無	無	繊維はバルブ バルブ奉書
有	米粉（少）	少	少	中	米粉少々入る 糸目幅の重なり仙貨紙
無	—	少			板目（裏）
無	—	少	中	少	板目（表）

番号	県名	産 地	整理番号	紙 名	縦寸法	横寸法	厚さ	重さ	密度	原 料
137	高知県	吾川郡神谷村成山	G198	典具帖紙	48.2	47.8	0.04	2.45	0.266	楮
138	高知県	吾川郡神谷村成山	G227	糊入四巾紙	48.7	36.2	0.08	4.22	0.299	楮 バルブ
139	高知県	吾川郡神谷村成山	G234	改良小杉原	14.5	17.8	0.09	0.75	0.323	楮100%
140	高知県	吾川郡神谷村成山	M73	言上紙	20.2	31.5	0.26	5.96	0.380	三桮 雁皮 楮
141	高知県	吾川郡神谷村成山	M74	(紙名なし)	24.3	47.0	0.08	0.80	0.088	亜麻かエスパルト (イネ科植物)
142	高知県	高岡郡須崎町(？)	G233	須崎半紙	24.8	34.5	0.11	2.85	0.303	楮
143	佐賀県	神埼郡仁比山村三谷	D95	(防虫加工紙)	49.0	52.6	0.14	9.41	0.261	楮100%
144	佐賀県	神埼郡仁比山村三谷	G144	施葉紙	33.4	23.5	0.17	4.01	0.301	楮 三桮
145	長崎県	北高来郡湯江村	D32	京花紙(原紙)	63.5	82.5	0.06	4.33	0.138	楮100%
146	長崎県	北高来郡湯江村	D88	障子紙(又は提灯紙)	55.7	97.5	0.10	13.13	0.242	楮 バルブ
147	熊本県	八代郡宮地村	D37-2	白塵	49.0	62.9	0.06	2.40	0.130	楮100%
148	熊本県	八代郡宮地村	D49	白漉返	44.7	59.1	0.12	5.84	0.184	楮 バルブ 稲藁
149	熊本県	八代郡宮地村	D54	藁半紙	24.2	32.3	0.10	1.78	0.228	楮 稲藁
150	熊本県	八代郡宮地村	D55	(障子紙)	24.9	93.2	0.09	4.87	0.233	楮 バルブ マニ ラ麻 稲藁
151	熊本県	八代郡宮地村	D89	楮と藁の混合紙	24.0	33.0	0.07	1.23	0.222	三桮 バルブ
152	宮崎県	児湯郡上穂北村坂江	B21	厚美濃紙	27.5	39.7	0.10	3.09	0.283	三桮100%
153	宮崎県	児湯郡上穂北村坂江	D104	(障子判原紙)	55.5	99.2	1.15	15.34	0.024	楮100%
154	宮崎県	児湯郡上穂北村坂江	D107	(半紙)	39.9	28.2	0.08	2.14	0.238	楮 バルブ 三桮 雁皮 稲藁
155	宮崎県	児湯郡上穂北村坂江	D110	(京花紙)	21.7	28.3	0.06	0.45	0.122	楮100%
156	鹿児島県	日置郡伊作町中津	D29	伊作障子紙	26.6	93.5	0.15	5.31	0.142	楮 稲藁
157	鹿児島県	日置郡伊作町中津	G178	伊作障子紙	26.6	93.3	0.12	6.63	0.223	楮
158	鹿児島県	始良郡加治木町	D43	半紙	26.5	37.8	0.13	2.56	0.197	楮 バルブ
159	鹿児島県	始良郡加治木町	D48	傘紙	58.0	47.1	0.15	10.34	0.252	楮100%
160	鹿児島県	始良郡加治木町	D92	提灯紙	56.5	98.0	0.15	13.46	0.162	楮100%

(注 記)

- 番号は、便宜的に産地の東北地域から西南地域へと順番に配列した。
- 産地は、寿岳文章氏の記録による。
- 多可町立和紙博物館壽岳文庫における整理のための番号。
- 紙名は、寿岳文章氏の記録による。
- 縦寸法は、糸目の流れている方向の長さで、単位はcm。
- 横寸法は、簀目の流れている方向の長さで、単位はcm。
- 厚さは、端奥天地の縁辺各三箇所計測し、その平均値を算出、単位はmm。
- 重さの単位は、g。
- 密度は、1cmあたりの重さ、単位はg/cm。
- 原料は、料紙の原料である繊維の種類。適宜主原料の繊維のほか、配合や混合・混入の繊維も併記した。
- 填料有無は、料紙の原料である繊維以外に加えられた填料の有無。
- 填料種類は、米粉や白土の別、適宜()内にはその分量の程度を示した。
- 非繊維物質は、柔細胞など繊維以外の原料物質の残存度合いを示した。
- 繊維溜は、漉き込みに際し、繊維が漉舟の中で攪拌されたときに、絡まってできた繊維の塊で、その程度を示した。
- 繊維束は、原料の叩解に際し、十分叩解されないで残った繊維の束で、その程度を示した。
- 観察所感は、主として顕微鏡で原料・填料・非繊維物質等を観察し、その他の表面観察を加えて、総合判断した所見を書き付けた。なお、寿岳文章氏の記録を引用部分については、「○○○・・・」(寿岳)として断わった。

填料 有無	填料種類	非繊維 物質	繊維溜	繊維束	観 察 所 見
無	—	皆無			典具帖 紗漉 重さ（名称札つきのまま測る）
有	米粉（多）	皆無	無	無	パルプが大半 楮にパルプ混合紙 米粉入り（糊入四巾紙） 重さ（名称札つきのまま測る）
有	米粉（普通）	皆無	無	無	改良小杉原 且て漉きしもの、サンプル採取僅あり 重さ（名称札つきのまま測る）
有	米粉（少）	普通	少	中	成山の御用紙漉屋よりの上納品 三桎を主に雁皮と楮を交へる 三種混合紙 一部サンプル採取のため欠ける
					染紙 金寶 欧州紙なり 亜麻かエスパルト イネ科の植物が入る 本紙はなく札のみか
無	—	少	少	少	板目（表） 須崎半紙 石灰煮熟 重さ（名称札つきのまま測る）
		多			楮100% （非繊維物多）黄蘗染
					板目（表 微か） 楮に三桎入り
					板目（表 微か） 楮100% 再生紙 水洗良好（再生繊維塵状に見ゆる）
					板目（表 微か） 楮にパルプ混入
					板目（表 微か） 楮100% 水洗良好の再生紙
					板目（表 普通） 楮、パルプ（木材パルプ）、稲藁、混合再生紙 下手の紙
		多			板目（表 微か） 楮、稲藁入り 非繊維物質多し
無	—				板目（表 微か） 楮、パルプ交りに僅かにマニラ麻、稲藁が入る 水洗良好 白さあり
					板目（表 微か） 三桎主体に僅かにパルプ交る
					板目（表 微か） 三桎100%
		多			板目（表 微か） 楮100%（非繊維多し）
					板目（不可視） 楮にパルプ、三桎、雁皮、藁の混合紙（再生紙 水洗良好）
					板目（表 微か） 楮100% 再生紙 水洗良好
無	—				板目（表 微か） 楮に稲入り
無	—	多			板目（表 普通） 楮 水で溶かすと格子状の交りあり 染色したら非繊維物質が多いことが判明 一見 填料にみえる
					板目（表 微か） 楮にパルプを交える
					板目（表 微か） 楮100%
無	—				板目（表 普通） 楮100% 水洗漉取り良く 繊維縦に良く流れる 地合良好

付：寿岳文章和紙コレクション調査データ表に見える近代和紙

本調査は、従前から湯山グループが使用している調査票に基づいて行ったが、調査項目が多岐にわたるためすべての項目を一つの表に収めることが難しく、やむを得ず取捨選択したうえで、ⅠとⅡの2つの表に分けて掲載した。第Ⅰ表は主として料紙の表面の観察計測のデータを選んで載せ、第Ⅱ表は主として料紙の原料・填料・抄紙技術などを判断できるデータを集めて載せた。それぞれのデータ項目についての説明は各表の下に注記してある。

本調査の結論は、湯山賢一の執筆にかかる調査概要にまとめられているように、「寿岳コレクションの最大の特徴は、こうした時代背景の中で作られた和紙遺品を全国的規模で蒐集したところにあり、その内容は近世の抄紙系統を継承するものと、近代の技術変革の実態を具体的に示す遺品に大別することができる」というものである。ここでは、この近代和紙の二様の姿を、表Ⅰ・Ⅱの調査項目に即して順次説明を行ってみる。

「紙名」は寿岳文章の記録に拠ったものであるが、その名称は檀紙・奉書・杉原・美濃・森下・典具帖・鳥の子・間似合・打雲・中折・半紙・延紙・八寸・三栖・宇陀・高野・西ノ内・程村・仙花など近世以来の伝統的な名称をもつもの、また近代にも用途とされている障子紙・傘紙・提灯紙・塵紙・巻紙もあれば、あるいは近代の製法や原材料で作られたことを示すかのような改良小杉原・改良半紙・四巾紙・三桎紙・麻紙（大麻）・純桑皮紙・藁半紙などもある。しかし、これらの名称の紙は、額面通りのその性質を持ち合わせていたかどうかは、精密な紙質の検査をしないと正確なことはわからないものである。

近世における紙の大きさは、大高檀紙が高 53 cm ほど、大広奉書が高 44 cm ほどであるほかは、杉原紙が高 29～35 cm、美濃紙が 28～30 cm、小杉や半紙が高 17～21 cm で、ほとんどは高さが 33 cm 以下であった。しかるに、寿岳コレクションの料紙の大きさは、「形状」が耳付のもの（漉き上げられたままで縁が裁断されていないもの）89 点だけで見ても、高さが 33 cm 未満のものは 32 点であり、33 cm 以上のものは 57 点にのぼる。後者の内 50 cm 以上のものは 32 点である。高さが大きいのはそれ相応に横も大きいのであるが、このようにこれらのコレクションの和紙はほぼ 3 分の 2 ほどが、調査概要で指摘している「大型簀桁」を使って漉き上げられた紙ということができる。ちなみに、のちにも言及するが、これらの 89 点の内、「原料」欄にパルプ配合、混合の旨が記されているものは、33 cm 未満では 32 点中 4 点のみであったのに対し 33 cm 以上は 57 点中 17 点を数える。つまり大型簀桁を使って漉いた紙ほどパルプを混ぜる率が高いという結果になっている。

紙の「密度」は、その原料や製法によって大きく異なるが、現在の雁皮紙については大川昭典が市販のものを計測計算したところ、0.56～0.61 であった（大川「楮・雁皮配合紙

の手漉き試験」2010 科研報告書『紙素材文化財の年代推定に関する基礎的研究』)。楮原料の文書料紙については、富田が東寺百合文書の例で計測計算した結果、杉原紙が 0.22～0.24、檀紙が 0.24～0.29、強杉原が 0.28～0.34 であった(富田「室町時代の杉原紙」2019 兵庫県多可町『杉原紙総合調査報告書』)。寿岳コレクションに見える紙の「密度」は、0.20 未満の紙は 12 点(0.10 以下の 2 点は除く)で、京花紙・音無紙・塵紙などの化粧紙や漆漉紙・吉野紙などの薄手の楮紙である。0.20～0.25 のものは 23 点で、障子紙などが目立つ。0.25～0.30 のものは 42 点で、檀紙・奉書・杉原・美濃・森下・半紙・宇陀・高野・西ノ内・程村・仙花・典具帖など近世以来の伝統的名称の紙が目立つ。0.30～0.35 のものが 38 点で、障子紙・傘紙・帳面紙・渋紙用厚紙・箔合用紙・札紙などのほか、奉書・森下・中折・延紙・間似合などの伝統紙に加え改良杉原紙などがある。0.35～0.40 のものは 22 点で、美濃・書院・西ノ内・程村・半紙・言上紙などの伝統紙に加えて改良半紙などがある。0.40 以上は 18 点で、宇陀や間似合などの泥入りの紙と原料が雁皮である紙である。近世の紙の密度を厳密に調査したことがないので、中世の杉原・檀紙・強杉原が 0.22～0.34 ということを参考にして、近世においても楮原料の紙である檀紙・奉書・杉原・美濃・延紙・半紙などは、この密度に収まるものだとすれば、寿岳コレクションに見える伝統紙は近世のそれよりも少しずつ密度が大きいように思われる。特に、改良小杉原の密度が 0.32、改良半紙の密度が 0.38 というのは伝統的な小杉原や半紙(中世の杉原は 0.22～0.24)よりもかなり大きい数値を示している。これは、おそらく、漉き上げた紙を紙床に重ね、水を絞る時の道具の改良によるところが大きいものと考えられるとともに、筆記用紙などでは、筆記用具の変化に伴い固めの紙が要求されるようになったという時代的要求があったためかとも思われる。

「簀目」には、料紙に付いた漉簀の簀の痕跡が 1 寸の間に並ぶ本数を表示したものである。東寺百合文書に残る室町期の杉原紙は簀目 18～20 本の竹簀で漉かれ、同じく檀紙は 13～15 本の萱簀で、同じく強杉原は 10 本～11 本の萱簀で漉かれたと考えられる。これに準じて考えれば、寿岳コレクションにおいても、15 本以下のものは萱簀で漉いたものかと思われるが、これは 3 点のみですべて和歌山県の紙である。16 本以上のものは 97 点確認され、これらは全て竹簀と考えてよいであろう。そうすると、近代の大型簀桁にはこのようにほとんど竹簀を用いるようになったことを示している。また、簀目が不可視であるものの内には紗目が確認できるものが 17 点あり、このうち半数の 8 点が雁皮を原料とするものであるが、残りは楮を主原料とするもので障子紙・漆漉紙・吉野紙・典具帖紙・改良小杉原・改良半紙などである。近世以前で紗漉のものは、鳥の子・間似合などの雁皮を原料とするもののほか、楮を主原料とする紙としては引合・奉書紙・宿紙などに限られていた。近代においては、これ以外の楮原料の抄紙にも紗漉が広がっているかのようである。

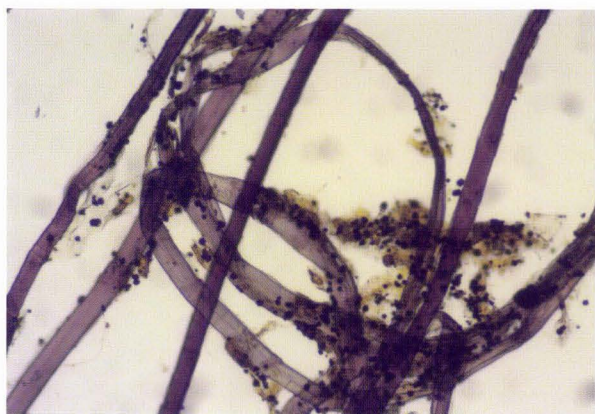
「填料種類」としては、白土 14 点、米粉 24 点が見える。白土入りは雁皮や三桮を主原料とする間似合であるが、楮を主原料にするものとしては宇陀や三栖、祖父谷土入などもある。米粉入りの料紙としては、檀紙・奉書・程村・西ノ内・中折・半紙・改良小杉原など主として杉原系統の楮紙に入れられ、雁皮系統としては雁皮筋入・言上紙の 2 点のみである。米粉入りの伝統は近世から連続するものではあるが、他方において越前の奉書紙や播磨の杉原谷の杉原紙などの産地では米粉入りの奉書や杉原紙の伝統が忘却されてしまっている現実もある。

最後に、「原料」の判定は顕微鏡による透過光観察によるのであるが、それをより確実にするのは、サンプルを採取して C 染色液検査によって呈色させ、原料成分や填料を識別する検査方法である。このような検査ができるのは、寿岳文章氏自身がこのコレクションを和紙研究のサンプルとして収集して、自身もいくつかの検査のためや研究見本として切り取りをしているからである。C 染色液検査結果の顕微鏡画像は、高島晶彦が 200 倍の倍率で撮影し、図版として本報告に載せている。その画像の見分け方については、大川昭典の「繊維形態及び C 染色液の呈色」として別に解説している。これをも参考にして判断した主原料や配合した原料を書き上げたのがこの欄である。ここで特記すべきことは、本来近世以来楮のみを原料として漉いてきた和紙にパルプ・三桮・雁皮・藁などを配合して、改良和紙を作っている実態である。パルプを配合している紙は、44 点見受けられ、その中には、奉書・西ノ内・程村・美濃紙・書院・半紙・間似合・巻紙・半紙・仙花紙などの伝統的名称を持つ紙も含まれている。マニラ麻などの麻を配合したものは 6 点、稲藁や小麦藁などの藁を配合したものは 13 点、三桮を配合したもの 11 点、雁皮を配合したもの 3 点である。このように、近代の和紙は、良くも悪くも楮に新しい繊維原料を配合しながら新しい和紙の創作に取り組んでいたといえよう。

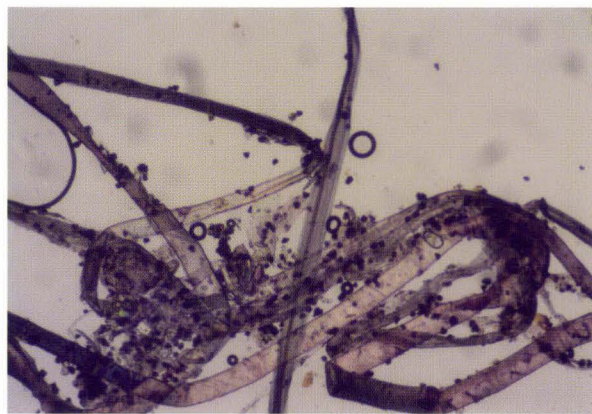
以上、寿岳文章和紙コレクション調査結果データ表の各項目に現れた近代和紙の姿の一端を切り取り、紹介してみた。

Ⅲ C 染色液検査結果顕微鏡写真

付 繊維形態及び C 染色液による呈色



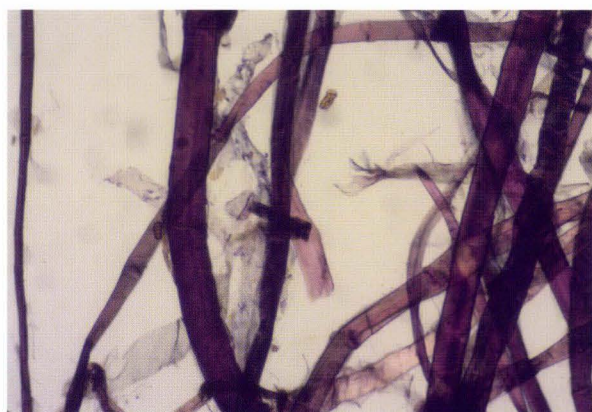
1 岩手県 障子紙 G84



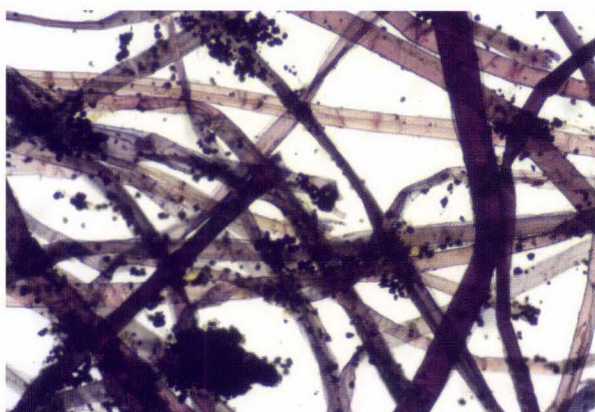
2 岩手県 程村 G86



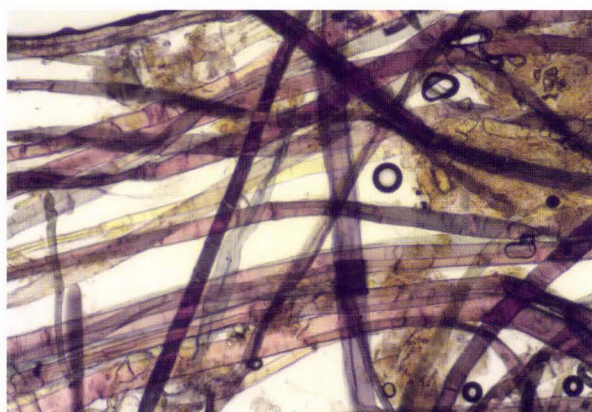
3 岩手県 傘紙 G87



4 宮城県 白石 F6



5 宮城県 白石檀紙 G4



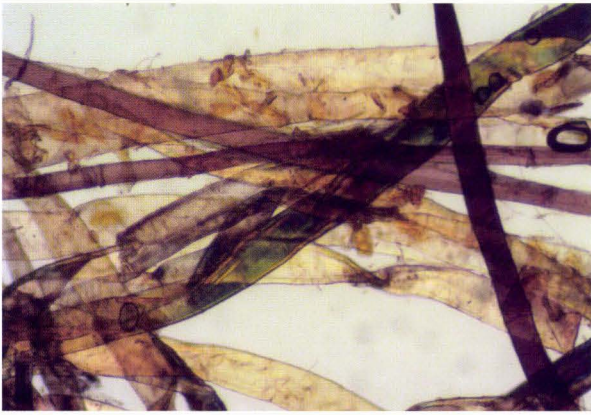
6 宮城県 白石の紙 G109



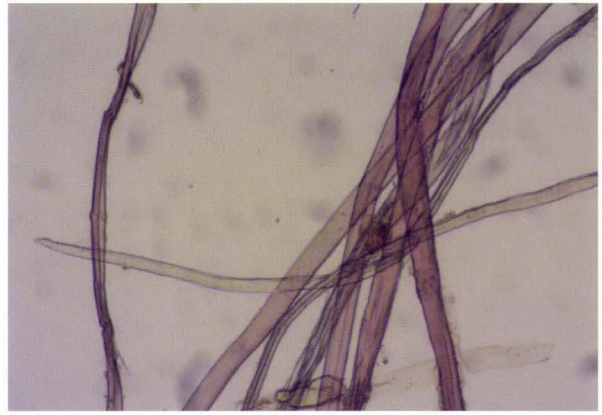
7 秋田県 障子紙 D82



8 山形県 大奉 E76



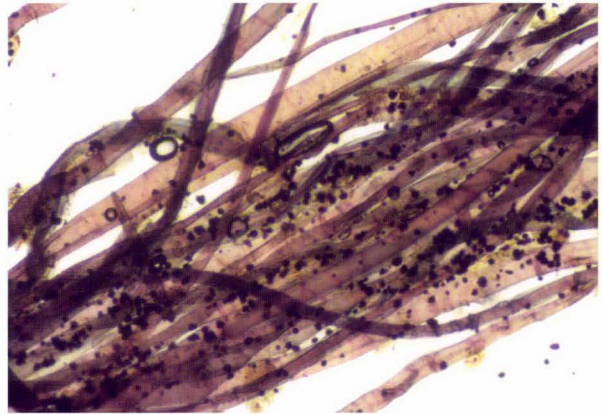
9 山形県 傘紙 E38



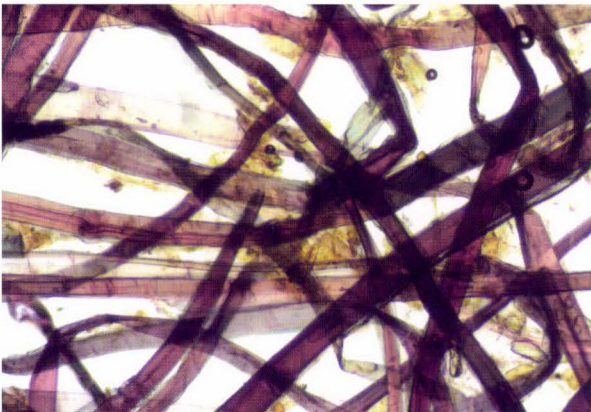
10 山形県 麻布小判 E23



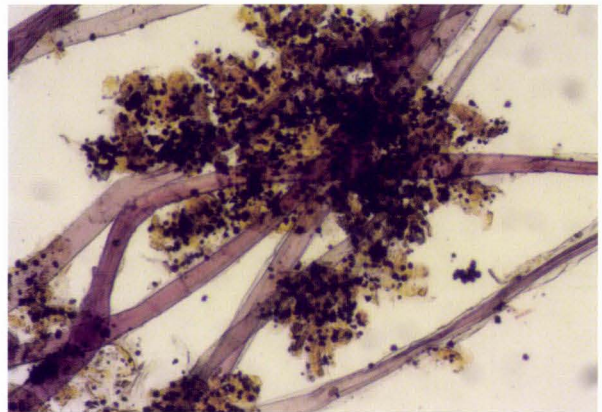
11 山形県 障子紙 G59



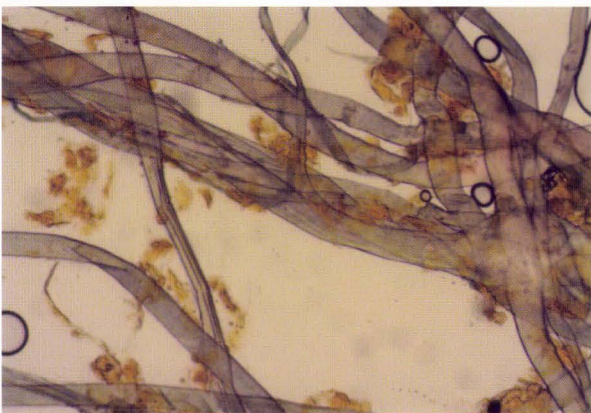
12 福島県 川口判傘紙 B56



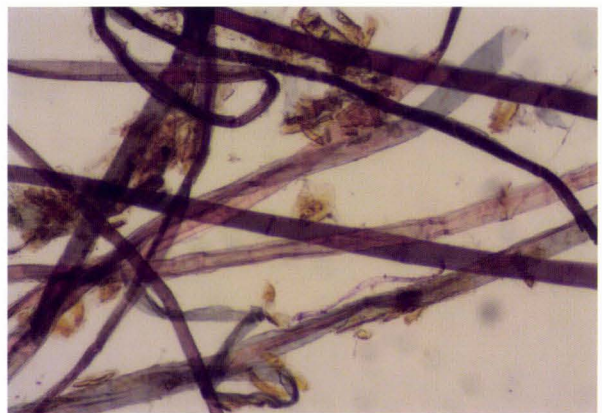
13 福島県 窓紙 G210



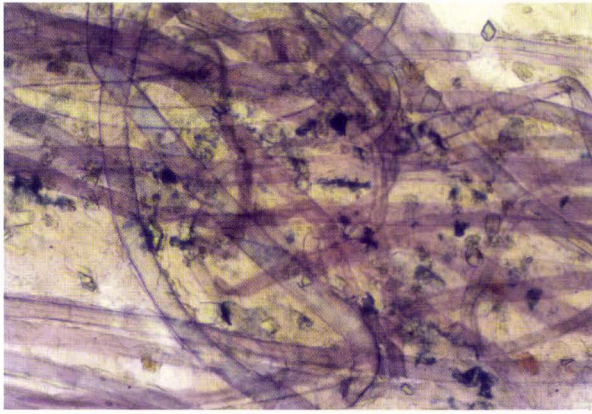
14 福島県 中折障子紙 B61



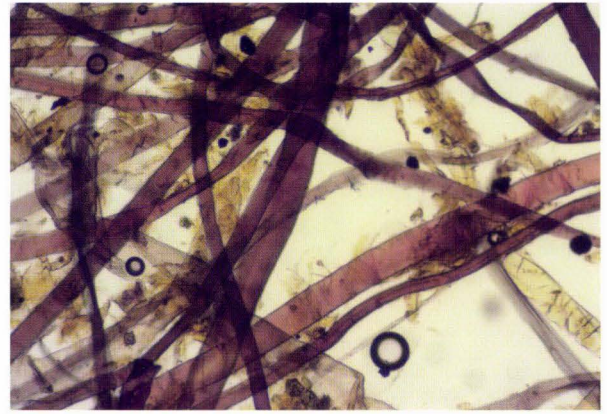
15 福島県 美濃判 D18



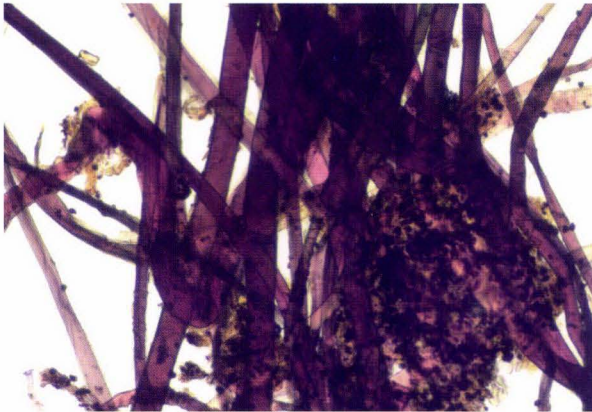
16 福島県 障子紙 D7



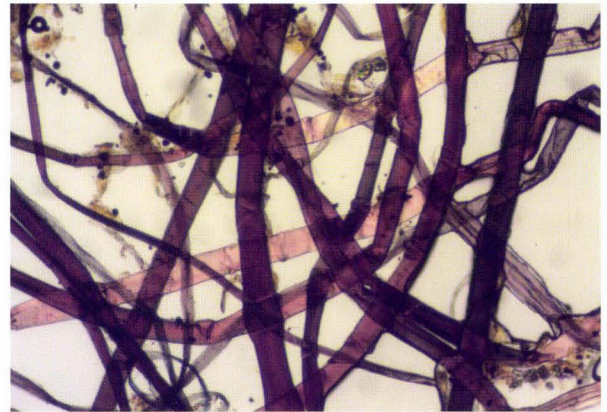
17 福島県 厚紙（渋紙等用） E108



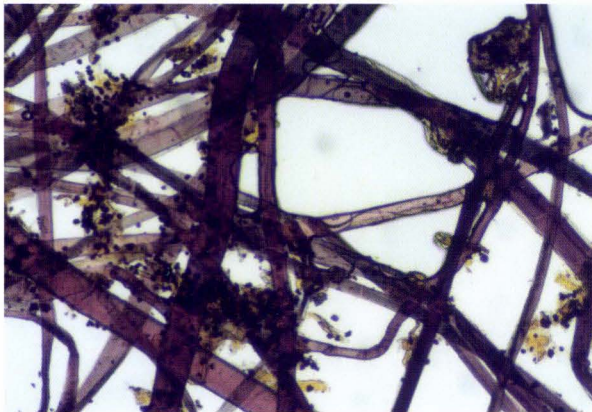
18 福島県 延紙 E189



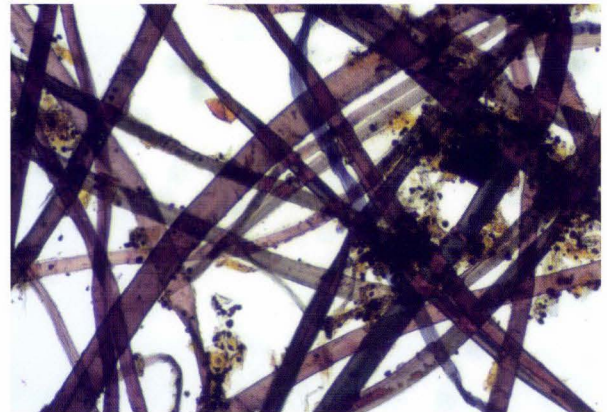
19 茨城県 程村 E25



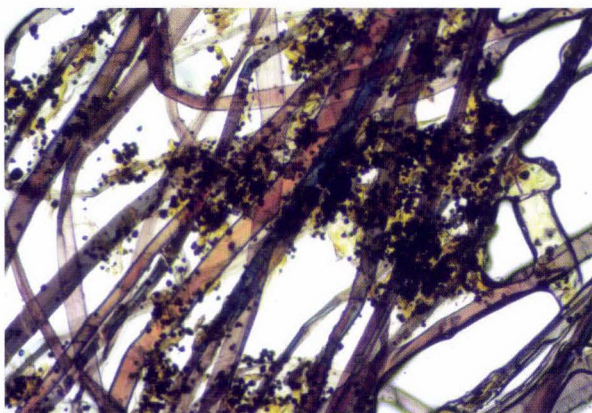
20 茨城県 五把（原紙） E74



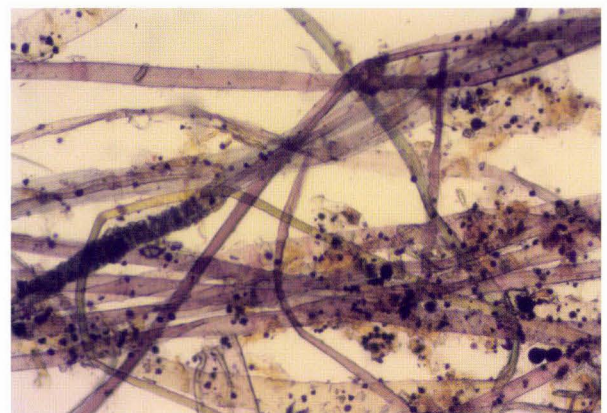
21 茨城県 西ノ内（雨傘用） E65



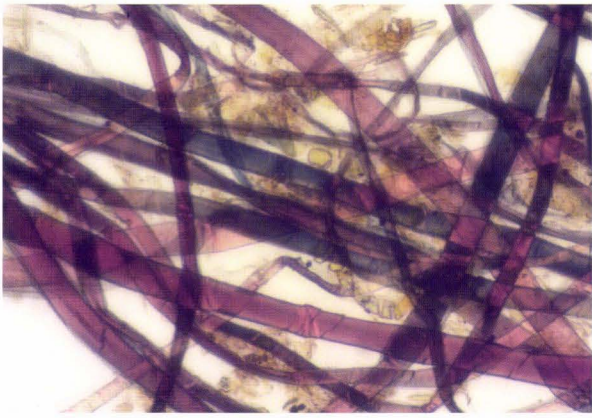
22 茨城県 程村（投票用） G181



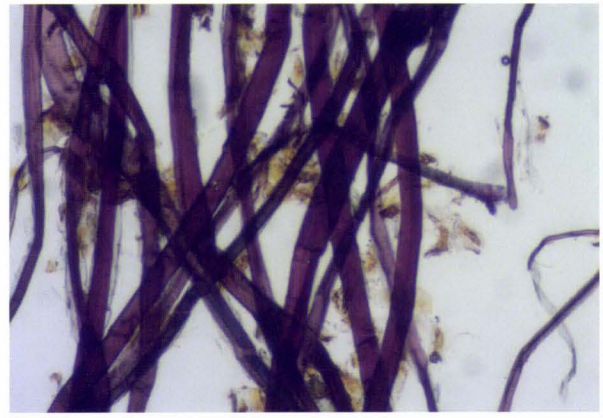
23 茨城県 西ノ内 G229



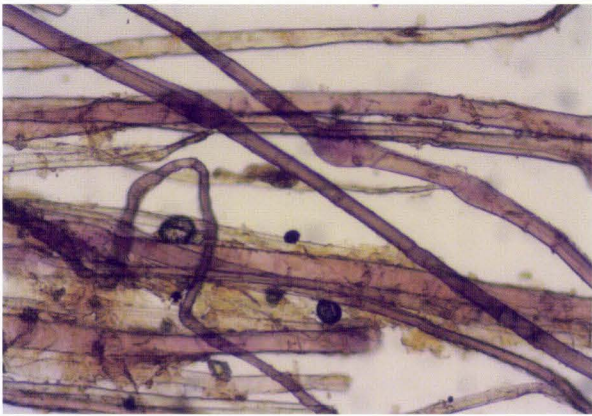
24 茨城県 程村（四枚取り） E70



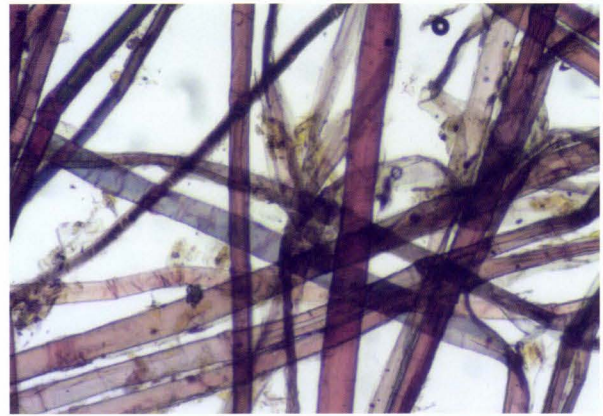
25 茨城県 程村 E142



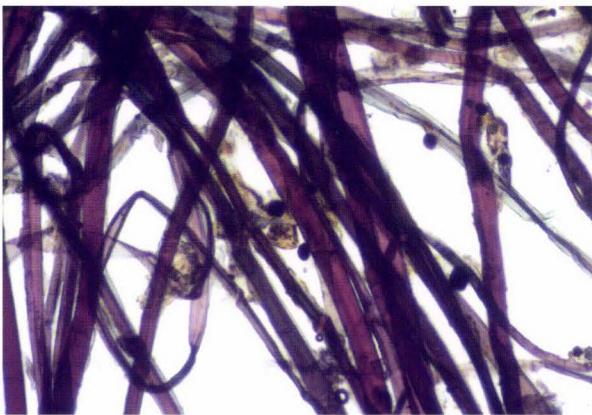
26 栃木県 飛駒障子紙 G217



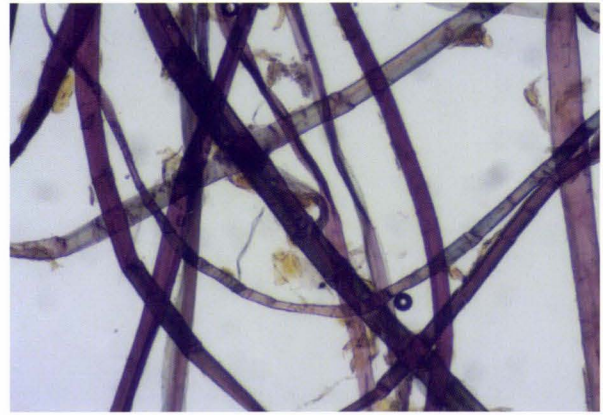
27 栃木県 飛駒紙八寸（旧式） E50



28 群馬県 障子紙（窓紙） E85



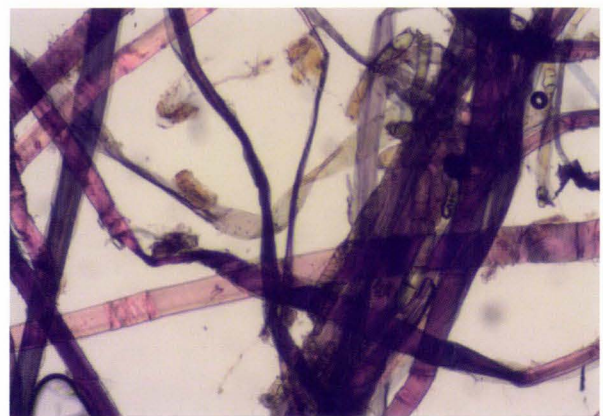
29 神奈川県 障子紙 E46



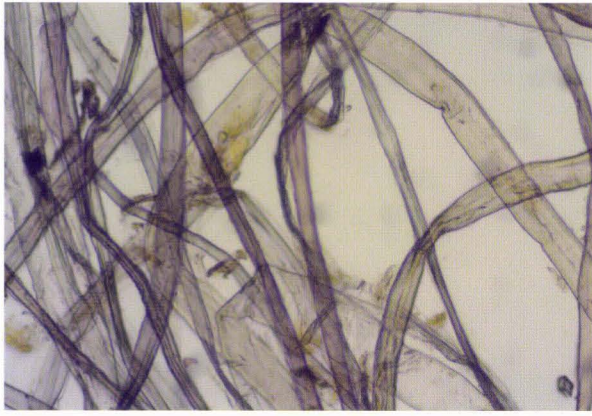
30 新潟県 障子紙 E56



31 新潟県 小国紙 E84



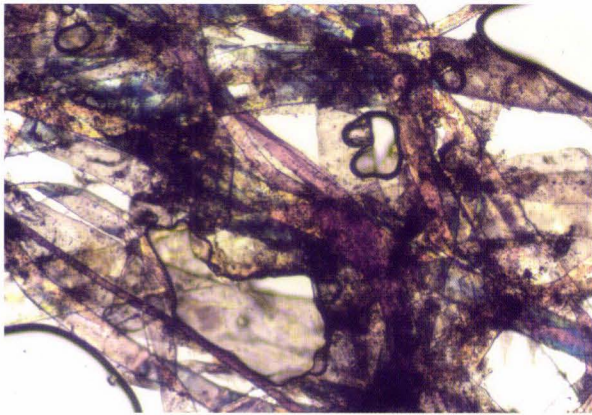
32 富山県 本高熊（粗）厚口 A39



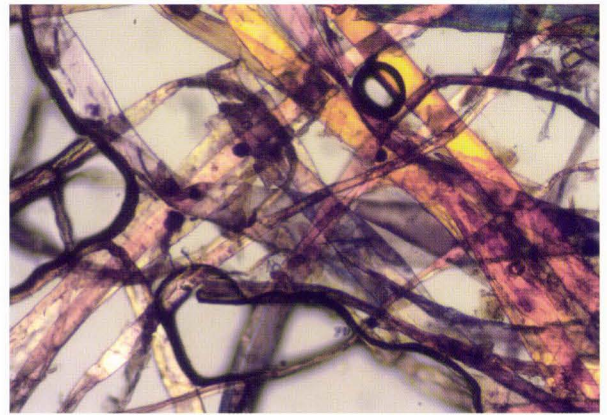
33 富山県 叩込 D144



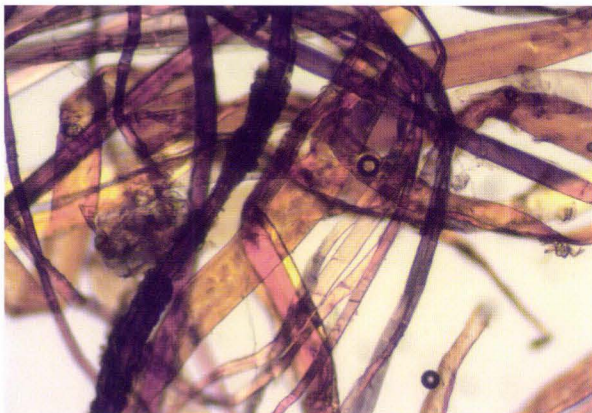
34 富山県 本高熊（精） D152



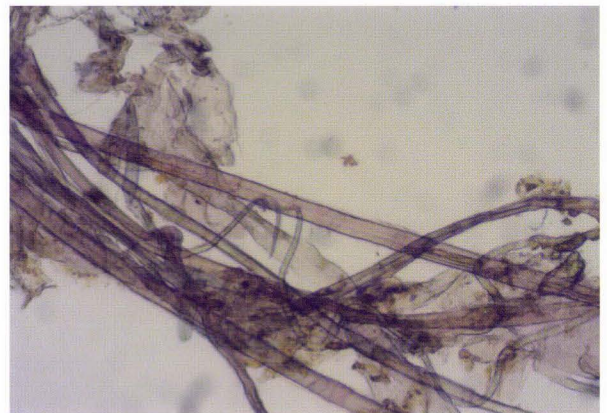
35 富山県 中宇（紅柄紙） E100



36 富山県 草木染薄紙 E105-1



37 富山県 草木染薄紙 E105-2



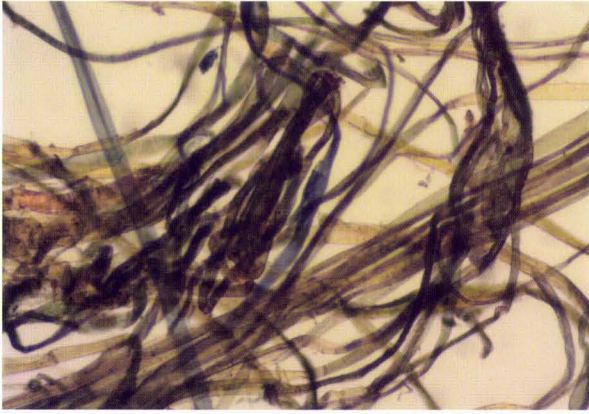
38 石川県 長谷田半紙 D172



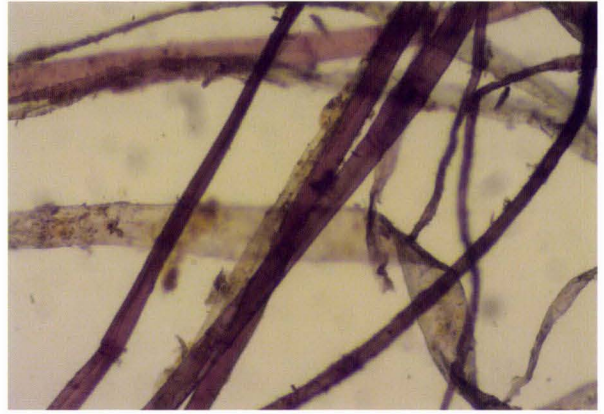
39 石川県 板奉書 G15



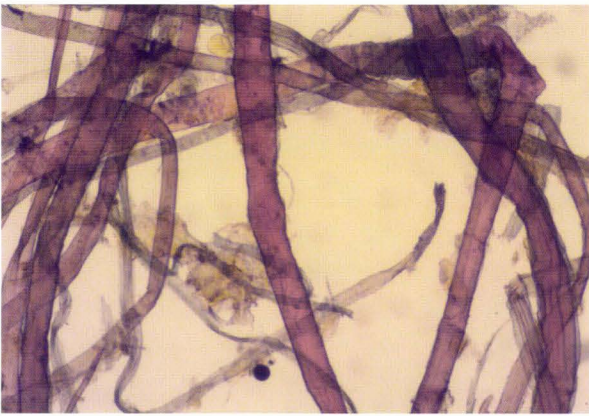
41-1 福井県 打雲 G27（地の部分）



41-2 福井県 打雲 G27 (墨流し部分)



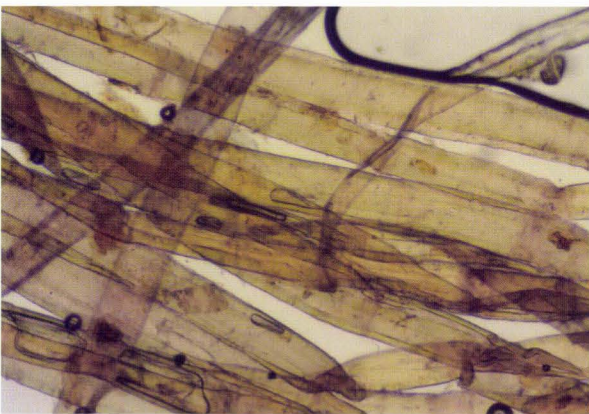
42 福井県 麻紙 G237



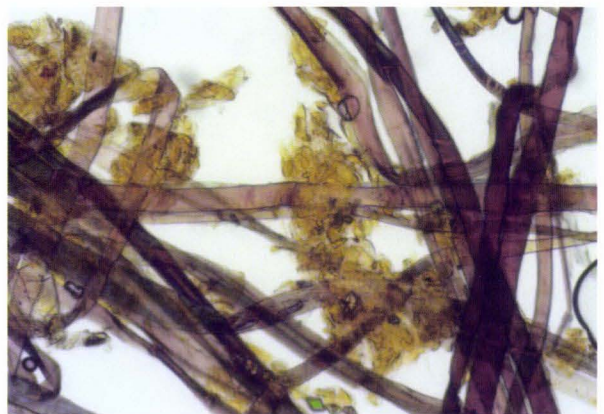
43 福井県 帳面紙 G51



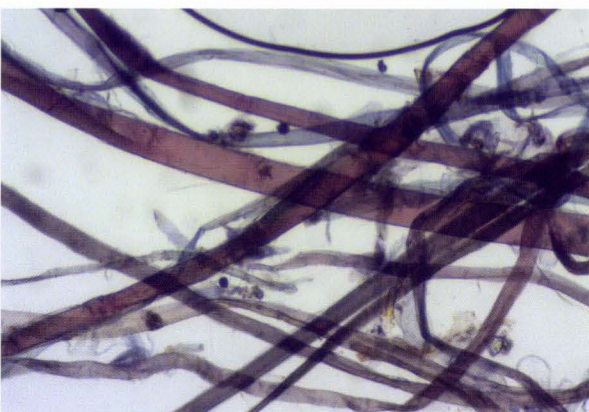
44 山梨県 改良半紙 D114



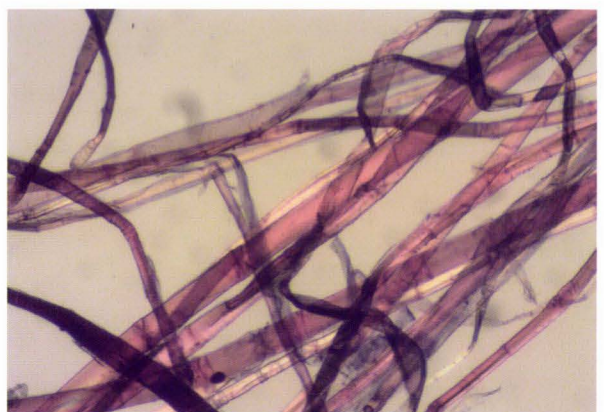
45 山梨県 楮紙 (縦長) D135



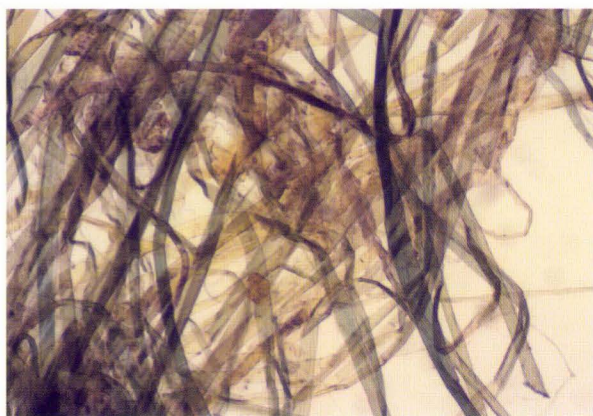
46 山梨県 障子紙 E103



47 長野県 内山紙 D138



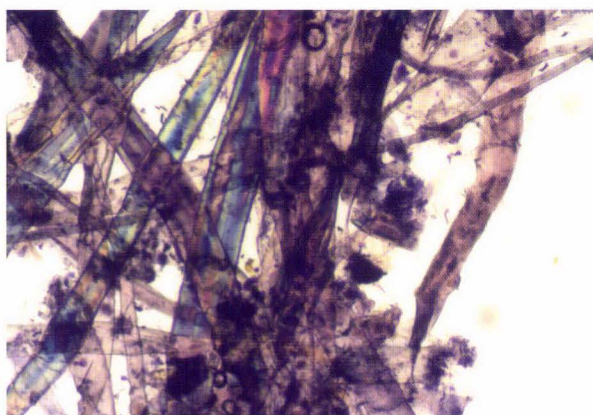
48 岐阜県 典具帖 E86



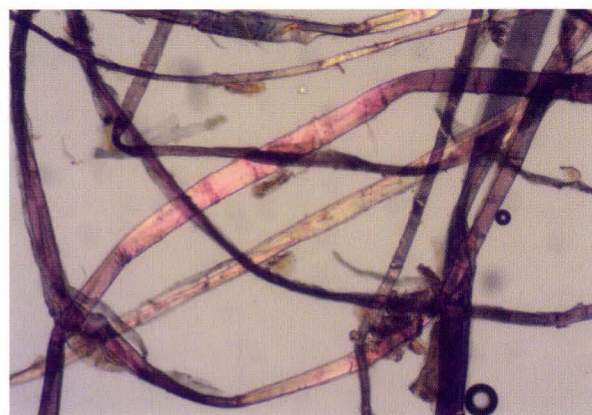
49 岐阜県 鉄筆原紙 E106



50 岐阜県 美濃紙 E135



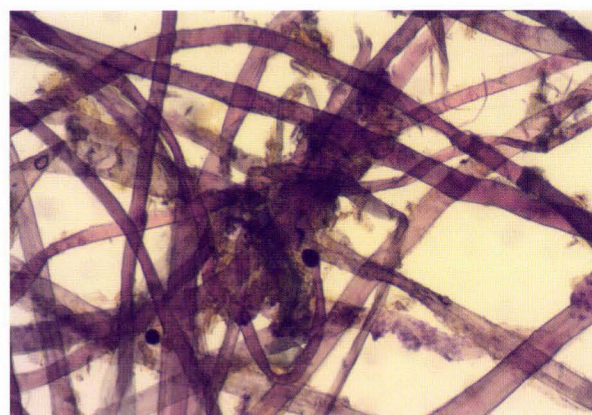
51 岐阜県 書院 E151



52 岐阜県 青波森下 E92



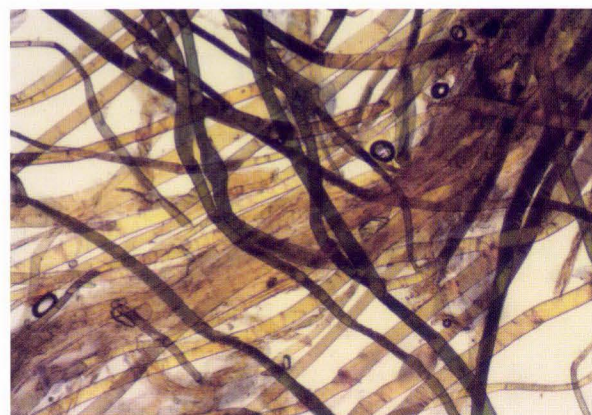
53 岐阜県 青波森下 E113



54 岐阜県 青波森下 G150



55 岐阜県 塵紙 E152



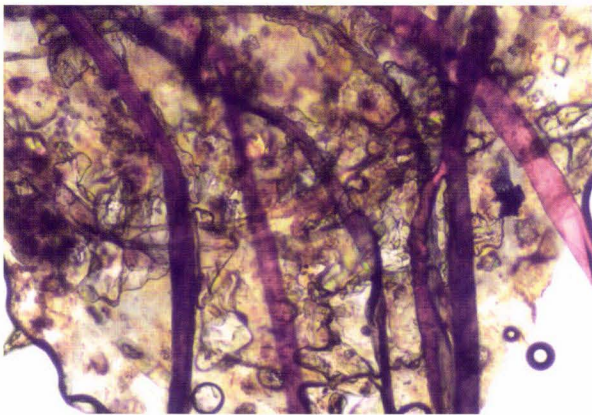
56 静岡県 佐束（帳簿用紙） E186



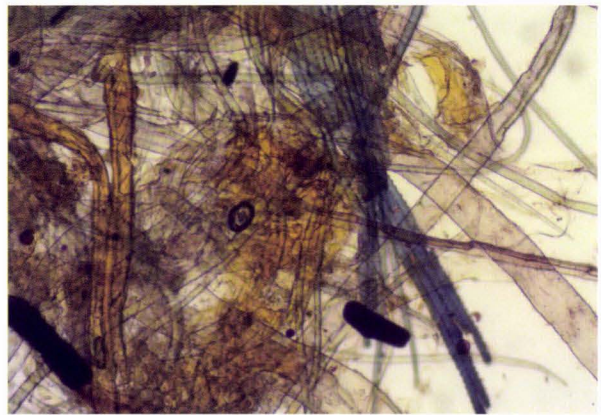
57 静岡県 傘紙 G162



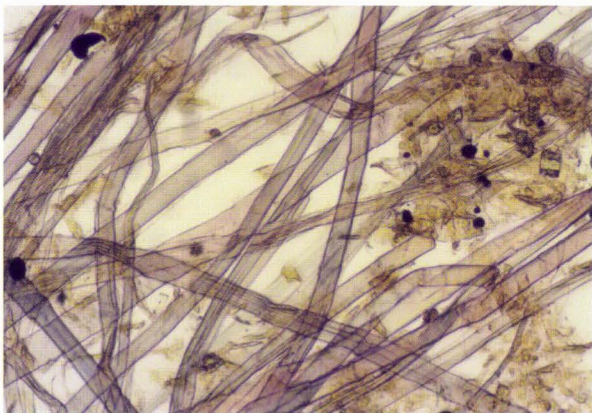
58 静岡県 油障子紙 E187



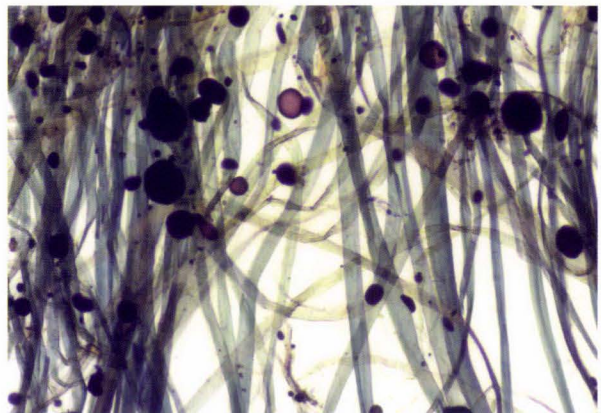
59 愛知県 三河森下 A47



60 三重県 塵紙 E16



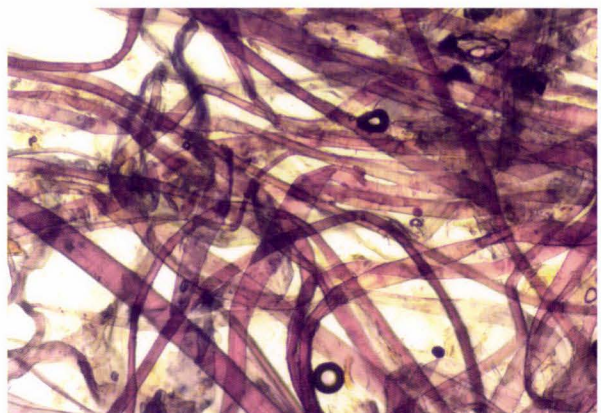
61 三重県 障子紙 E43



62 滋賀県 鳥の子紙 G10-a



63 京都府 帳簿用半紙 E54



64 京都府 西ノ内紙 E120



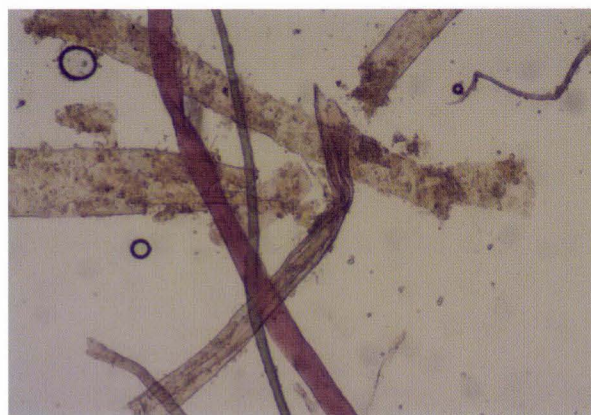
65 京都府 生漉半紙 障子紙 E126



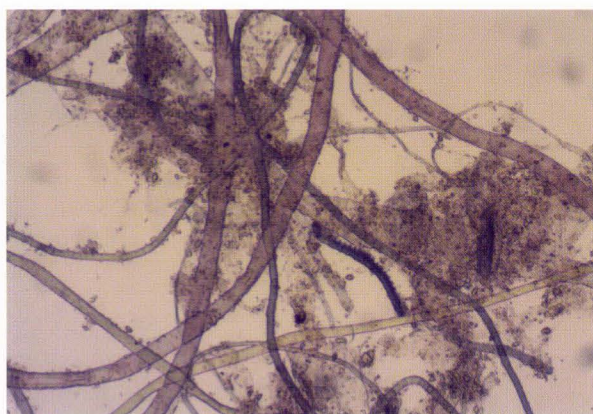
66 京都府 縮緬の札紙 G14



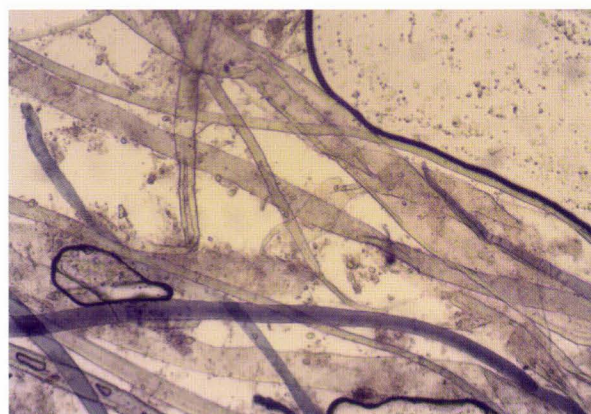
67 大阪府 泉州チリ G112



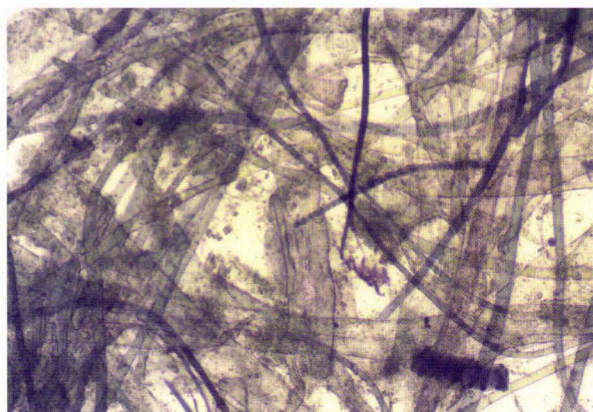
68 兵庫県 普通間似合 C80-1



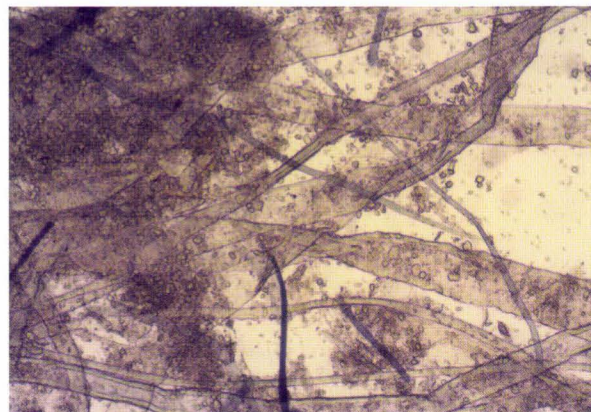
69 兵庫県 普通間似合 C80-2



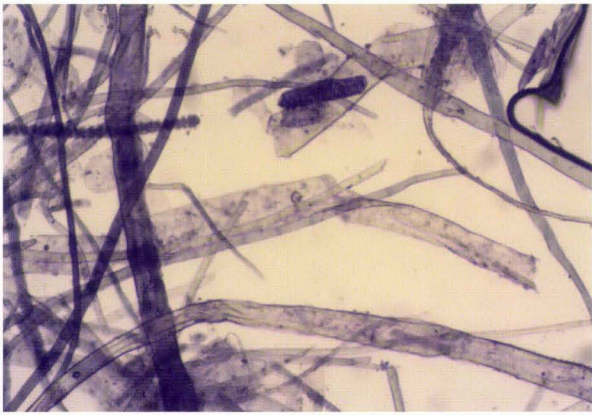
70 兵庫県 普通間似合 C80-3



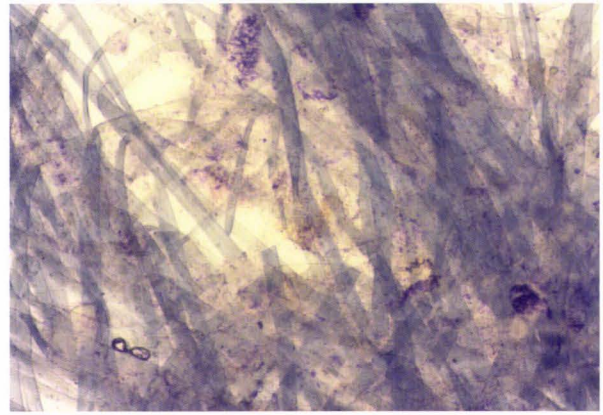
71 兵庫県 普通間似合 C80-4



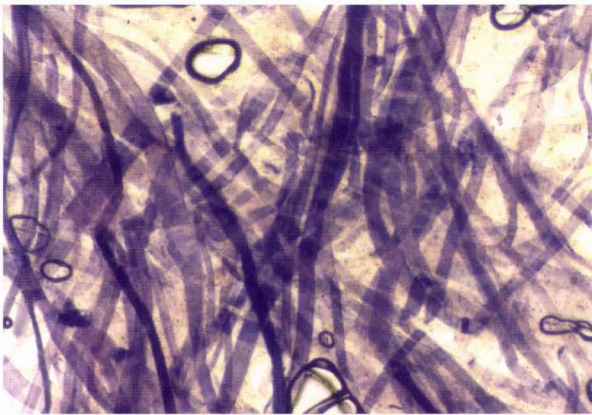
72 兵庫県 普通間似合（胴張専用） C80-5



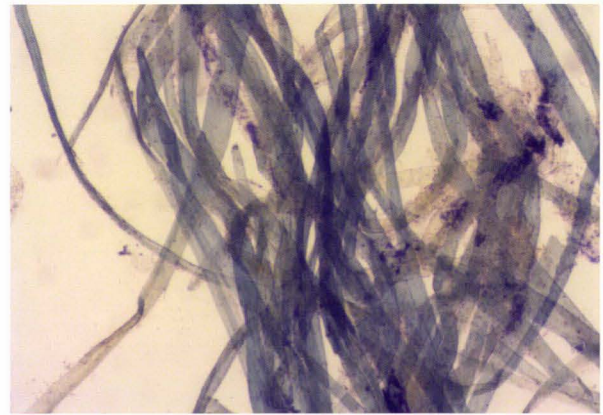
73 兵庫県 間似合 C81



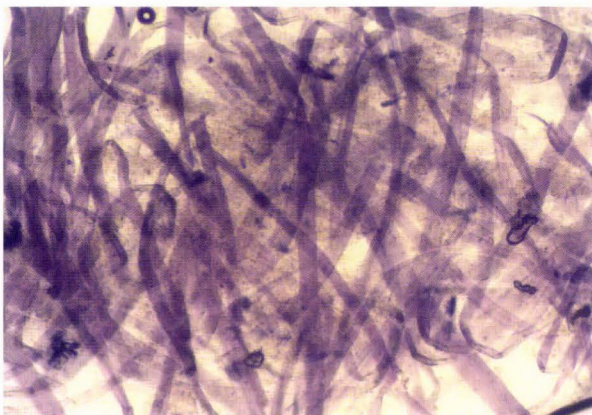
74 兵庫県 「水茎」 書簡用箋 F94



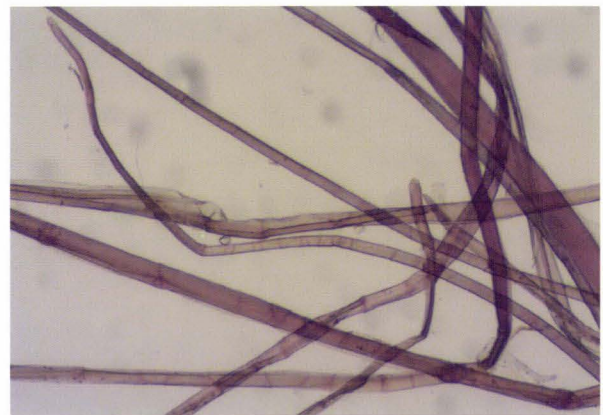
75 兵庫県 「水茎」 書簡用箋 G63



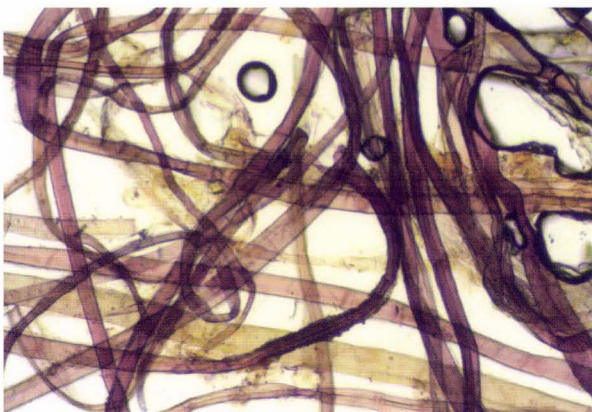
76 兵庫県 (紙名なし) G85



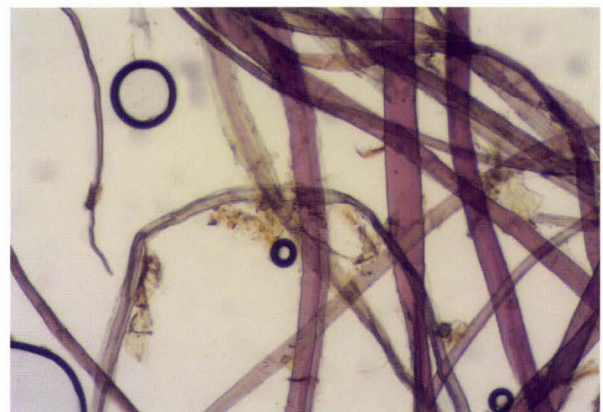
77 兵庫県 「水茎」 書簡用箋 G114



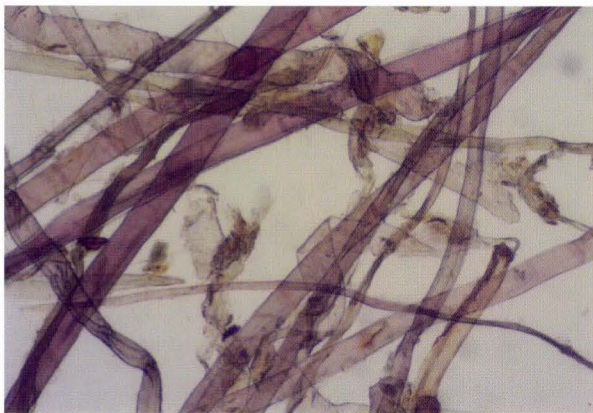
78 奈良県漆こし (吉野紙) C56



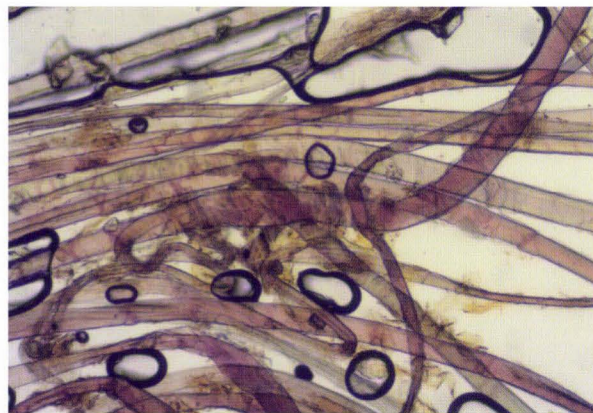
79 奈良県 生漉宇陀 C26-1



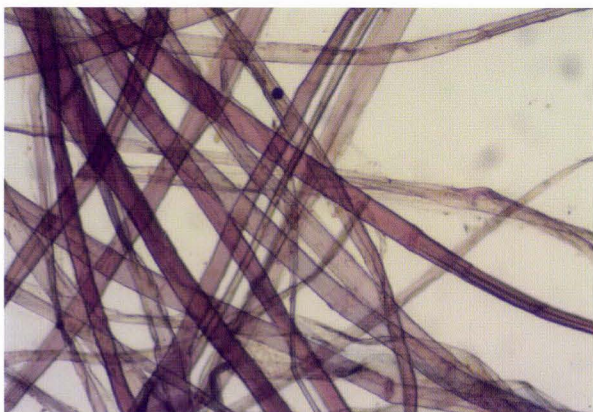
80 奈良県 宇陀泥入 C75



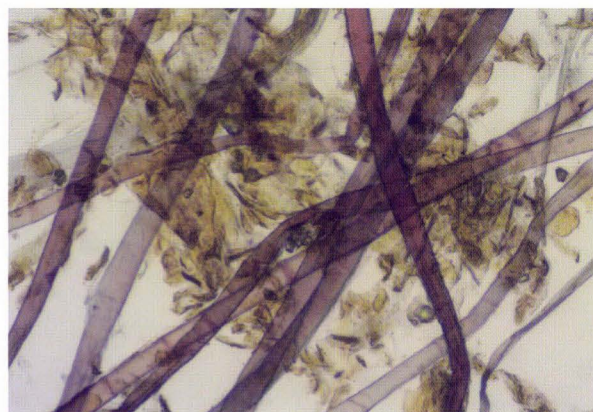
81 奈良県 障子紙 E61



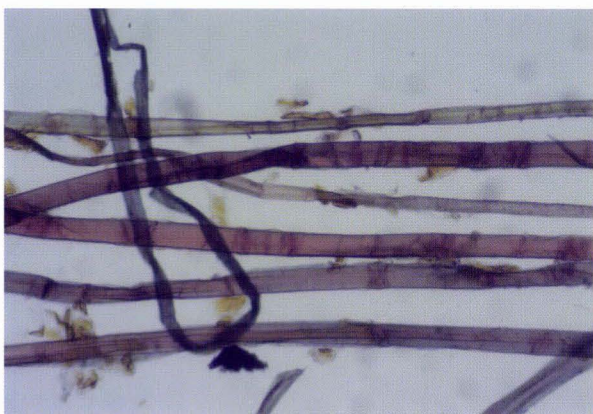
82 奈良県 大美栖（表装用） E83



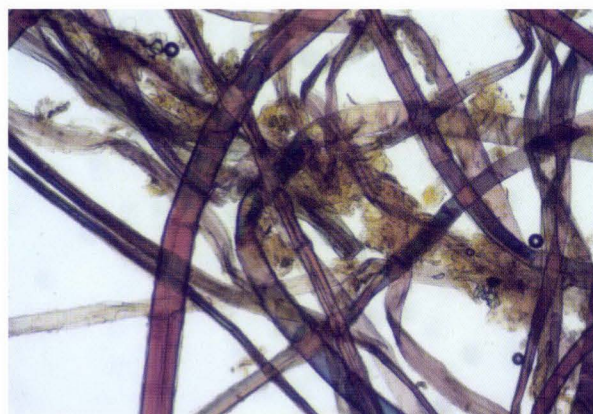
83 奈良県 吉野紙 G216



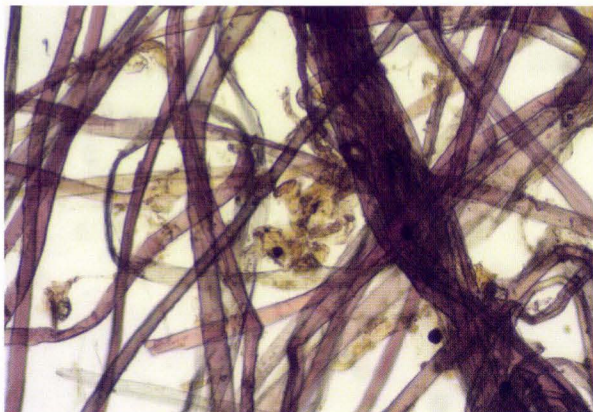
84 和歌山県 高野紙 A11



85 和歌山県 高野紙 A43



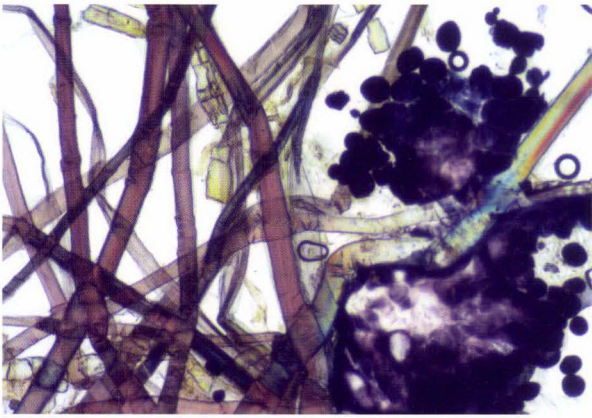
86 和歌山県 高野紙（傘紙） E8-1



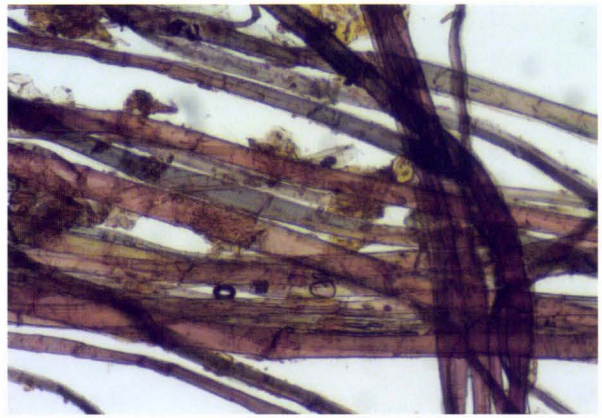
87 和歌山県 高野紙 G54



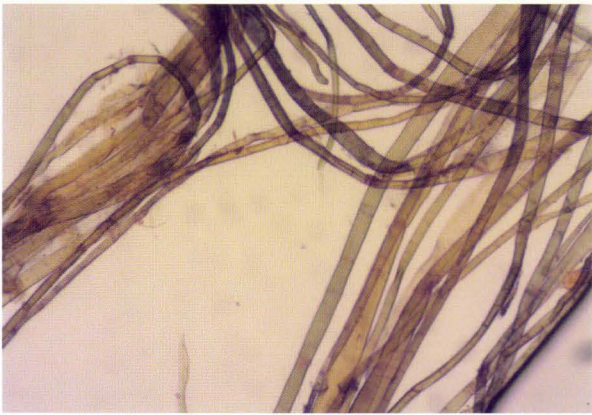
88 和歌山県 保田紙（障子紙） A50



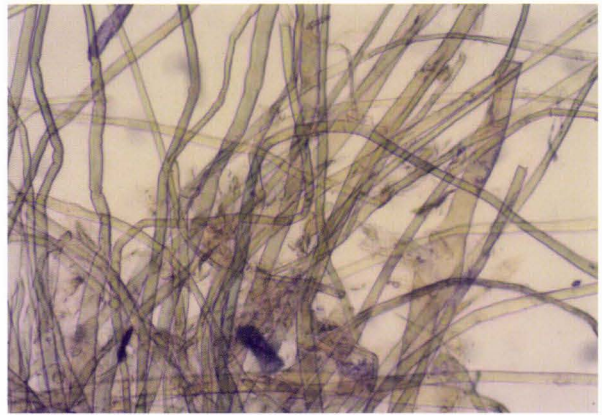
89 和歌山県 音無紙 E21



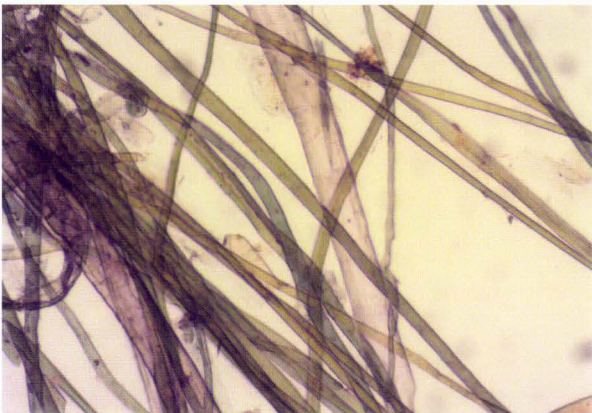
90 和歌山県 タテ紙 G60



91 鳥取県 巻紙（耳付筋入） C37-2



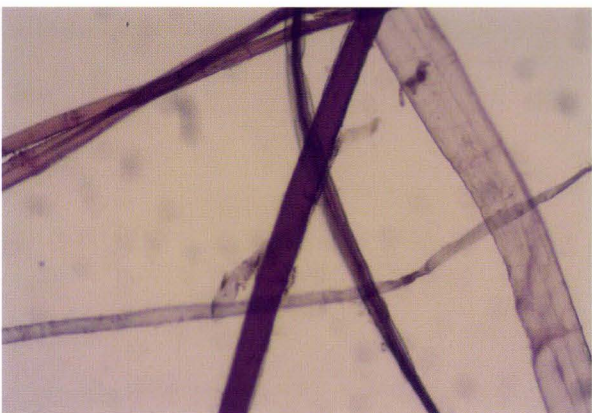
92 鳥取県 巻紙（耳付） C37-1



93 鳥取県 中折（障子紙） C40



94 鳥取県 青谷半紙（複写用） C58



95 鳥取県 石州半紙 C62



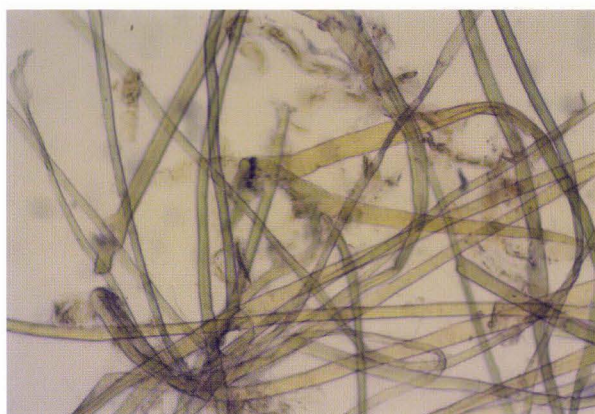
96 島根県 祖父谷（土なし） C33



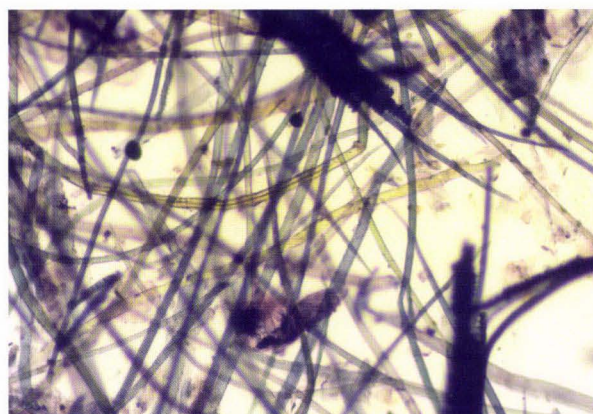
97 島根県 祖父谷（土入） E57



98 島根県 石州半紙 C59



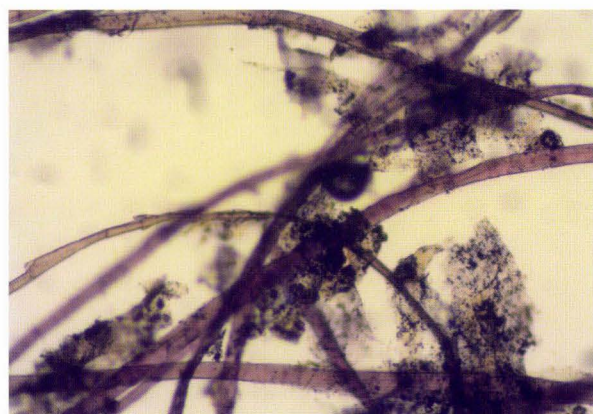
99 島根県 出雲竜 D57



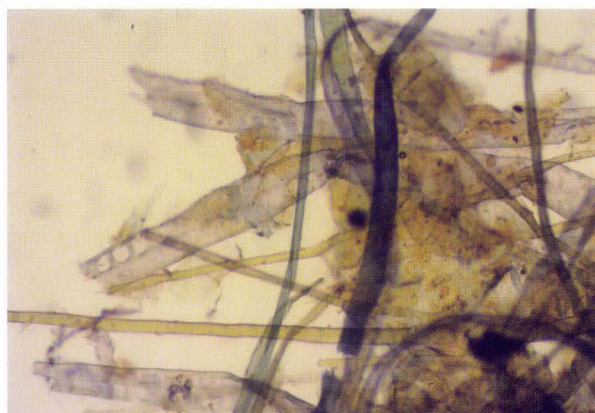
100 島根県 岩坂藁紙 D72



101 島根県 雁皮筋入 E1-2



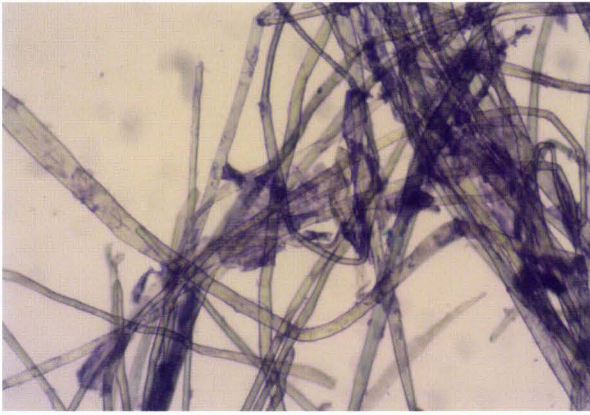
102 島根県 純桑皮紙 E1-4



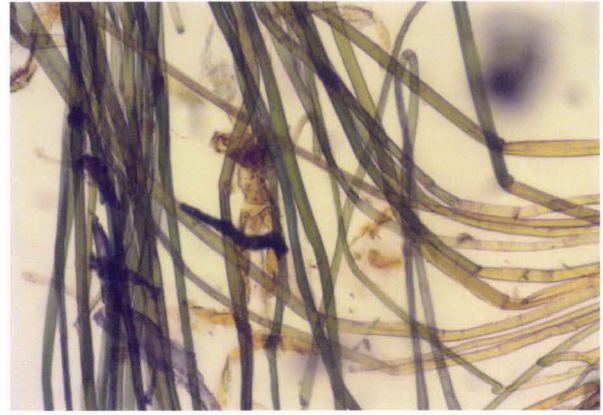
103 島根県 三桎紙 E1-6



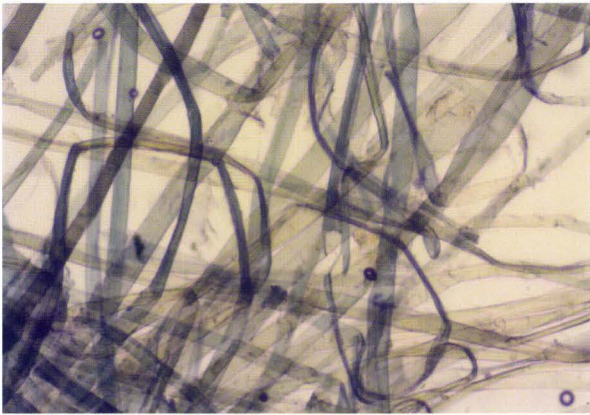
104 島根県 透入（桐紋） E1-9-2



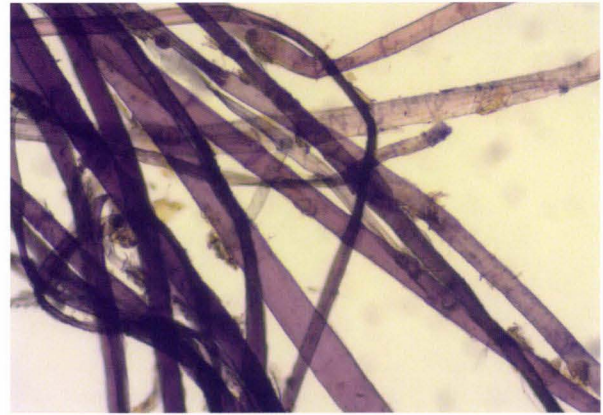
105 島根県 三桠萱篁 E1-10



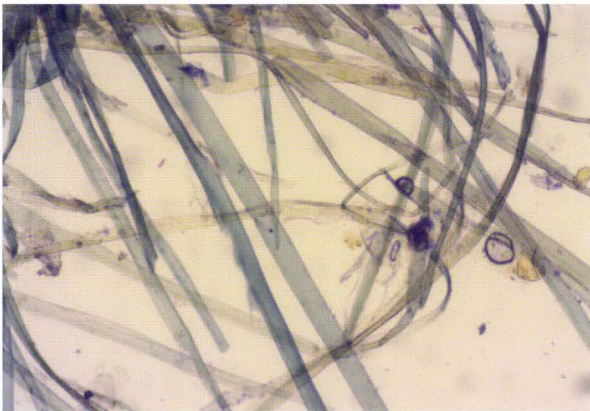
106 島根県 出雲竜 E1-18



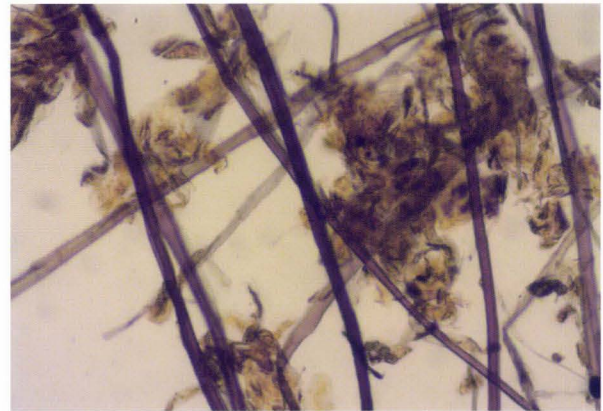
107 島根県 雁皮紙 E1-21



108 島根県 楮紙 E1-25



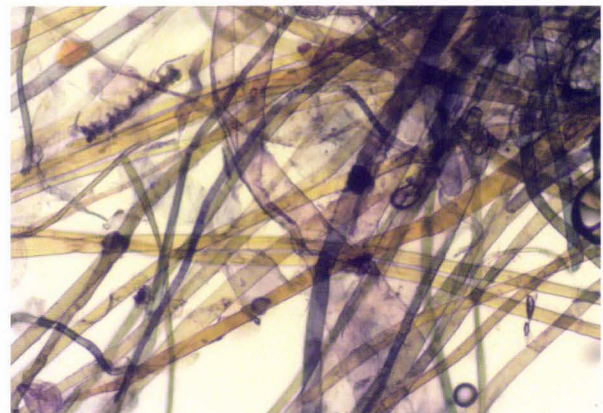
109 島根県 雁皮紙 G188



110 島根県 楮手漉紙 D63



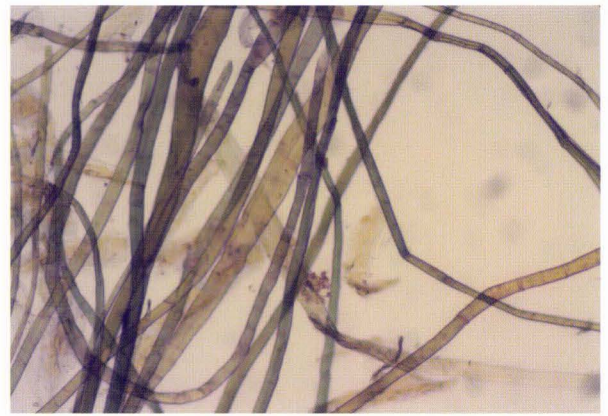
111 島根県 半紙 D71



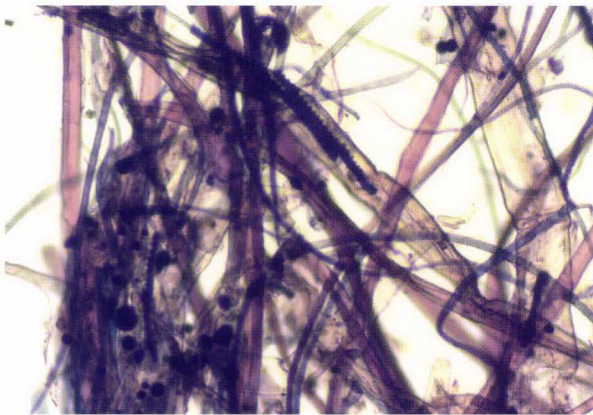
112 島根県 手漉半紙 D74



113 島根県 障子紙 D76



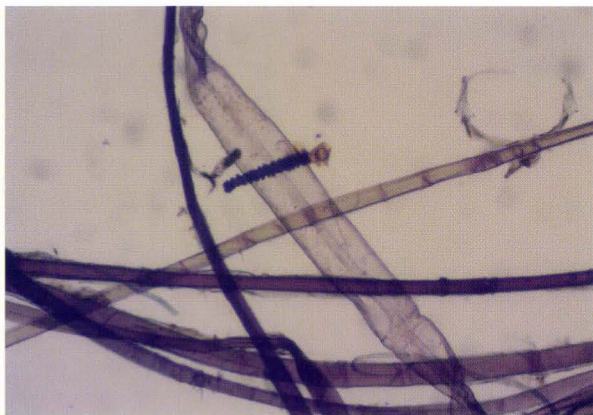
114 岡山県 箔合用紙 C49



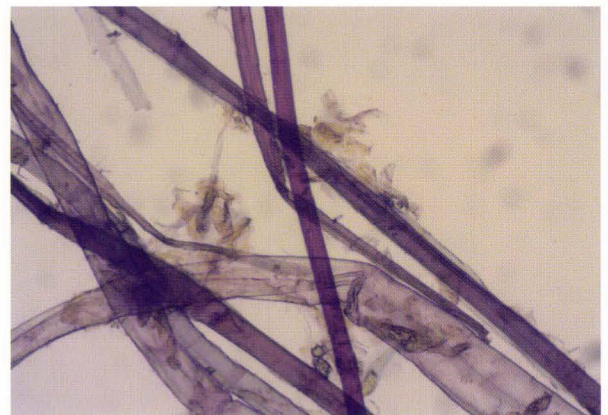
115 岡山県 膏薬台紙 C53



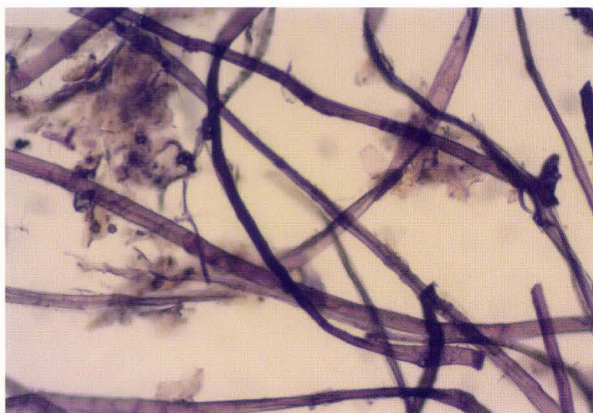
116 岡山県 障子紙 C54



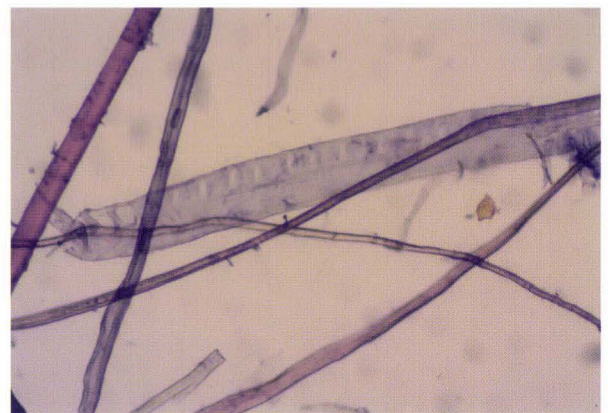
117 岡山県 膏薬台紙 E147



118 岡山県 帳簿紙 G8



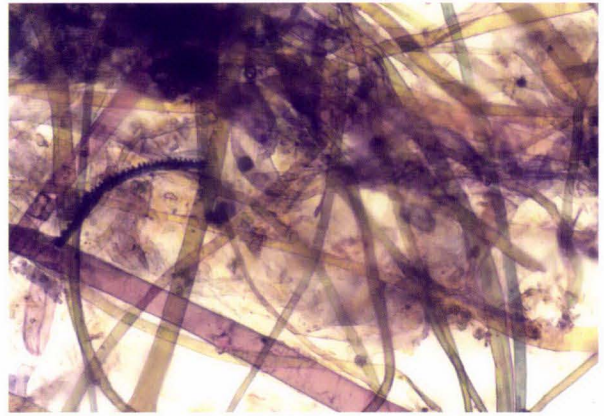
119 広島県 諸口 C44



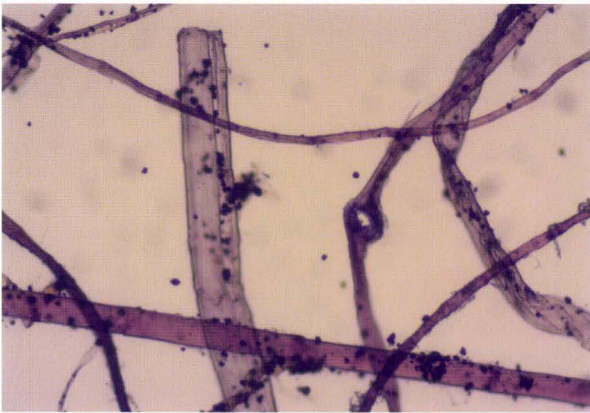
120 広島県 型紙用原紙 E17



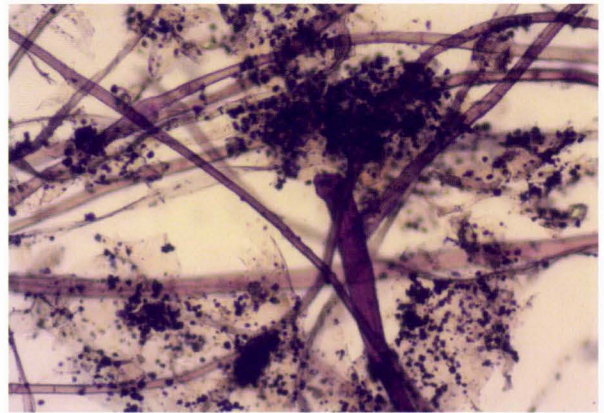
121 広島県 有保障子紙 E47



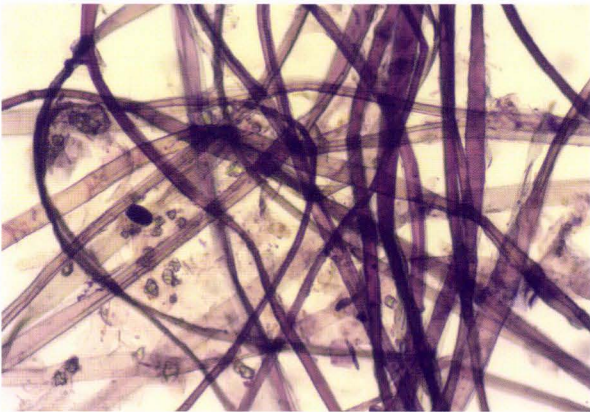
122 広島県 半紙 E51



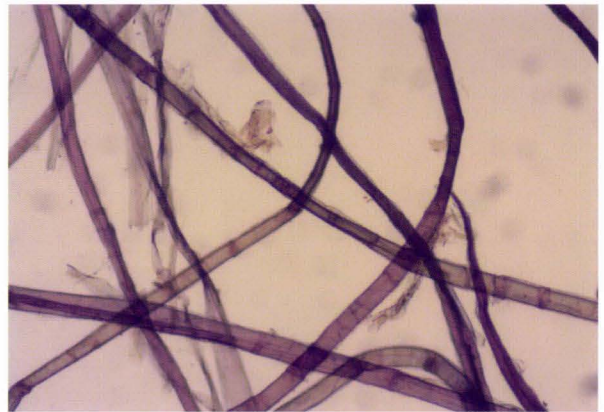
123 広島県 柳原奉書 E112



124 山口県 徳地半紙 D60



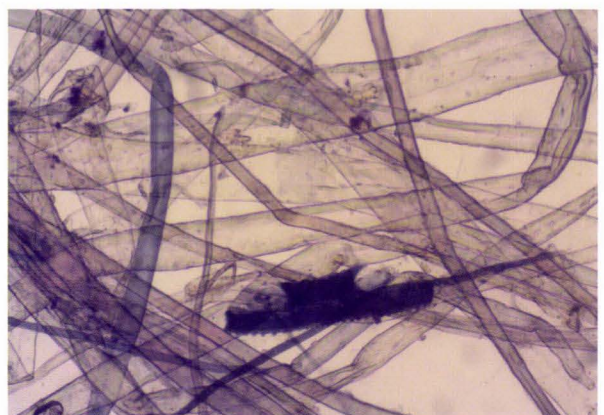
125 山口県 徳地中保 G224



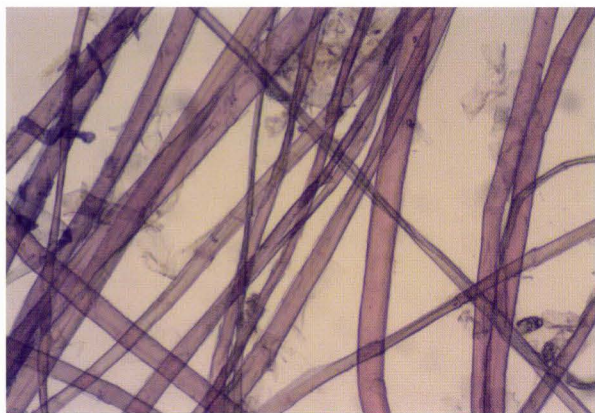
126 山口県 障子紙 E102-1



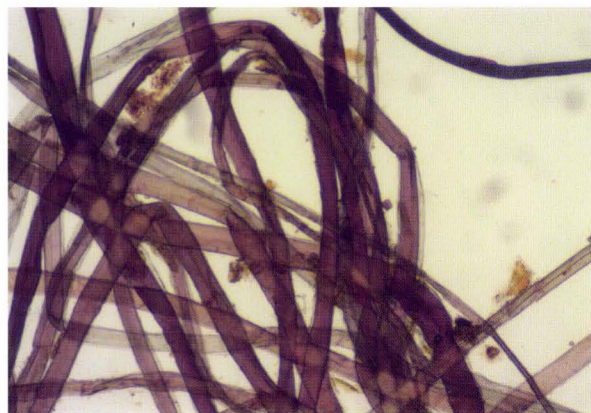
127 徳島県 障子紙 C32



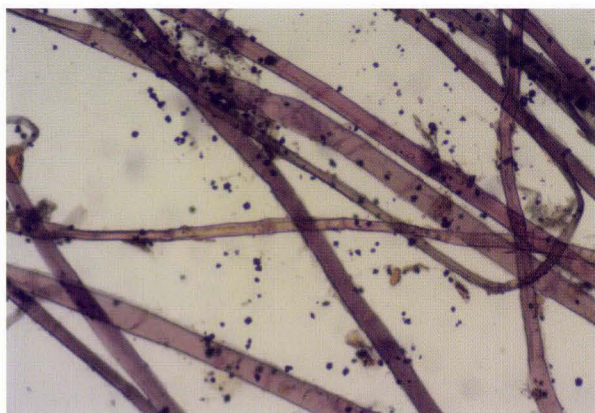
128 徳島県 仙花四つ幅 E197



129 徳島県 障子紙 E204



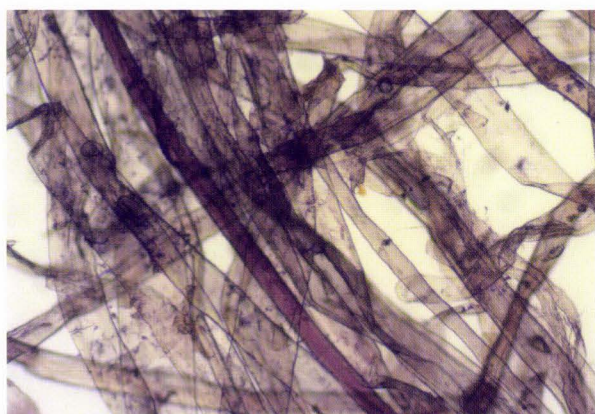
130 愛媛県 中仙 E146



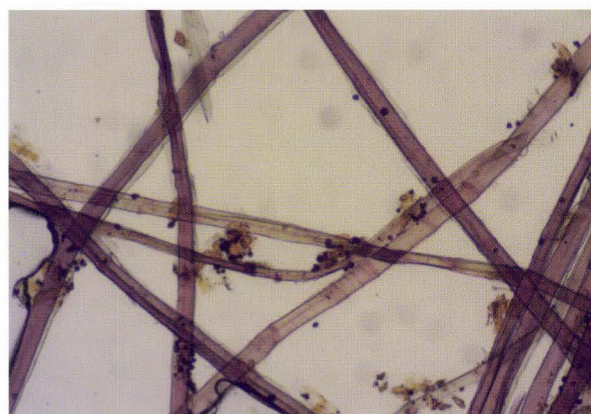
131 愛媛県 仙貨 E209



132 愛媛県 中仙 E196



133 愛媛県 奉書 E203



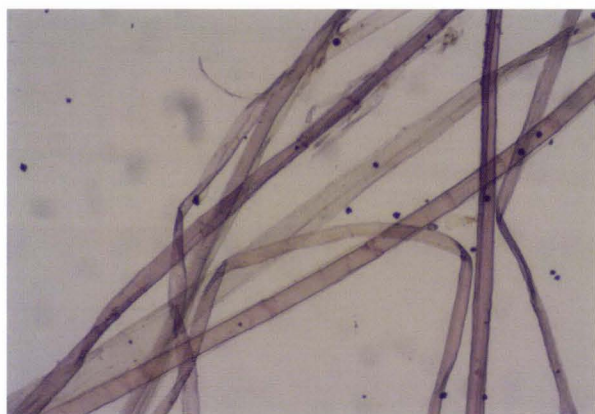
134 高知県 仙貨 E96



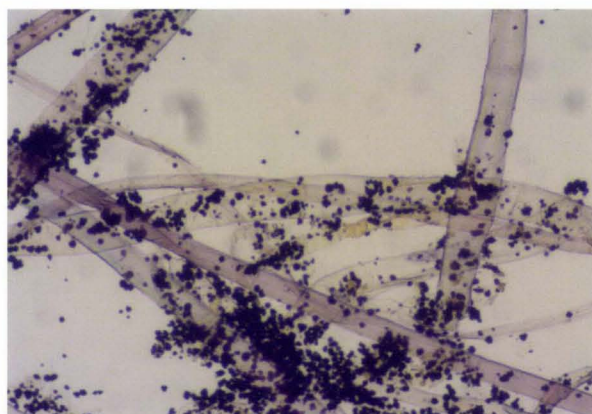
135 高知県 土佐宇田紙 G129



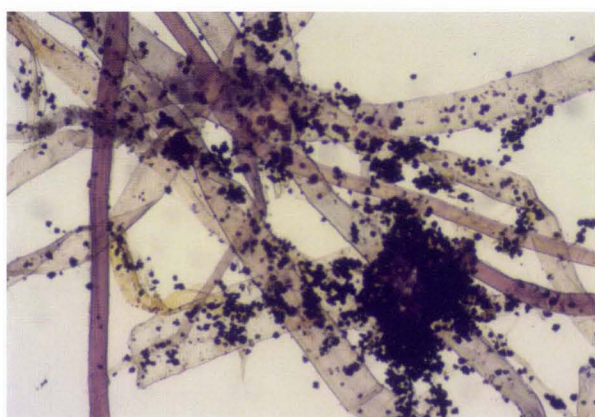
136 高知県 土佐仙花 G130



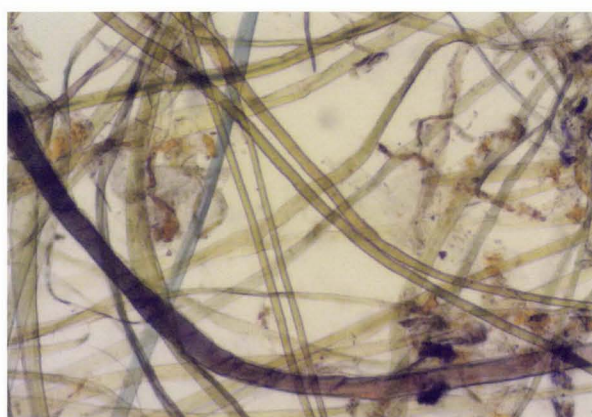
137 高知県 典具帖紙 G198



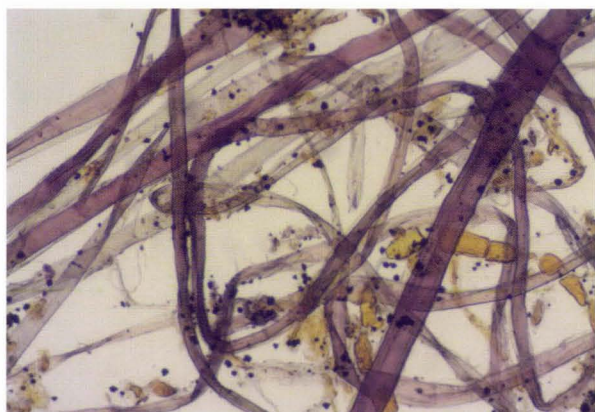
138 高知県 糊入四巾紙 G227



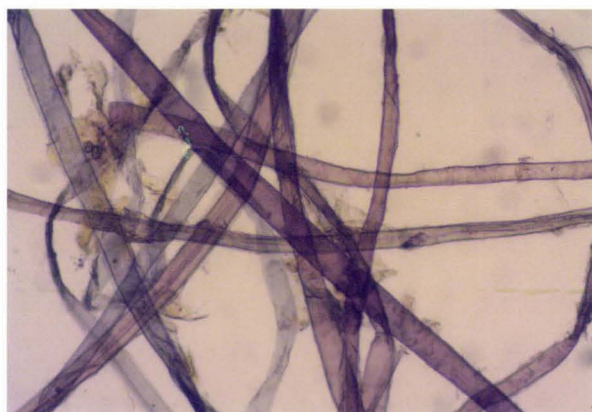
139 高知県 改良小杉原 G234



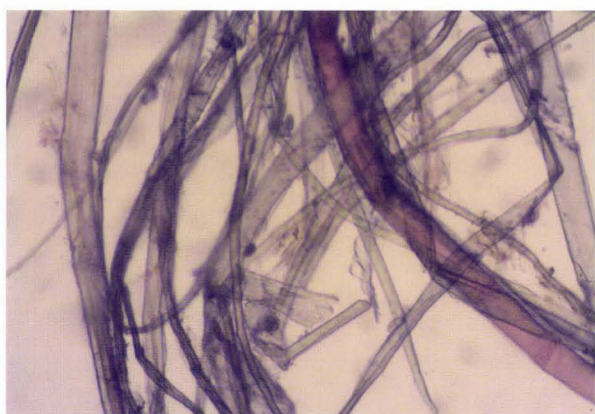
140 高知県 言上紙 M73



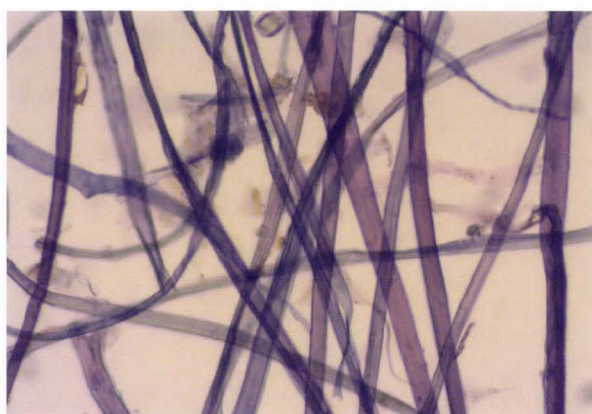
142 高知県 須崎半紙 G233



143 佐賀県 防虫加工紙 D95



144 佐賀県 施薬紙 G144



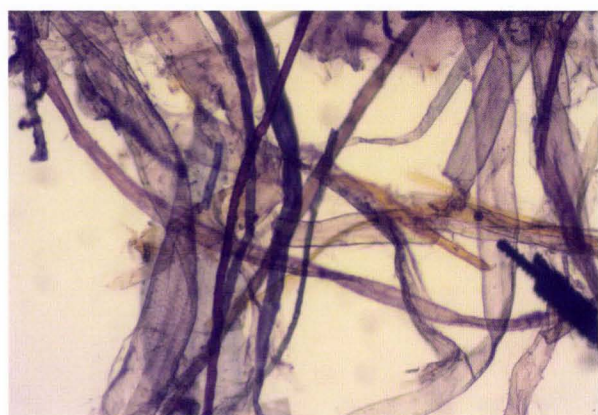
145 長崎県 京花紙 D32



146 長崎県 障子紙または提灯紙 D88



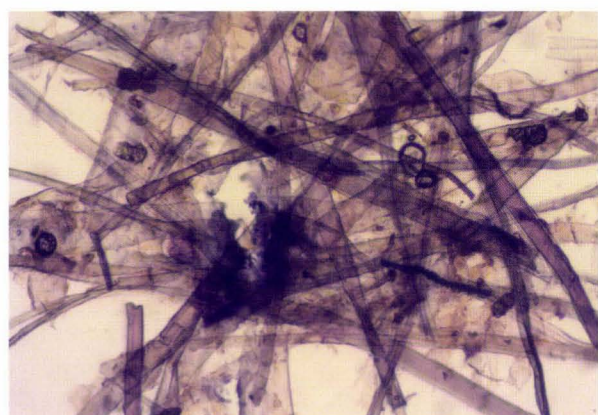
147 熊本県 白塵 D37-2



148 熊本県 白漉返 D49



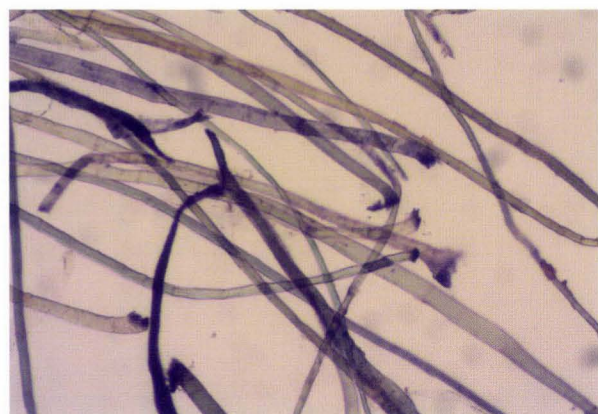
149 熊本県 藁半紙 D54



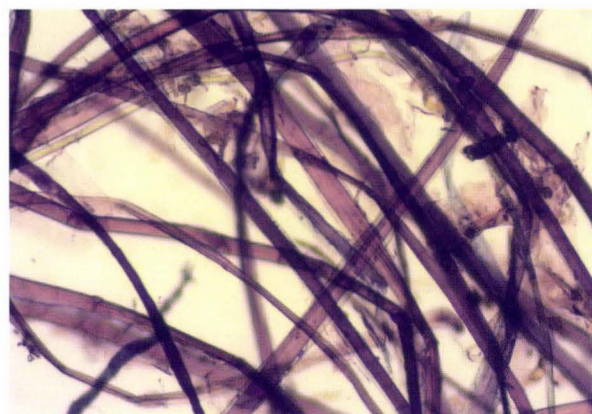
150 熊本県 障子紙 D55



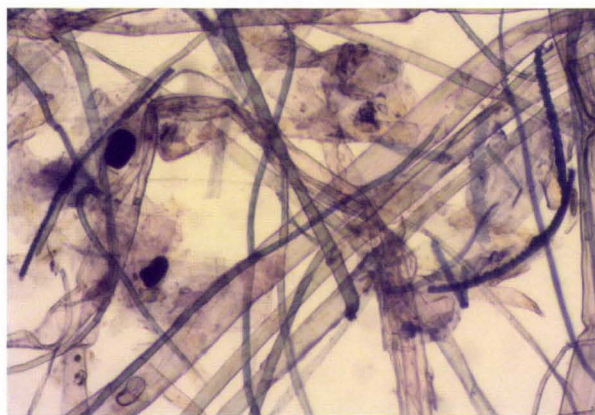
151 熊本県 楮と藁の混合紙 D89



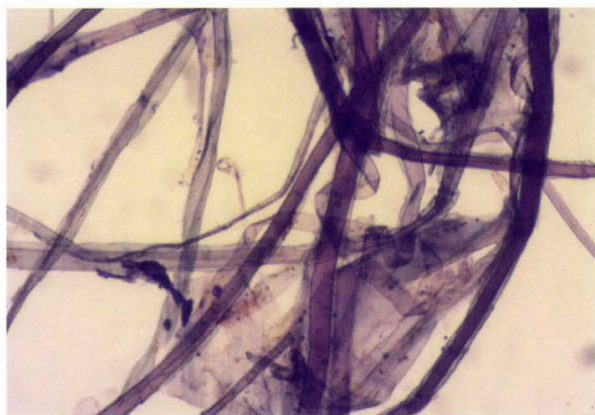
152 宮崎県 厚美濃紙 B21



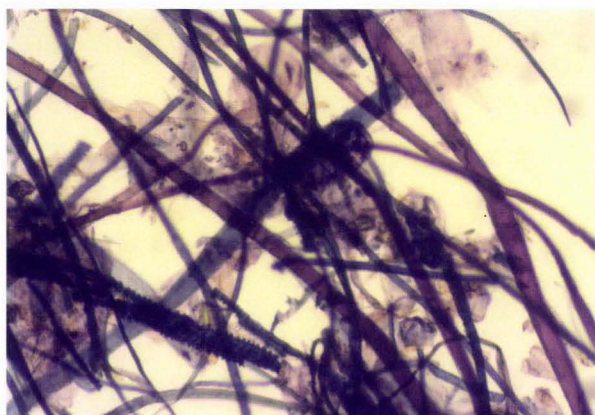
153 宮崎県 障子判原紙 D104



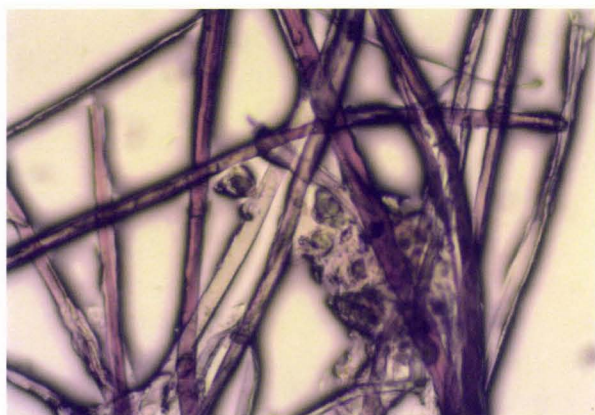
154 宮崎県 半紙 D107



155 宮崎県 京花紙 D110



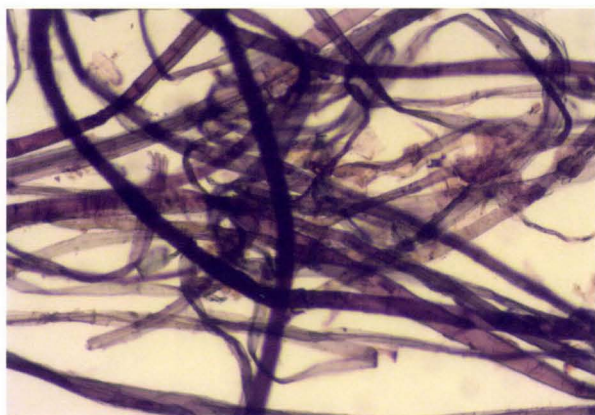
156 鹿児島県 伊作障子紙 D29



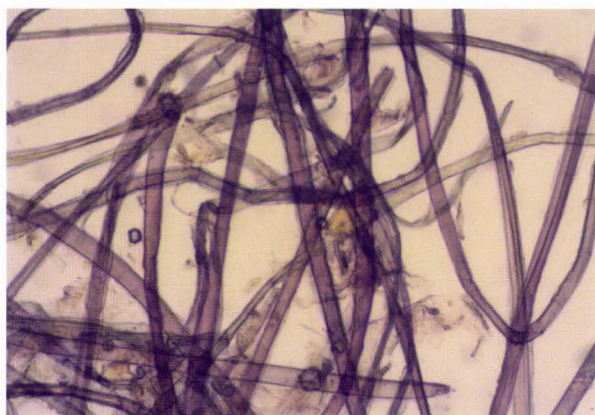
157 鹿児島県 伊作障子紙 G178



158 鹿児島県 半紙 D43



159 鹿児島県 傘紙 D48



160 鹿児島県 提灯紙 D92

注)

図版は、寿岳コレクションの調査対象から大川昭典がサンプル採取したものを、高島晶彦がC染色液検査を行い、200倍の顕微鏡による画像を撮影したものである。キャプションは、調査データ表の番号・県名・紙名・整理番号を示した

付：繊維形態及びC染色液による呈色

古文書や絵画などの料紙がどのような繊維組成で作られているか、いろいろと想像され興味が湧くところです。繊維調査を行うことによって、他に配合されている繊維や填料なども判明することもあり、新たな事実も見つかるかもしれません。

この度、調査を行った紙から繊維を採取して、C染色液で染色を行いその呈色状態を高島晶彦氏が撮影し掲載されています。この繊維写真を見るにあたって、繊維形態や各種繊維のC染色液による呈色を行いましたので参考になれば幸いです。

繊維組成試験の方法は、日本工業規格 JIS P8120「紙、板紙及びパルプ—繊維組成試験方法」に規定されています。この中には、繊維形態と染色液を用いて判別する方法及び判別した繊維を種類ごとに数え配合割合を算出する方法があります。しかしこの配合割合を算出する方法は、正確さが重要視されるので広い面積の紙片を採取し、600本以上の繊維を調べる必要があるため、試料の少ない場合は行われません。このため、(3) 今回の調査において解説する調査対象の8件も、繊維形態とC染色液の呈色を用いて判別する方法で行いました。

(1) 試験方法など

ここでは繊維形態と、C染色液を用いて繊維を染色し、呈色を観察する方法を紹介します。

プレパラート上に採取した繊維を載せC染色液を加えて繊維を広げ、カバーガラスを載せた後、光学顕微鏡で呈色した色の観察と繊維形態から繊維の判別を行います。

イネ科の植物は大体青い色の呈色、こうぞ麻類は赤い色の呈色をするので、ある程度繊維を判別することができます。しかし同系統の色を呈する繊維は他にもあり、最終的には、繊維形態や繊維長、繊維幅等も調べて判別することが大事になってきます。この為には繊維を染色することだけでなく、他にもう一つプレパラート上で繊維を水で広げ乾燥し、染色しないプレパラートを作り観察する事が必要となる場合もあります。

C染色液の作り方はJIS P8120に掲載されています。正確に作り、染色液の管理はしっかり行わないと、正しい呈色はしなくなります。

(2) 各種繊維の形態(註.1)とC染色液による呈色写真

(写真はすべて100倍で撮影したものです。)

A. 針葉樹繊維

C染色液の呈色... KP法(さらし)灰青～明るい紫みの灰色 (未晒し)黄み茶～明るい茶色
化学パルプさらし GP(碎木パルプ)



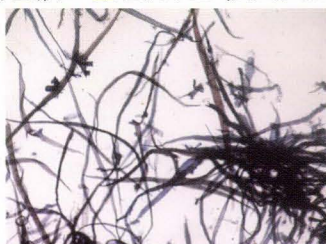
この繊維は針葉樹の仮道管である。針葉樹パルプはほとんど繊維細胞だけからなり、夾雑細胞の量は極めて少ない。繊維はリボン状で細胞膜壁は春材は薄く、秋材は厚い。内腔は春材は広く、秋材は狭い。紋孔があり、春材の紋孔は円形で数が多く、秋材の紋孔は裂け目状で数が少ない。紋孔の多くは重紋孔である。繊維長は樹種により異なるが、多くは2～4.5mm、繊維幅は20～70μ程度である。

サンプルに使用したパルプは針葉樹の晒パルプですが、呈色が文献に書いている呈色にはなら

ないためパルプの製法が異なるものと考えられます。しかし繊維形態は針葉樹のさらしパルプです。黄色に呈色した繊維も針葉樹ですが、蒸煮せずに作られる GP であるためリグニンや樹脂分により黄色の呈色となっています。

B. 広葉樹繊維

C 染色液の呈色... KP 法. さらし... 青みの灰青～灰青



この繊維は広葉樹の木繊維である。広葉樹パルプは繊維以外に導管節及び柔細胞を含んでいる。繊維は円筒形で、先端がとがり、膜壁は厚い。裂け目状の紋孔がある、内腔は樹種によってそれぞれ異なっている。繊維長 0.8～1.8mm、繊維幅 10～50 μ 程度である。

染色による呈色は青味の灰青色だけでなく、赤味を帯びる繊維もあります。

このパルプは 1945 年以降に開発されたと言われ、繊維は短いので漉き返しで入る以外、手すき紙には使われていないと思われます。紙に腰のあるノートやコピー用紙に使用されています。

C. 木綿繊維

C 染色液の呈色... 木綿ぼろ... 灰赤



普通はよじれたリボン状である。細胞膜壁は厚く、内腔は細胞膜壁の厚さよりも広い。

先端はとがっているが、基部は種子からむしり取られるため開放している。横断面は不規則な楕円形または平らなリボン形。繊維長 10～40mm、繊維幅 12～38 μ 程度である。

綿や糸の状態の繊維ではその特徴であるリボン状はよく観察されますが、上記右側の抄紙された繊維は、叩解で短く切断されているためリボン状の特徴は観察されにくくなります。また綿繊維は節のようなものはないので亜麻などとは区別しやすいと思われます。

D. マニラ麻繊維

C 染色液の呈色... 黄みの灰色、うす青及び灰紫



直径が全長にわたって均一であり、先端は徐々にせばまって尖っている。細胞膜壁は薄く、内腔は広く、しかも明らかである。また珪酸化した管状細胞ステグマタ（レンガを積み重ねた形に似ている。）が存在する。お断面は丸味のある多角形である。繊維長 2.5～12mm、繊維幅 6.8～40 μ 程度である。

呈色では青灰色、赤茶を帯び緑色を帯びる繊維もあります。繊維の内腔は所々中断された部分

は赤茶色を呈します。時には繊維の幅より狭くなっているものもあります。

手すき紙でこの繊維は、こうぞ、みつまたなどの増量剤として使われてきたと思われます。

E. 亜麻繊維

C 染色液の呈色... にぶい赤～灰赤紫



円筒形でところどころに節状があり、先端部はとがっている。節状部には横条痕があり、条痕は交叉して十字形をしていることもある。細胞膜壁はきわめて厚く、内腔は非常にせまい。繊維長 4～66mm、繊維幅 6.8～37 μ である。

ヨーロッパの手すきで、綿が使用される前は亜麻のぼろが使用されていました。日本の手すきではほとんど使用されていないと思いますが、戦後の薄い英語辞書の用紙やたばこの巻紙として使用されてきました。この繊維は叩解するとよくフィブリル化するので填料の炭酸カルシウムなどを多く捕まえて紙になります。このため薄い紙にかかわらず、両面印刷しても裏側の文字が透けないので辞書に使用されたと思われます。

F. 大麻繊維(大麻は漢名)あさ

C 染色液の呈色... にぶい赤～灰赤紫



先端は丸く、ときには分岐しているものもある。細胞膜壁は厚く、内腔は細胞膜壁の厚さよりも広い。縦条痕があり、所々に節状部がある。横断面は丸味を帯びた多角形(4～6角形)である。繊維長 5.0～55mm、繊維幅 6.8～50 μ 程度である。

麻をこうぞ等と配合した紙は、日本画用麻紙として福井県で作られてきました。繊維は長いので切って原料処理が行われているので顕鏡すれば切断面を観察できます。

G. ちよ麻繊維(苧麻は漢名)からむし

C 染色液の呈色... にぶい赤～灰赤紫



へん平又は円筒形で、所々に縦の裂け目がある。細胞膜壁は厚く、特に先端で厚い。内腔は、先端部では線状、中央部では概して細胞膜壁の厚さよりも広く、形状は不規則である。横断面は鋭角な多角形または楕円形である。繊維長 60～250mm、繊維幅 10.8～80 μ 程度である。

ちよ麻繊維は古代から織物に利用され、現代でも夏の着物に織られています。紙にも奈良時代にはすでに、この繊維から紙を作っている事例があり、日本画用紙にも利用されています。

繊維を採取するちよ麻は数種類あり、種類によって繊維形態も少し異なるものと思われます。

H. 黄麻繊維(ジュート)

C 染色液の呈色... にぶい赤～灰赤紫



内腔は明かであり、細胞膜壁の厚さがきわめて不ぞろいであるために、所々狭くなっているが、先端部では広い。亜麻や大麻に見られるような節状部はなく、先端は丸味を帯びており、分岐しているものもある。横断面は丸みのある不規則な5～6角形である。繊維長1.5～5.0mm、繊維幅10.2～25 μ 程度である。文献に書かれた染色の呈色と異なり、少し茶のかかった濃黄色に呈色した。この呈色は残存しているリグニンの影響で、文献の呈色との違いは、煮熟剤などが異なる違いと思われる。

I. みつまた繊維

C 染色液の呈色... 明るいオリーブ色～明るい青みの灰色



不整形管状(繊維の幅は不定で、中央部の幅は他の部分の幅の約2倍)で、細胞膜壁厚は不同であり、内腔は所々中断されている。先端は丸く、なかには分岐しているものもある。またシュウ酸カルシウムの結晶を含む柔細胞が存在する。繊維長3～5.0mm、繊維幅10～30 μ 程度である。

政府の表彰状(局紙)や紙幣、書道用紙などに利用されてきました。

J. がんび繊維

C 染色液の呈色... 明るいオリーブ色～明るい青みの灰色



へん平又は円筒形で、縦条痕があり、所々に結節がある。先端は丸い。細胞は薄く、内腔は概して広いが所々狭くなっている。繊維長3～5mm、繊維幅10～30 μ 程度である。

C 染色液の呈色では、みつまたと同様となっているが、紙によって青みの灰色ばかりになることもある。透明度の高い繊維で、他の繊維で作られた紙より紙の密度は高い。

鳥の子紙 絵画用紙、謄写版原紙、版画用紙などに利用されてきました。

K. こうぞ繊維

C 染色液の呈色... にぶい赤～薄い紫



幅の狭いものと広いものがあり、縦条痕、断層または十字痕などがある。細いものは先端がとがり、細胞膜壁が厚く、広いものは膜が薄く、先端が丸い。横断面はだ円形である。

繊維長 6～21mm、繊維幅 10～30 μ 程度である。

右の写真では青色に染色される繊維があり、一見ほかの繊維が混じっているように観察されますが、よく観察すると薄膜ばかりで今後、薄膜の中に赤みを帯びた繊維が成長してくると思われます。黄色に呈色されているのは柔細胞や樹脂分です。

L. いね繊維

C 染色液の呈色... にぶい青～灰青



わらパルプは靱皮細胞、導管節、柔細胞、表皮細胞などの各種細胞からなるが、主要部を占めるのは靱皮細胞である。整形で一定の間隔ごとに節状部があり、先端はとがっている。細胞膜壁は厚く、内腔は狭い。また、のこぎり歯状の表皮細胞や、たわら状の柔細胞、有紋、環状、ラセン状の導管などがある。繊維長 0.7～3.5mm、繊維幅 5.1～13.6 μ 程度である。

右写真には青く呈した大きな表皮細胞の固まりが観察されます。

わらを書道用紙に配合すると墨付き、墨色、書き易さなど良くなるので用いられ、今回の調査の中にもわら半紙として数点登場します。

M. エスパルト繊維

C 染色液の呈色... 黄みの灰色、うす青及び灰紫



わらによく似ているが、それよりも小型である。細胞膜壁はきわめて厚く、内腔はきわめて狭くてときには線状となっている。まが玉状の細胞が存在する。

繊維長 0.6～1.6mm、繊維幅 6.8～13.6 μ 程度である。

呈色は青みを帯びたものと灰紫を帯びたものがあり、まが玉状細胞、長形薄壁細胞、両刃のこぎり状の表皮細胞等が観察されます。

北アフリカ産のいね植物ですが、稲わらなどと違って叩解しても水切れが良いので、明治時代から現代までパルプを輸入し特別な紙に使用されています。

N. 竹繊維

C 染色液の呈色... にぶい青～灰色



繊維、細胞はわらによく似ているが、繊維はわらよりも太く、長い。また非常に幅が広く、細胞膜壁の薄い繊維や導管節などがある。のこぎり歯状の細胞はない。繊維長 1.5～4.4mm、繊維幅 6.8～27 μ 程度である。

竹はいね科ですが、のこぎり状の表皮細胞はありません。

呈色は、幅の狭い繊維は濃い青に、幅広の繊維は薄い青色に染色されます。中には薄い黄色に染色される繊維もあり、原料に使用する竹の状態や原料処理の違いによるものと思われます。

また、俵状の薄壁細胞、幅が大変広い網紋導管も観察されます。

O. C 染色液による繊維以外の呈色

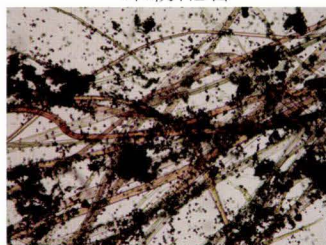
填料として米粉及びもち米粉を配合した紙(米粉は文献では米糊)

C 染色液の呈色... 米粉は青黒い呈色

もち米粉は赤みを帯びた呈色

米粉配合

もち米配合



米粉は青黒い点々で呈色し、多く配合した場合、ところどころ固まりで観察されます。

写真の繊維は江戸後期の浮世絵に使用されていた紙のもので、米粉は大変多く配合されています。古くから杉原紙や奉書紙など多くの紙に配合されてきました。しかし紙の乾燥に蒸気乾燥が使用されだすと、配合した米粉が熱で糊化し金属板に張り付き、剥すことが出来なくなるので米粉の使用は少なくなります。

右はこうぞにもち米粉を配合した写真です。C 染色液の染色では赤みを帯びた呈色となります。

米粉の使用量と比較すると量はかなり少ないと思いますが、江戸時代の『紙漉大概』には杉原類の製法では餅米糊を用いると記されています。

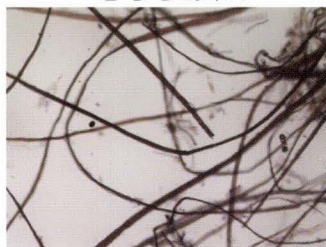
米粉(米糊)の作り方は、米を水に一晩浸し、軟らかくなったものを石臼などで潰し布の袋で濾します。沈殿した米粉に触ると大変柔らかく煮て作った糊のようなので文献では米糊と表現したかもしれません。

P. 粘剤 (とろろあおい・のりうつぎ)

C 染色液の呈色... とろろあおいは青黒い呈色 のりうつぎは染色されない

とろろあおい

のりうつぎ



とろろあおいは米粉と同じような澱粉なので青黒い呈色を示します。

左写真の中央部左右に米粉よりはるかに大きい丸い粒子が一個ずつあります。とろろあおいに含まれる澱粉粒子は周りの膜が破れることで粘りのある粘剤となるので、紙中に形として残ったものは、粘剤として用を果たさなかった澱粉粒子が染色液で染色されたものです。

右の写真は、のりうつぎの皮を潰したものを撮影したもので、沢山の針状結晶が見られます。

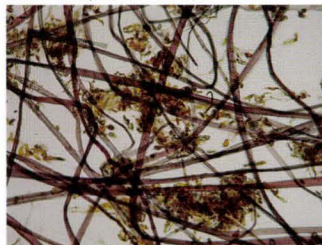
とろろあおいよりも粘度は低く、繊維の短い雁皮紙などを漉く際に用いられまた、無機填料を配合して漉く紙などにも用いられます。針状結晶はシュウ酸と言われ、C 染色液の呈色は無色で染色されません。

Q. 柔細胞

C 染色液の呈色...薄い黄色～黄色



柔細胞の多い紙



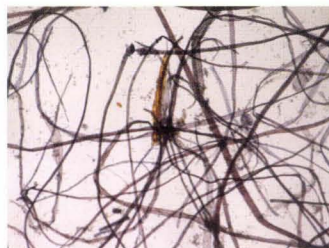
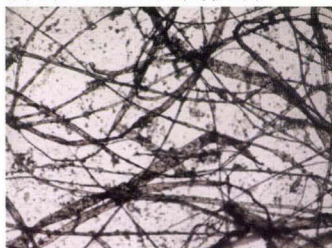
こうぞ紙の繊維を染色したもので、C 染色液の呈色は、薄い黄色～黄色を呈します。

非木材では綿を除きほとんどのものが柔細胞を含むものと思われます。

紙に残存する柔細胞の多少は紙の色相、強度、風合い等を決定する要素を有しています。(註2) 柔細胞はヘミセルロースに富み、乾燥により潰れて広い面積をとります。この為繊維の交差した部分で乾燥すると、接着剤の働きをして繊維結合が増加、紙力は強くなります。逆に紙料を網に入れ柔細胞を完全に除き繊維のみにして紙を漉くと、紙の色は白くなり、手触りも柔らかく紙力の弱い紙となります。

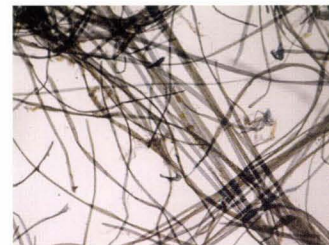
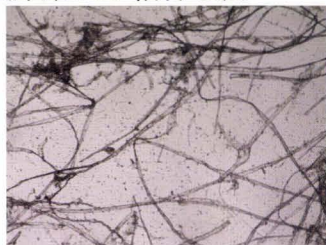
(3) 今回調査の中から

1. 兵庫県 C80-5 泥間似合



地元産の泥(白土)を配合して作られ、こうぞ、幅広の木材繊維、いね繊維、先端のとがったマニラ麻などが観察され古紙の漉き返しで作られていると思われます。黄色に呈色されたのは針葉樹から作られた GP(碎木パルプ)で、リグニンや樹脂分などが多く残っているため黄色を呈しています。泥に含まれるカルシウムは、染色液と反応してなくなっていると思われますが、染色後も泥が残っているのでケイ素やアルミニウムを多く含んだ泥(白土)と考えられます。

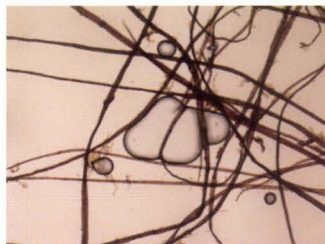
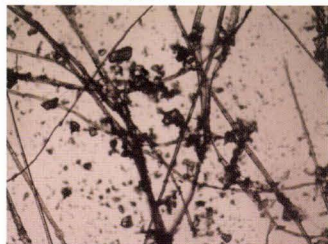
2. 兵庫県 F94 箔打ち紙



C 染色液の呈色は、オリーブ色～うすい青灰色に染色され雁皮の繊維です。

モノクロ写真中央部に手すき粘剤として使用されたとと思われるノリウツギの針状結晶が見られます。針状結晶は C 染色液で染色されません。箔打ち紙のため泥の粒子は大変細かく、染色後も残っているので、ケイ素やアルミニウムを多く含んだ泥(白土)と考えられます。

3. 奈良 C75 宇陀紙



繊維はこうぞで染色の呈色は、にぶい赤～うすい紫色を呈しています。

表具に使用される紙で、填料としてこうぞに地元産の白土を配合しています。

染色しないプレパレート写真では粒子の大きい白土が観察されます。

繊維に C 染色液を落として広げると、繊維は赤紫に呈色されますが、白土は染色液と反応して泡が発生し、小さな泡が集まって徐々に大きくなる様子が観察され、白土はなくなってしまいます。C 染色液はカルシウムとよく反応するのでカルシウム系白土と考えられます。

4. 愛媛県 E209 泉貨紙



5. 高知県 G198 典具帖紙



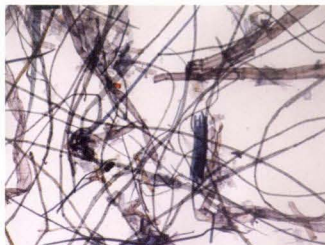
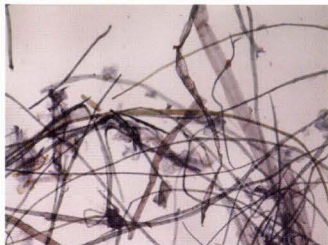
この繊維は薄膜に包まれ、先端は薄膜のみの部分もあり E209、G198 共に、にぶい赤～薄い紫色を呈しています。このことから、こうぞ繊維と判断されます。

C 染色液の呈色で G209 泉貨紙は青黒い点々が存在し、米粉を配合しています。米粉が集まった箇所を見ると、柔細胞などの非繊維物質と相性が良く、その箇所によく集まっています。

この紙は簀の上で 2 枚に合わされるので、出来上がった紙は、紙の両面とも簀の面になります。木工用のサンドペーパーの台紙や関取の荷物を入れる大きな竹籠にも貼ったようです。

一方 G198 典具帖紙は、原料処理時に網の張った竹籠に紙料を入れ、大量の水で洗うので柔細胞などの非繊維物質は殆ど洗い流され繊維ばかりになります。この紙はワックスなどで加工を施して使用する、タイプライター用でしたので、締まった紙で作ると、文字を打った際、紙に穴が開くため紙を柔らかく作るのが必要であったと考えられます。

6. 宮城県 D107



幅が最も広くて、うす紫に染色されている針葉樹の晒パルプ、中央部が膨らみオリーブ色に呈色しているみつまたが観察されます。また、青く呈色しているいねの繊維や鋸刃状の表皮細胞、導管、長形薄壁細胞なども観察されます。

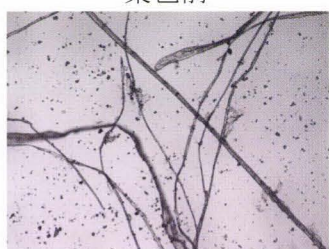
7. 石川県 G15



幅広で薄紫に呈色されている針葉樹の晒パルプ、黄茶色に染色されている針葉樹未晒しパルプが観察されます。また、濃赤紫色に呈色しているこうぞ繊維、青く呈色している稲繊維、青黒い点々の米粉なども観察されます。

8. 島根県 E57

染色前



染色後



モノクロ写真には全体に点々があって填料を配合しています。

染色の呈色は、薄い紫色の針葉樹パルプです。また、オリーブ色のみつまた、赤紫色で薄膜のあるこうぞ繊維も観察されます。

填料は染色するとカルシウム系のものは溶けてしまうので、少なくなっているものの、透明度のある点々で残っているものもあります。分析していませんがタルク(炭酸マグネシウム)のようなものかもしれません。

幅広のパルプ繊維の表面には煮て作った澱粉糊と思われる物質が多く付着しています。この紙は耳付き紙で、繊維のサンプリングは紙の端から行っています。紙の坪量は 88g/m² で障子紙の 2 倍以上の重さがあり、板張り乾燥時に紙の収縮で、未乾燥のまま剥がれる可能性があります。これを防ぐために、乾燥前の紙床の周りに煮た薄い糊を塗ることもあるので、この糊ではないかと思われます。

(4) 終わりに

写真はすべて 100 倍で撮影したので、掲載される写真サイズでは繊維の呈色や繊維の特徴は分かりづらいかと思われます。

繊維組成は少ない繊維を採取して微量の繊維を染色、顕鏡しているので、漉き返し紙及び配合紙は、繊維を見過ごしている可能性もあります。

補 注

1. KP は Kraft pulp の略称です。木材チップを苛性ソーダに硫化ソーダを加えた液で蒸煮して作るパルプ。未晒パルプはセメント袋、段ボールの表面、さらしはティッシュペーパーなど配合しています。
2. GP は Ground pulp の略称です。針葉樹木材の表皮を除いたものを回転すると砥石に押し当てて繊維を離解して作るパルプ。新聞紙に配合しています。蒸煮してリグニンや樹脂分など除いていないため、変色や老化が早い。

参考文献

註(1) 紙パルプの種類とその試験法 261～263 頁 紙パルプ技術協会 昭和 45 年発行

註(2) 非木材パルプ特集 6～7 頁 印刷局研究所 昭和 51 年発行

東京大学史料編纂研究成果報告 2021-12
東京大学史料編纂所一般共同研究報告書（2019 年度～ 2021 年度）

多可町立和紙博物館 壽岳文庫所蔵
寿岳文章和紙コレクション料紙調査研究

発 行 2022 年 3 月 31 日
研究代表者 湯山 賢一
編 集 安平 勝利
兵庫県多可郡多可町中区東山 539-3
多可町教育委員会 那珂ふれあい館
TEL0795-32-0685
印 刷 ウニスガ印刷株式会社
兵庫県西脇市野村町 471
